

平成28年度
「男女共同参画に関する市民意識と実態調査」
調査報告書

長野市

目 次

I	調査の概要	1
	1 調査の目的	
	2 調査の対象	
	3 抽出方法	
	4 調査の方法	
	5 調査時期	
	6 送付・回収状況	
	7 調査事項	
	8 調査票の集計	
	報告書の見方	
II	回答者の属性	5
III	結果の概要	13
IV	調査の結果	19
	一般的なこと	21
	就労に関することについて	45
	仕事と生活の調和に関することについて	57
	地域社会に関することについて	77
	男女の人権に関することについて	83
	男女共同参画施策に関することについて	91
	資 料	95
	単純集計	97
	自由意見	113
	調 査 票	125

I 調査の概要

1 調査の目的

長野市における男女共同参画に関する市民の意識と実態を調査し、男女共同参画施策の推進状況の把握と、今後の男女共同参画行政の推進のための資料を得ることを目的とする。

2 調査の対象

平成 28 年 10 月 17 日現在で長野市に在住する 20 歳以上 75 歳未満の男女各 1,000 人
(計：2,000 人)

3 抽出方法

長野市住民基本台帳より、単純無作為抽出

4 調査の方法

調査票を郵送し、個人へ記入を依頼。その後、返信用封筒（料金受取人払）により調査票を返送してもらう郵送調査法による（調査票は別紙のとおり）。

5 調査時期

平成 28 年 11 月 1 日（火） ～ 平成 28 年 11 月 18 日（金）

6 送付・回収状況

送付数：2,000 票

回収数：855 票（回収率：42.8%）【男性票：378 票、女性票：477 票】

7 調査事項

● 回答者の属性

A 性別 B 年齢 C 職業 D 家族 E 配偶者の有無 F 子の有無

- (1) 一般的な問題
- (2) 就労に関する問題
- (3) 仕事と生活の調和に関する問題
- (4) 地域社会に関する問題
- (5) 男女の人権に関する問題
- (6) 男女共同参画施策に関する問題
- (7) 自由記入

8 調査票の集計

電子計算機による集計（委託）

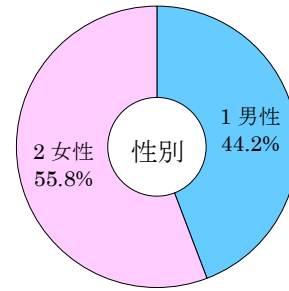
報告書の見方

- ①調査結果の数値は、原則として百分率で表記した。百分率の値は、小数点以下第 2 位を四捨五入し、小数点第 1 位まで表記している。従って、内訳を合計しても 100%に合致しない場合がある。
- ②アンケートへの回答は、単数回答と複数回答を求めた設問があり、複数回答を求めた設問では、比率の合計が 100%を上回る場合がある。
- ③属性別の結果については、特徴的なもの、資料として重要と思われるものについて分析した。なお、図表によっては、不明サンプルを表示していないため、標本数の合計が全体の標本数と異なる場合がある。
- ④設問中の選択肢の文字数が多いものについては、本文中や図表中において、便宜上短く省略している場合がある。

II 回答者の属性

A 性別

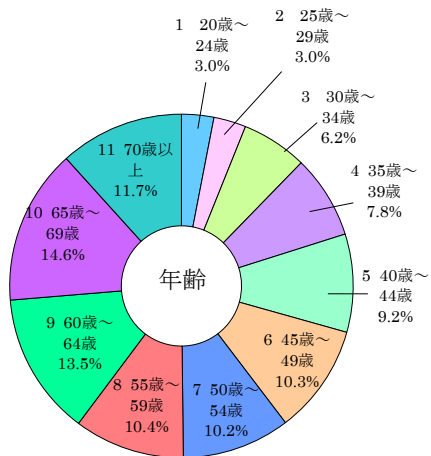
	回答者数 (人)	割合 (%)
1 男性	378	44.2%
2 女性	477	55.8%
合計	855	100.0%



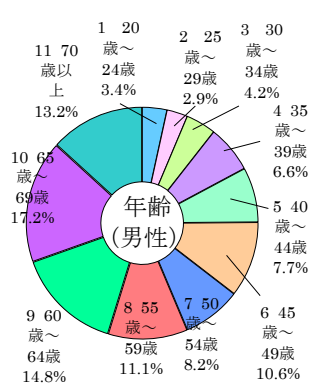
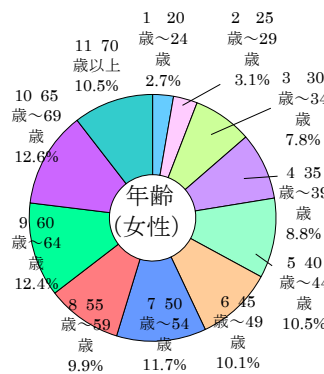
B 年齢

	回答者数 (人)			割合 (%)		
	全体	女性	男性	全体	女性	男性
1 20歳～24歳	26	13	13	3.0	2.7	3.4
2 25歳～29歳	26	15	11	3.0	3.1	2.9
3 30歳～34歳	53	37	16	6.2	7.8	4.2
4 35歳～39歳	67	42	25	7.8	8.8	6.6
5 40歳～44歳	79	50	29	9.2	10.5	7.7
6 45歳～49歳	88	48	40	10.3	10.1	10.6
7 50歳～54歳	87	56	31	10.2	11.7	8.2
8 55歳～59歳	89	47	42	10.4	9.9	11.1
9 60歳～64歳	115	59	56	13.5	12.4	14.8
10 65歳～69歳	125	60	65	14.6	12.6	17.2
11 70歳以上	100	50	50	11.7	10.5	13.2
合計	855	477	378	100.0	100.0	100.0

【全体】



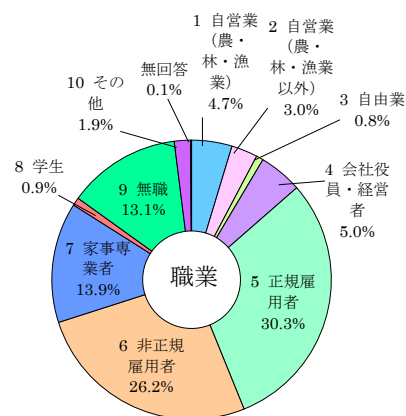
【男女別】



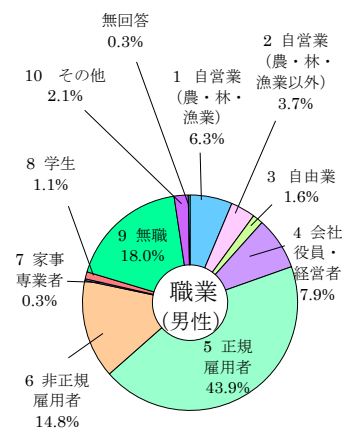
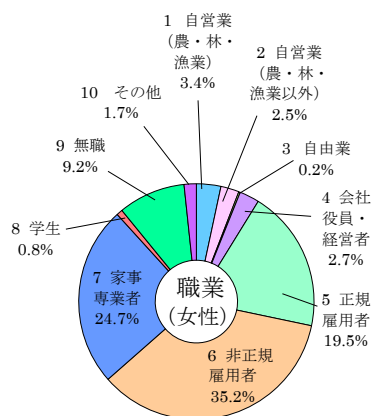
C 職業

	回答者数 (人)			割合 (%)		
	全体	女性	男性	全体	女性	男性
1 自営業 (農・林・漁業)	40	16	24	4.7	3.4	6.3
2 自営業 (農・林・漁業以外)	26	12	14	3.0	2.5	3.7
3 自由業	7	1	6	0.8	0.2	1.6
4 会社役員・経営者	43	13	30	5.0	2.7	7.9
5 正規雇用者	259	93	166	30.3	19.5	43.9
6 非正規雇用者	224	168	56	26.2	35.2	14.8
7 家事専業者	119	118	1	13.9	24.7	0.3
8 学生	8	4	4	0.9	0.8	1.1
9 無職	112	44	68	13.1	9.2	18.0
10 その他	16	8	8	1.9	1.7	2.1
無回答	1	0	1	0.1	0.0	0.3
合計	855	477	378	100.0	100.0	100.0

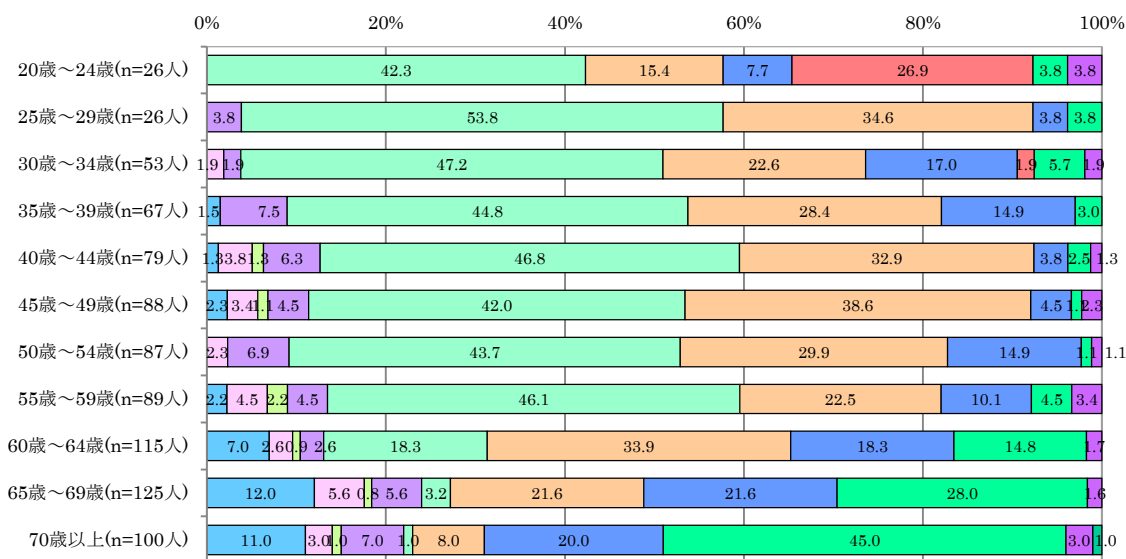
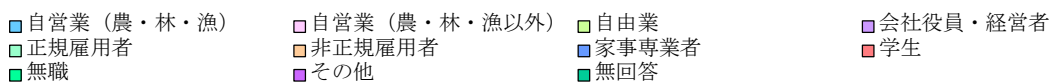
【全体】



【男女別】



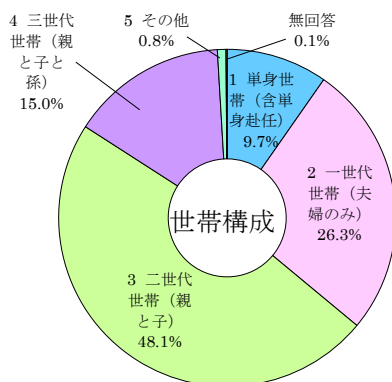
【年代別】



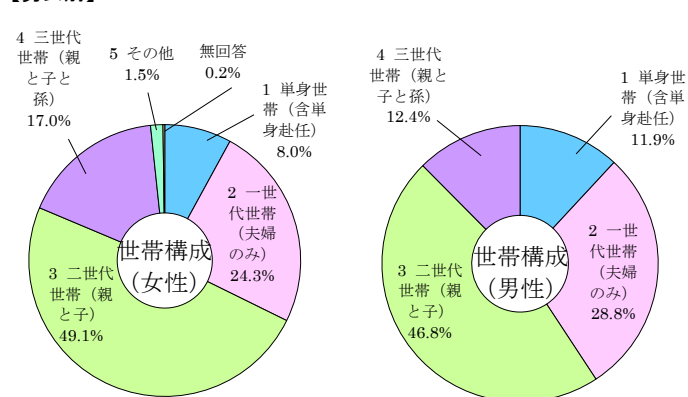
D あなたのご家族の構成（世帯構成）について教えてください。

	回答者数（人）			割合（％）		
	全体	女性	男性	全体	女性	男性
1 単身世帯（含単身赴任）	83	38	45	9.7	8.0	11.9
2 一世代世帯（夫婦のみ）	225	116	109	26.3	24.3	28.8
3 二世世代世帯（親と子）	411	234	177	48.1	49.1	46.8
4 三世世代世帯（親と子と孫）	128	81	47	15.0	17.0	12.4
5 その他	7	7	0	0.8	1.5	0.0
無回答	1	1	0	0.1	0.2	0.0
合計	855	477	378	100.0	100.0	100.0

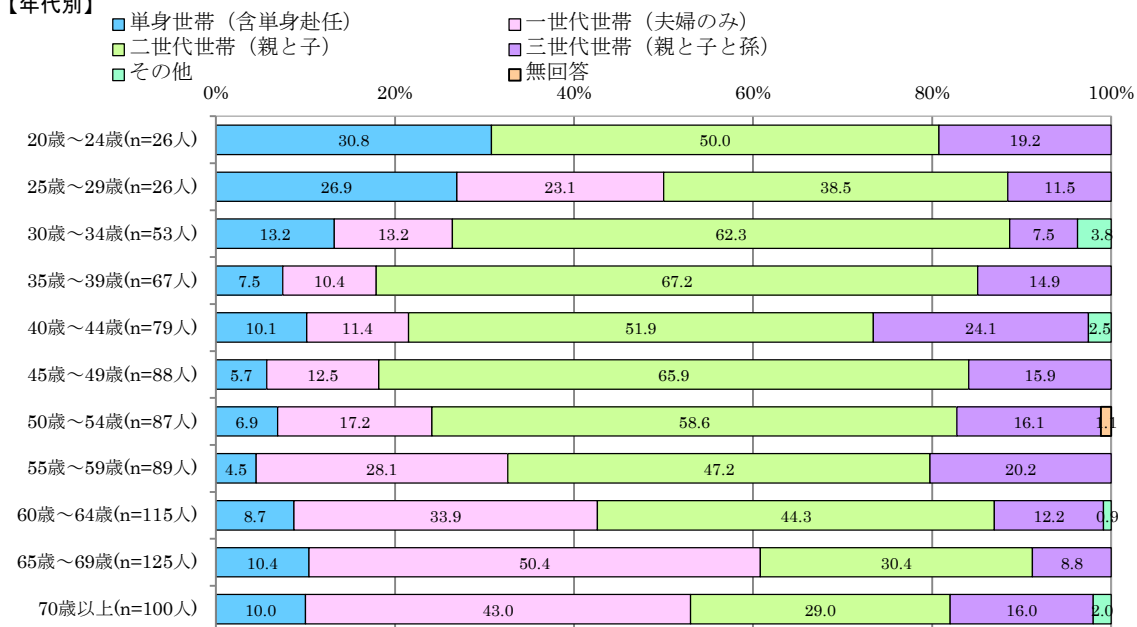
【全体】



【男女別】



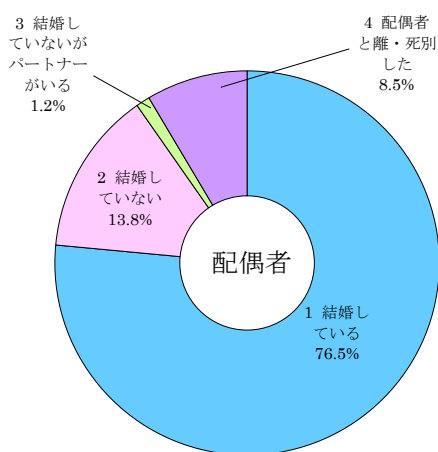
【年代別】



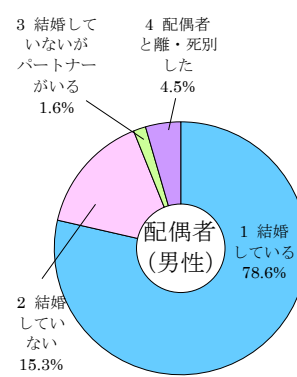
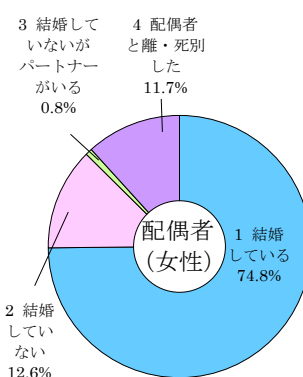
E あなたは現在、結婚していますか。

	回答者数（人）			割合（%）		
	全体	女性	男性	全体	女性	男性
1 結婚している	654	357	297	76.5	74.8	78.6
2 結婚していない	118	60	58	13.8	12.6	15.3
3 結婚していないがパートナーがいる	10	4	6	1.2	0.8	1.6
4 配偶者と離・死別した	73	56	17	8.5	11.7	4.5
合計	855	477	378	100.0	100.0	100.0

【全体】

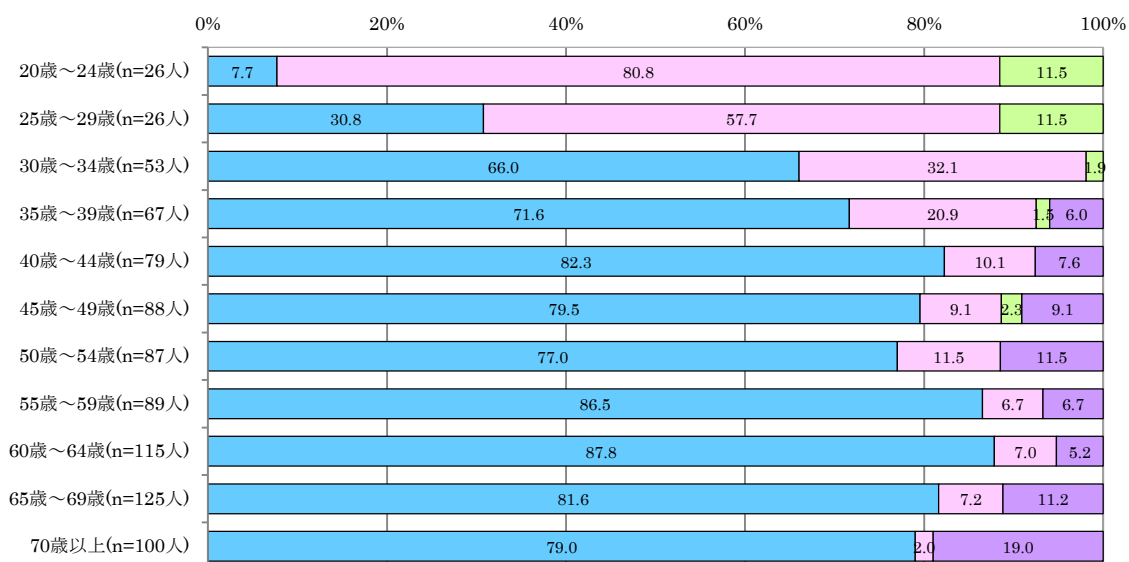


【男女別】



【年代別】

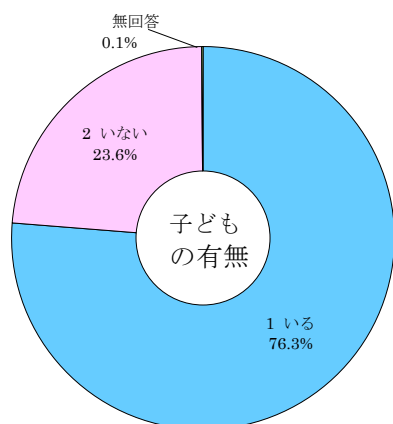
■ 結婚している ■ 結婚していない ■ 結婚していないがパートナーがいる ■ 配偶者と離・死別した



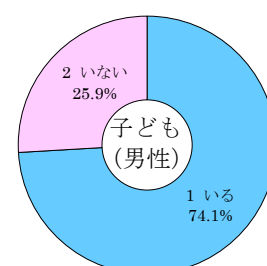
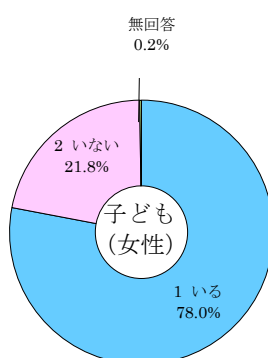
F あなたにお子さんはいらっしゃいますか。

	回答者数（人）			割合（％）		
	全体	女性	男性	全体	女性	男性
1 いる	652	372	280	76.3	78.0	74.1
2 いない	202	104	98	23.6	21.8	25.9
無回答	1	1	0	0.1	0.2	0.0
合計	855	477	378	100.0	100.0	100.0

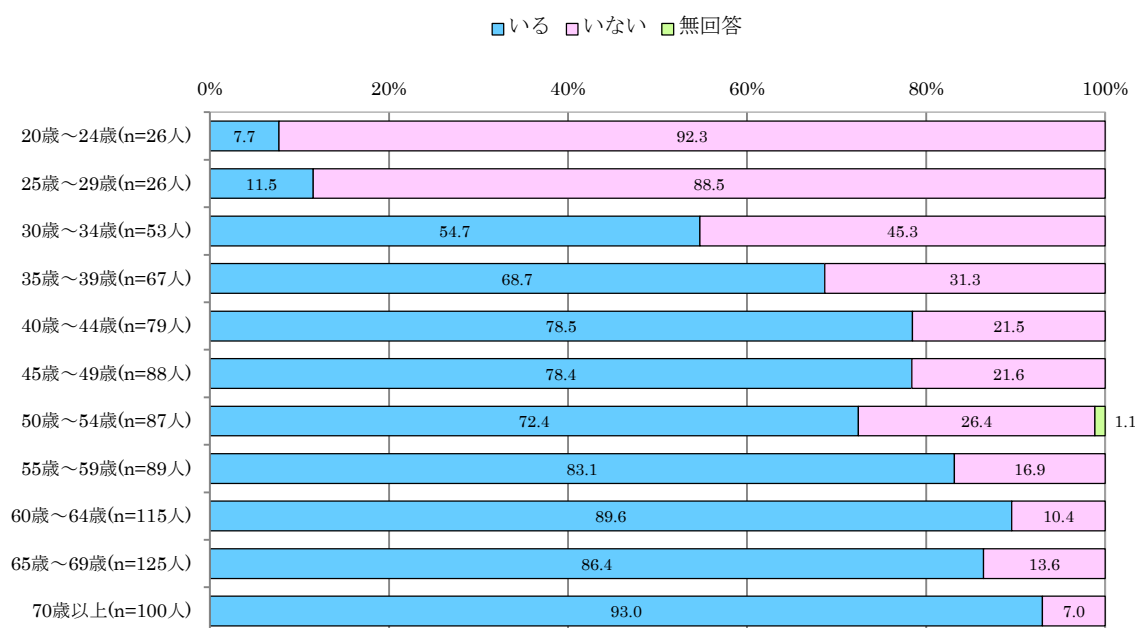
【全体】



【男女別】



【年代別】



Ⅲ 結果の概要

1 一般的なこと

(1) 社会における男女の扱いについて

「家庭」、「学校教育」、「地域社会」、「職場」、「法律や制度」、「習慣・しきたり」、「政治」、「社会全体」の8つの分野に関して、男女は平等になっているかを尋ねたところ、「平等である」と考えている割合が高いのは、「学校教育」(52.7%)、「家庭」(47.6%)の2分野であった。それ以外の分野では「男性が優位」という回答が最も多くなっている。特に「習慣・しきたり」、「政治」、「社会全体」では「男性が優位」という回答が7割を超えている。

分野別でみると、「家庭」においては、全体では「平等である」(47.6%)という回答が最も多かったが、「男性が優位」という回答は、男性が19.0%、女性が39.6%となり、性別による感じ方に差がある。同様に、「法律や制度」においても、「男性が優位」という回答は、男性が27.5%なのに対し、女性は50.3%と最も多い回答となっている。また、「地域社会」、「職場」、「習慣・しきたり」、「政治」、「社会全体」といった分野でも、「男性が優位」という回答が多く、男女とも約5割～8割となっている。

(2) 男女共同参画に関する用語について

「男女共同参画社会」、「ジェンダー(社会的差別)」、「女子差別撤廃条約」、「男女雇用機会均等法」、「長野市男女共同参画推進条例」、「長野市男女共同参画センター」、「女性活躍推進法」の7つの用語の認知度を尋ねたところ、「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合の合計が高いのは、「男女雇用機会均等法」(93.1%)と「男女共同参画社会」(79.3%)、「ジェンダー(社会的差別)」(66.6%)の3つとなっている。それ以外の用語の認知度は、いずれも5割を下回っている。

用語別では、いずれの用語においても性別による認知度の差は少ない。「男女雇用機会均等法」はすべての年代、性別においても8割以上の認知度となっている。

(3) 固定的性別役割分担意識について

「男性は仕事、女性は家事・育児」という考え方について、「賛成」及び「どちらかといえば賛成」という回答割合の合計は33.5%、一方、「反対」及び「どちらかといえば反対」という回答割合の合計は65.5%となっている。前年に比べ、前者は8.4ポイント減少し、後者は8.7ポイント増加した。平成22年度調査から、「反対」、「どちらかといえば反対」という回答の合計が、半数を上回り、その差は徐々に大きくなっている。年代別でみると、50歳代の男女、20歳代、35歳～39歳、50歳代、60歳～64歳の女性と、25歳～29歳、50歳代の男性で「賛成」がいない結果となっている。

また、女性が働くことへの考え方に関しては、男女ともに「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が最も多い回答となっている。

2 就労に関することについて

(1) 職場における男女の平等について

職場における「賃金」、「昇進や昇格」、「仕事の内容」、「研修の機会や内容」、「経験や能力を発揮する機会」の5つに関して、男女が平等であるかを尋ねたところ、「昇進や昇格」以外の項目では「平等である」という回答が最も多くなっている。「昇進や昇格」に関しては、「男性の方が優遇されている」という回答が最も多く、「女性の方が優遇されている」という回答が最も多いのは、「仕事の内容」となっている。また、「賃金」に関しては、「女性の方が優遇されている」という回答がないという結果となっている。

(2) 離職の原因（理由）について

離職の原因（理由）について尋ねたところ、「結婚・出産」という回答が、全体で 50.4% となっているが、男性が 11.7% なのに対し、女性は 69.3% となり、性別により差がある。

(3) 女性の就労について

女性が意欲をもって働き続けるために何が必要か尋ねたところ、「職場の理解や協力」(45.7%) が最も多い回答となっており、次いで「家族の理解や協力」(42.7%)、「育児・介護休業制度の充実」(34.7%) と続いている。

離職した女性が再就職を希望する場合、どのような支援や対策が必要だと思うか尋ねたところ、「子育てや介護をしながら働ける労働環境の整備」(77.5%) が最も多い回答となっており、次いで「離職しても同一企業に再雇用されるようにすること」(54.4%)、「保育所などの保育施設の充実」(47.1%) と続いている。

3 仕事と生活の調和に関することについて

(1) ワーク・ライフ・バランスの認知度について

「ワーク・ライフ・バランス」という言葉の認知度については、「言葉も内容も知っている」という回答が、全体の 28.1% となっており、認知度は依然として低い。「言葉も内容も知っている」という回答は、男性が 35.4% と女性の 22.2% より多くなっている。

(2) 理想とする生活と、現実の生活について

「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活」の優先度について、理想とする生活と、現実の生活について尋ねたところ、理想とする生活としては、『仕事』と『家庭生活』をともに優先が最も多い回答となった。現実の生活では、『家庭生活』優先で最も多い回答となっている。しかし、『家庭生活』優先では、女性が 40.0% と多く回答しており、男性は 10.8% となっている。全体では『仕事』優先が『家庭』優先より若干少ないが、どちらも男女間での差が大きくなっている。

(3) 家事と育児・介護について

「掃除」、「洗濯」、「食料品、日用品などの買物」、「食事のしたく」、「食事の後かたづけ」、「ごみ捨て」の 6 つの分野に関して尋ねたところ、「主に自分がしている」と答えた割合が最も高いのは、男性では、「ごみ捨て」(40.5%)、女性では、「食事のしたく」(78.9%)、「洗濯」(78.4%) であった。「していない」と答えた割合が最も高いのは、男性では、「食事のしたく」(48.3%)、「洗濯」(44.1%) で、女性では、「ごみ捨て」(12.5%) であった。

また、男性は、「掃除」、「食料品、日用品などの買物」、「食事の後かたづけ」については、「自分は手伝い程度している」という回答割合が 4 割を超えている。

育児に関しては、「主に自分がしている」、「自分と家族が同じ程度している」という回答割合の合計は、男性は 23.2%、女性は 62.1% と差が大きい。介護に関しては男性が 21.5%、女性が 29.1% と育児より差が小さい。

「育児・介護休業制度」に関しても、「利用しにくい雰囲気があるから」(58.2%)、「主たる家計の稼ぎ手は男性だから」(49.5%)、「職場や同僚に迷惑がかかるから」(40.8%)、「男性で制度を利用する人がほとんどいないから」(40.8%) といった理由で利用が進まない状況となっている。

4 地域社会に関することについて

自治会やPTAなど地域の活動における現状と女性の参画について

自治会やPTAで、性別によって決められている事例があるか尋ねたところ、「そうである」という回答が多かったのは、「自治会やPTAの責任ある役職はほとんどが男性である」で、48.3%となっている。一方、「そうではない」という回答は、「役員や組織の運営事項は男性だけで決めている」44.2%、「女性が責任ある役職につこうとすると、男性や他の女性から反対される」38.1%となっている。

女性が地域の重要な方針決定の場に参画するためにはどうすればよいか尋ねたところ、「積極的改善措置（ポジティブ・アクション）は導入しないが、男性中心の役員構成ではなく、女性も活躍できるような組織づくりを導入すること」が最も回答割合が高く、4割（40.7%）を超えている。次いで、「役員の中かの女性の割合を定めるなどの、積極的改善措置（ポジティブ・アクション）を導入すること」（20.4%）と「女性が積極的に役職につく意識をもつこと」（17.0%）と続いている。

5 男女の人権に関することについて

DV（ドメスティック・バイオレンス）について

DVを受けた又はしたことがあるか尋ねたところ、「受けたことがある」と答えた割合は、男性が25.7%に対し、女性は40.0%と男性の2倍近くになっている。項目別でみると、「大声で怒鳴る」については、男性で「したことがある」という回答が24.6%、女性では「受けたことがある」という回答が15.9%と比較的多くなっている。

DVにあったときの相談窓口として、知っているという回答が最も多かったのは、「県警（地域安全推進係）」で約4割（45.7%）となっている。次いで、「児童虐待・DV24時間ホットライン」（25.8%）、「長野市福祉事務所」（22.0%）の順となる。

DVに対する考え方は、「どんな場合でも重大な人権侵害にあたると思う」が最も多く、約5割（48.8%）となっている。

6 男女共同参画施策に関することについて

（1）長野市議会及び住民自治協議会への女性の参画について

長野市議会及び住民自治協議会の女性議員・役員の数についての考えを尋ねたところ、「現在より少し増えた方がよい」（35.4%）という回答が最も多くなっている。次いで、「現在より大幅に増えた方がよい」（30.4%）が続いており、合わせて65.8%の方が「増えた方がよい」と考えている。

（2）男女共同参画社会実現へ向けた行政に期待することについて

行政に期待することについては、「育児や介護に関するサービスの充実」（52.3%）が最も多くなっている。次いで、「法律や制度の見直しによる女性に不利なものの改善」（38.9%）、「学校教育や社会教育の場で男女の人権を尊重する学習の充実」（30.1%）の順で続いている。

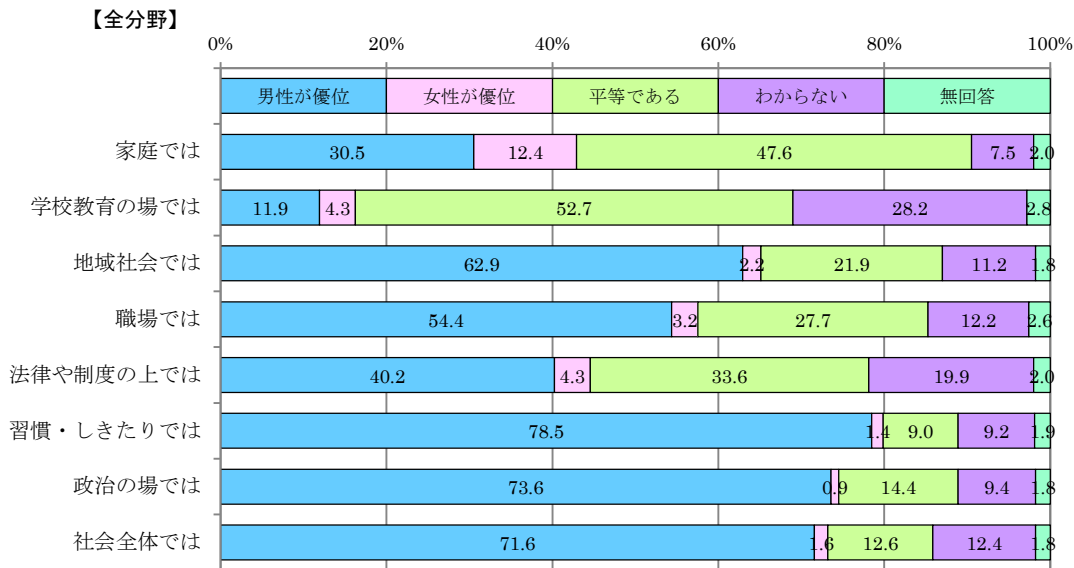
IV 調査の結果

一般的なこと

問1 あなたは次にあげる分野で男女は平等になっていると思いますか。
それぞれ1つずつお選びください。

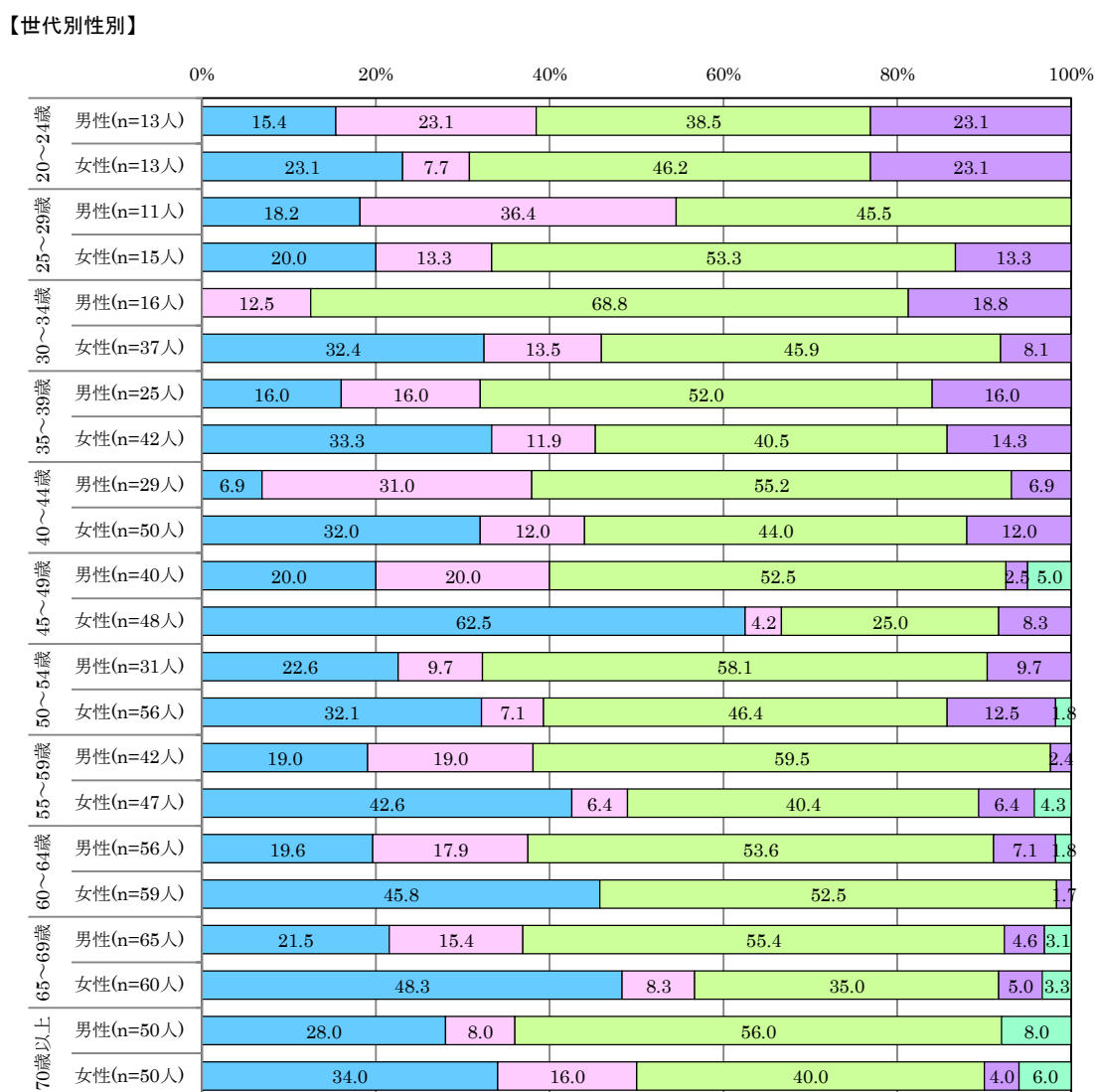
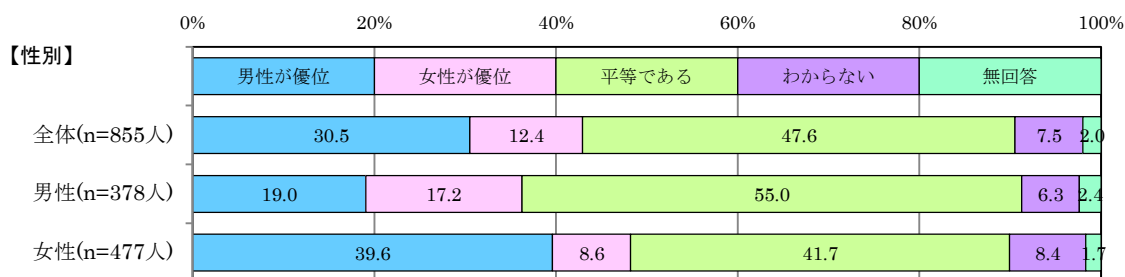
- ・「平等である」と考えている割合が高いのは、「学校教育」(52.7%)、「家庭」(47.6%)、「法律や制度」(33.6%)の3分野となっている。
- ・一方、「地域社会」(62.9%)、「習慣・しきたり」(78.5%)、「政治」(73.6%)、「社会全体」(71.6%)では、「男性が優位」と言う回答がいずれも6割以上で最も多い回答となっている。なかでも「習慣・しきたり」(78.5%)、「政治」(73.6%)、「社会全体」(71.6%)では7割を超えており、その他の分野に比べて「男性が優位」という回答が多い。

全体 (n=855人)



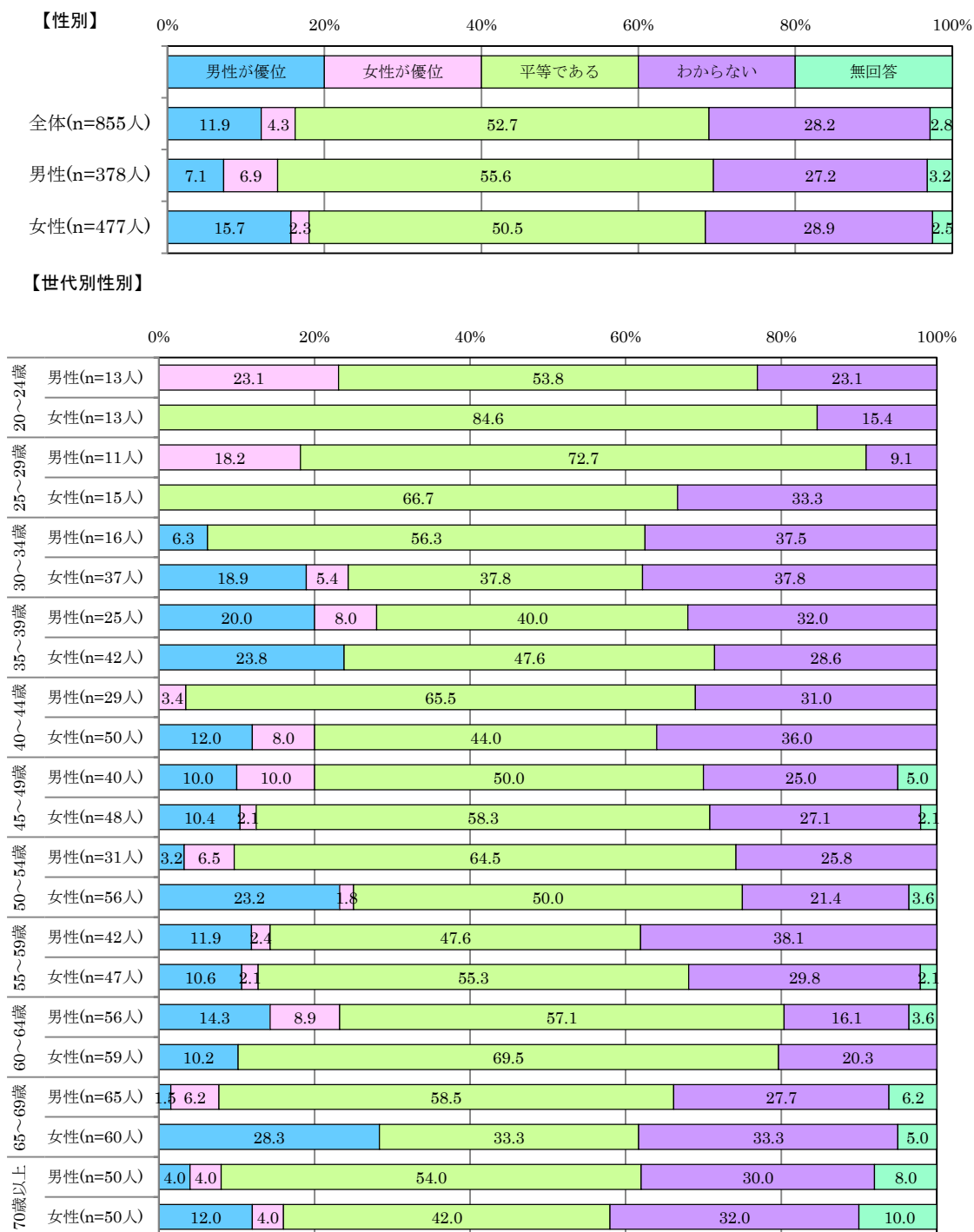
1 家庭では

- 性別でみると、男性は、「平等である」(55.0%)という回答が最も多く、5割を超えている。女性は約4割(41.7%)となり、最も多い回答となっている。「男性が優位」という回答は、男性においては約2割(19.0%)となっているが、女性では約4割(39.6%)となっている。
- 世代別性別でみると、「男性が優位」という回答は、女性では45歳～49歳で多く、回答割合が6割(62.5%)を超えている。男性では、全ての年代で「平等である」という回答が最も多い。



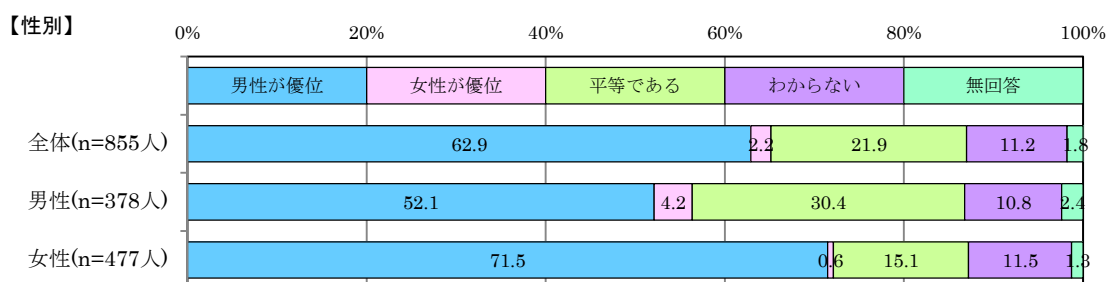
2 学校教育の場では

- ・性別でみると、男女とも「平等である」という回答が最も多く、男性（55.6%）、女性（50.5%）とともに5割を超えている。「男性が優位」という回答は、男性よりも女性の方が多くなっている。
- ・世代別性別でみると、いずれの世代でも「平等である」という回答が最も多くなっている。「男性が優位」という回答は、65歳～69歳の女性で約3割（28.3%）となり、そのほかの世代に比べ高い回答割合となっている。また、20歳代、35歳～39歳、60歳代の女性と、30歳～34歳の男性においては、「女性が優位」という回答はなしとなっている。20歳代の女性においては、「男性が優位」、「女性が優位」という回答はなしとなっている。

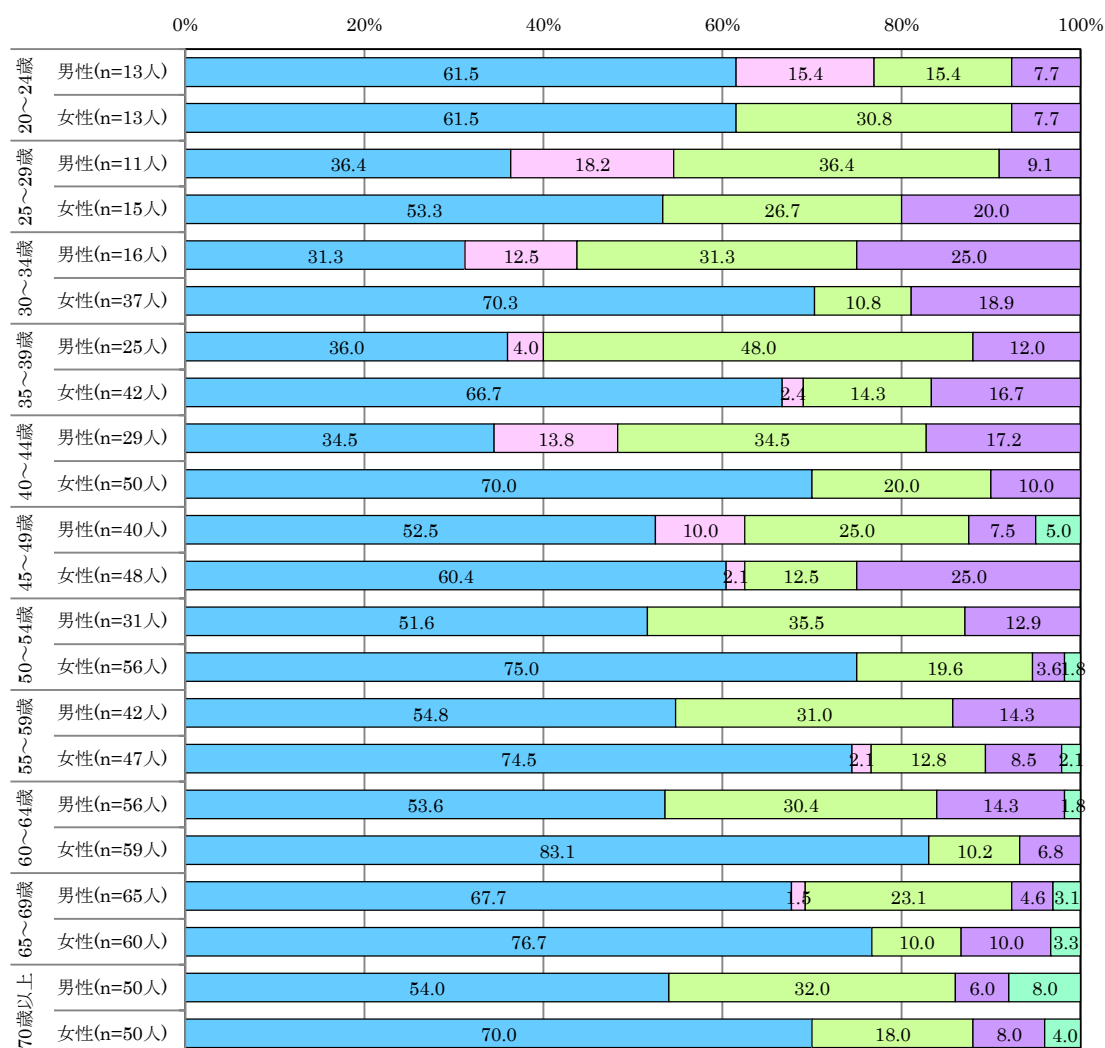


3 地域社会では

- ・性別でみると、男女とも「男性が優位」という回答が最も多く、男性は約5割（52.1%）、女性は7割（71.5%）を超えている。一方、「平等である」という回答は男性が約3割（30.4%）なのに対し、女性が約2割（15.1%）となっている。
- ・世代別性別でみると、25歳～29歳、30歳代、40歳～44歳の男性を除いて、いずれも「男性が優位」という回答が最も多い回答となっている。なかでも50歳代以上の女性においては「男性が優位」という回答が7割を超えている。

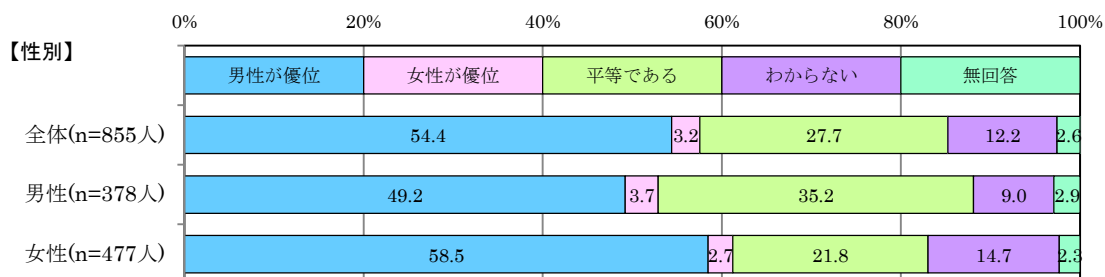


【世代別性別】

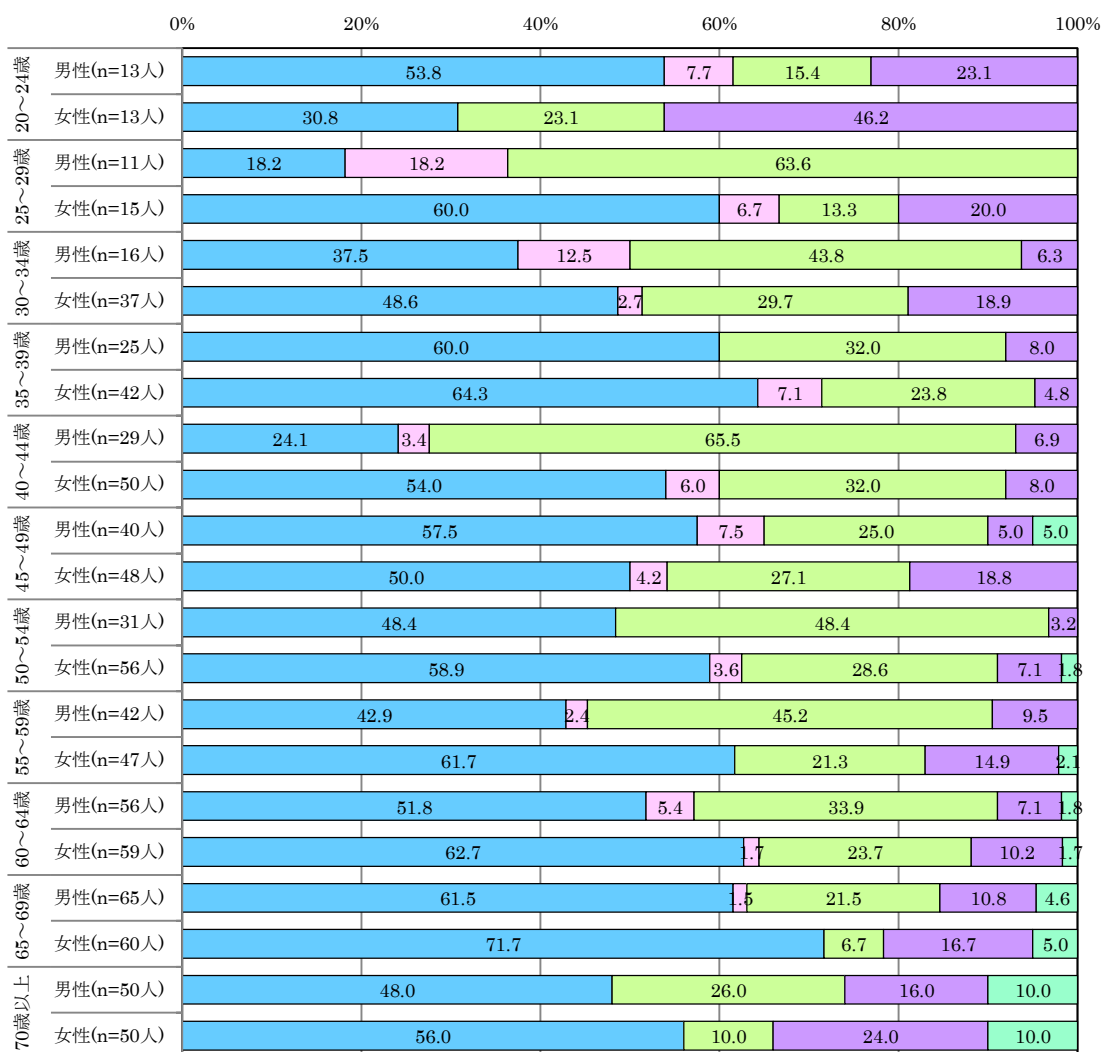


4 職場では

- 性別で見ると、男女とも「男性が優位」という回答が最も多く、男女ともに約5割となっている。「平等である」という回答は、男性の約4割（35.2%）に対し、女性は約2割（21.8%）となっている。
- 世代別性別で見ると、25歳～29歳、40歳～44歳の男性においては「平等である」という回答が最も多く、6割を超えている。65歳～69歳の女性では、「男性が優位」という回答が最も多くなっており、7割（71.7%）を超えている。

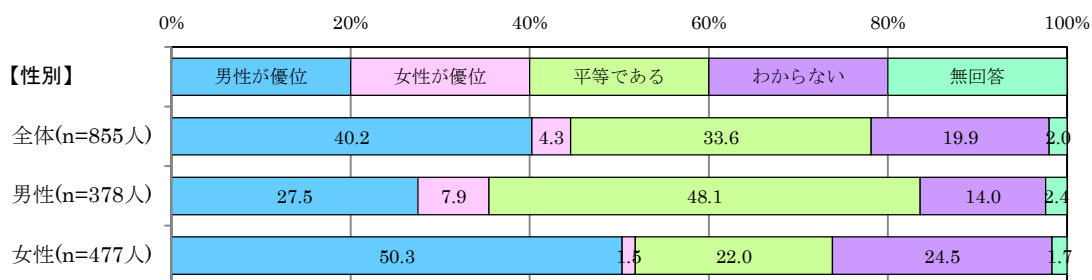


【世代別性別】

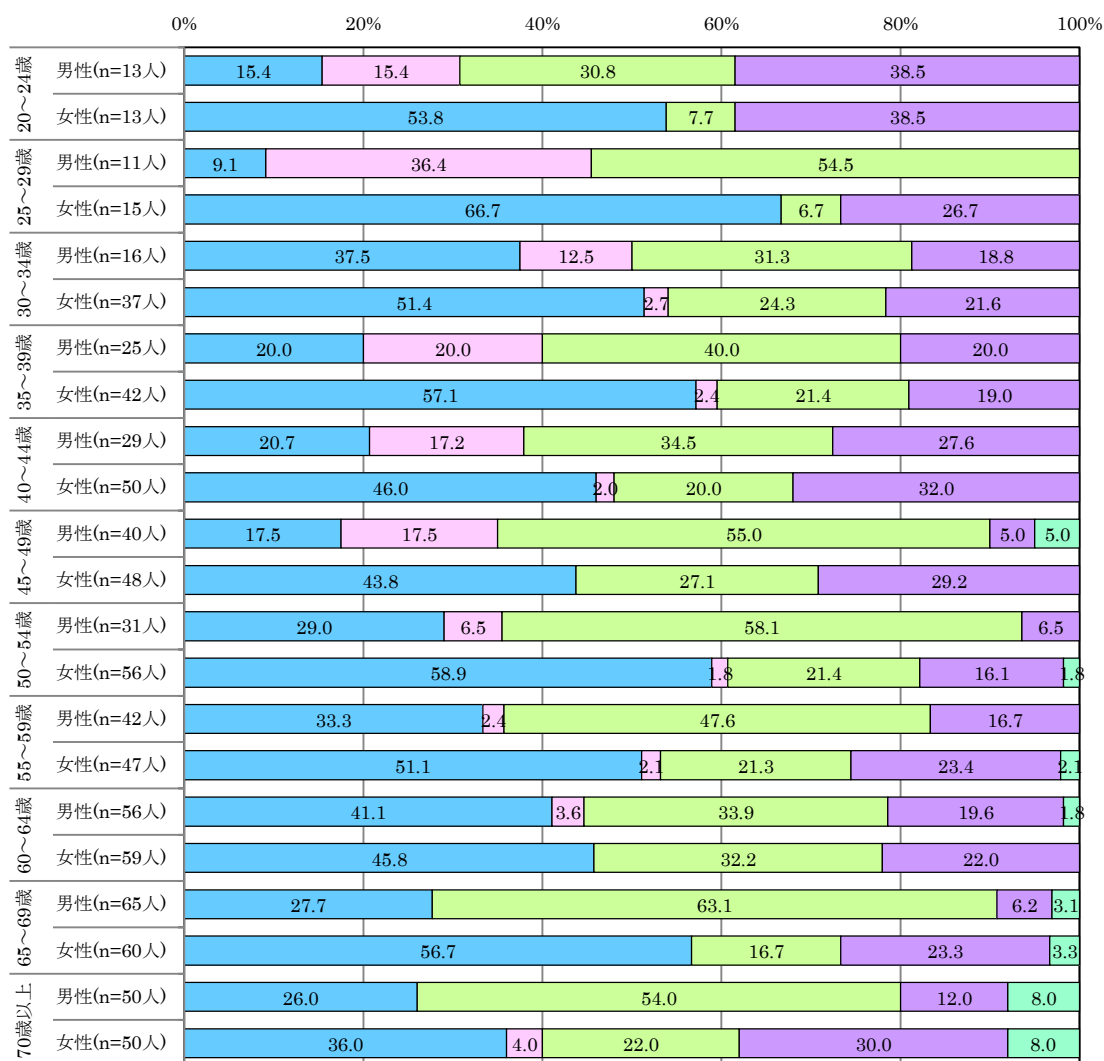


5 法律や制度の上では

- ・性別でみると、男性では「平等である」という回答が最も多く、5割（48.1%）を超えている。一方、女性は「男性が優位」（50.3%）という回答が、「平等である」（22.0%）という回答を上回っている。法律や制度については男女間で感じ方に差があると考えられる。
- ・世代別性別でみると、男性では、30歳～34歳、60歳～64歳以外の世代で、「平等である」という回答が最も多くなっている。65歳～69歳、70歳以上で、「女性が優位」という回答はなしとなっている。
- ・女性においては、25歳～29歳で、「男性が優位」という回答が約7割（66.7%）となっている。20歳代、45歳～49歳、60歳代で、「女性が優位」という回答はなしとなっている。

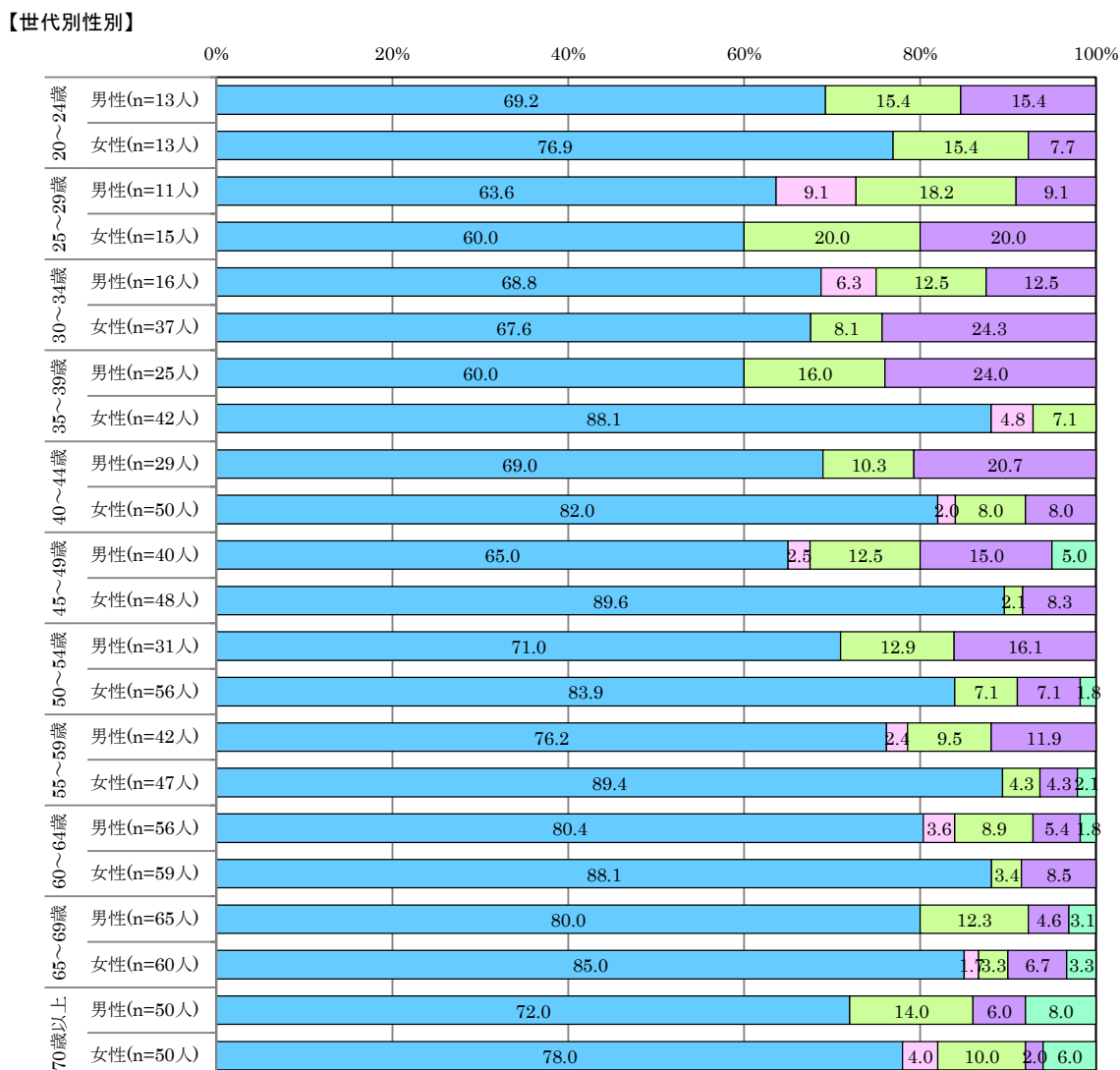
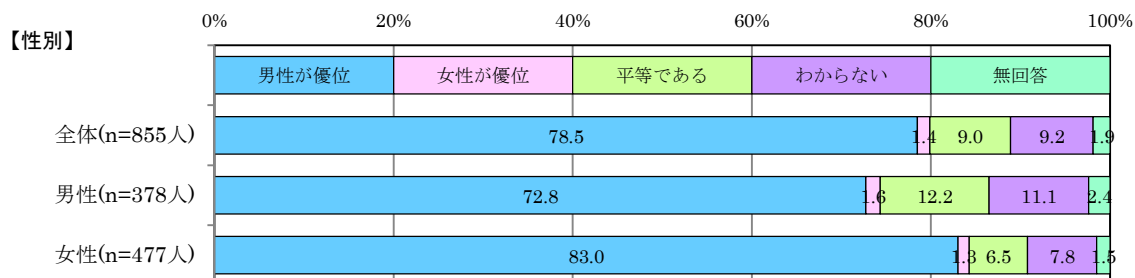


【世代別性別】



6 習慣・しきたりでは

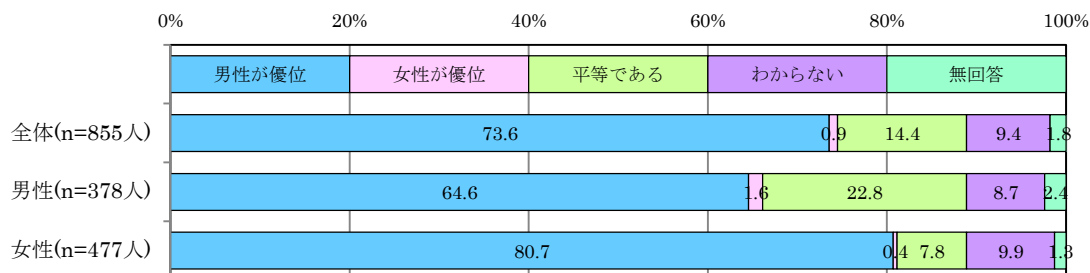
- ・性別では、男女とも「男性が優位」という回答が最も多く、男性（72.8%）、女性（83.0%）と、ともに7割を超えている。
- ・世代別性別でみると、女性では、20歳代、30歳～34歳、70歳以上を除き、「男性が優位」という回答がいずれも8割以上となっている。
- ・男性においては、60歳代で「男性が優位」という回答が8割を超えている。



7 政治の場では

- ・性別で見ると、男性は約6割（64.6%）、女性は約8割（80.7%）の方が、「男性が優位」と回答している。「平等である」という回答は、男性が約2割（22.8%）なのに対して、女性は1割未満（7.8%）となっている。
- ・世代別性別で見ると、いずれの世代においても「男性が優位」という回答が最も多くなっている。特に、25歳～29歳の女性においては93.3%と極めて高い。

【性別】

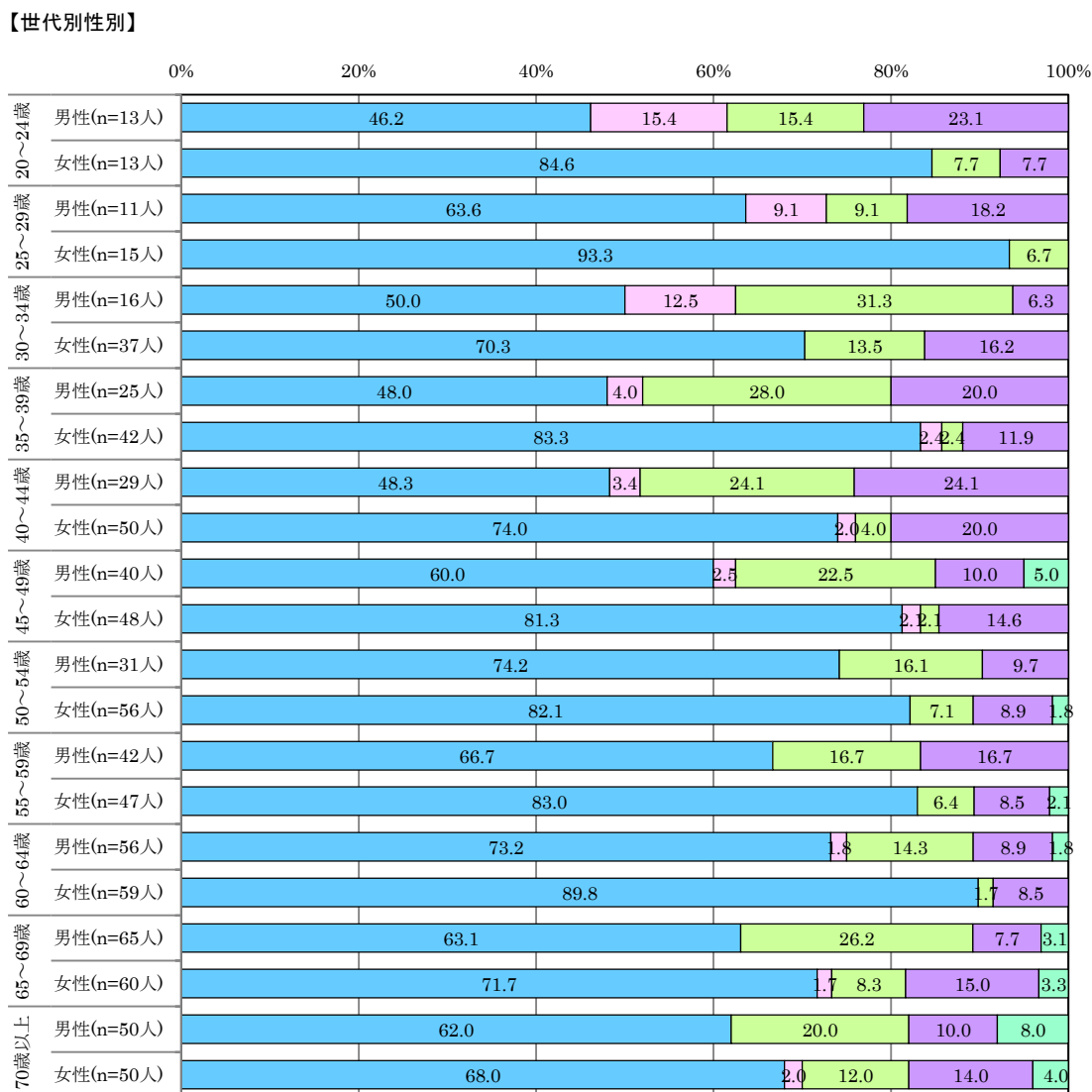
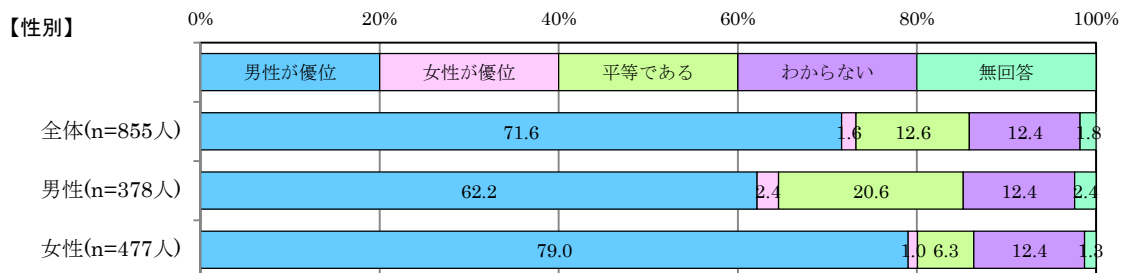


【世代別性別】



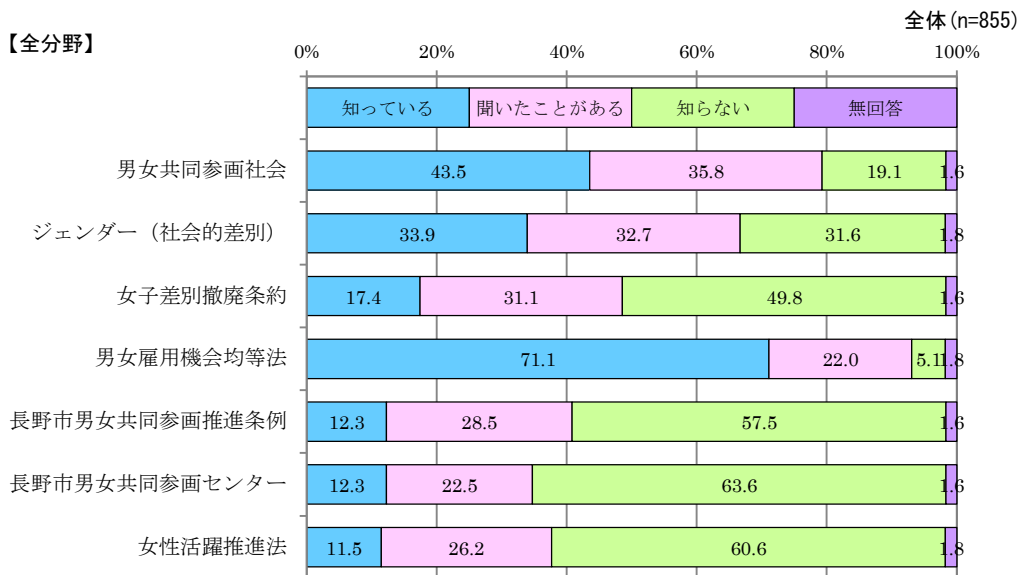
8 社会全体では

- ・性別でみると、男女とも「男性が優位」という回答が最も多いが、男性が約6割（62.2%）、に対し、女性は約8割（79.0%）となっている。
- ・「平等である」という回答は、男性が約2割（20.6%）、女性が約1割未満（6.3%）となる。社会全体においても男性が優位であると感じている割合が高くなっている。
- ・世代別性別でみると、いずれの世代においても「男性が優位」という回答が最も多い。



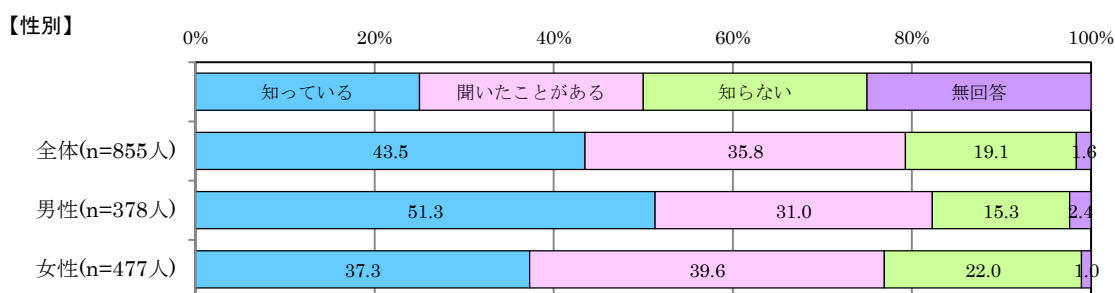
問2 次の言葉やことがらについて、知っているか、または聞いたことがありますか。
それぞれ1つずつお選びください。

- ・「知っている」及び「聞いたことがある」という回答を合計すると、「男女雇用機会均等法」は約9割（93.1%）となり、高い回答割合となっている。次いで、「男女共同参画社会」も約8割（79.3%）と認知度が高い。「ジェンダー（社会的差別）」は約7割（66.6%）、「女子差別撤廃条約」が約5割（48.5%）、「長野市男女共同参画推進条例」（40.8%）と、「女性活躍推進法」（37.7%）が約4割となっている。



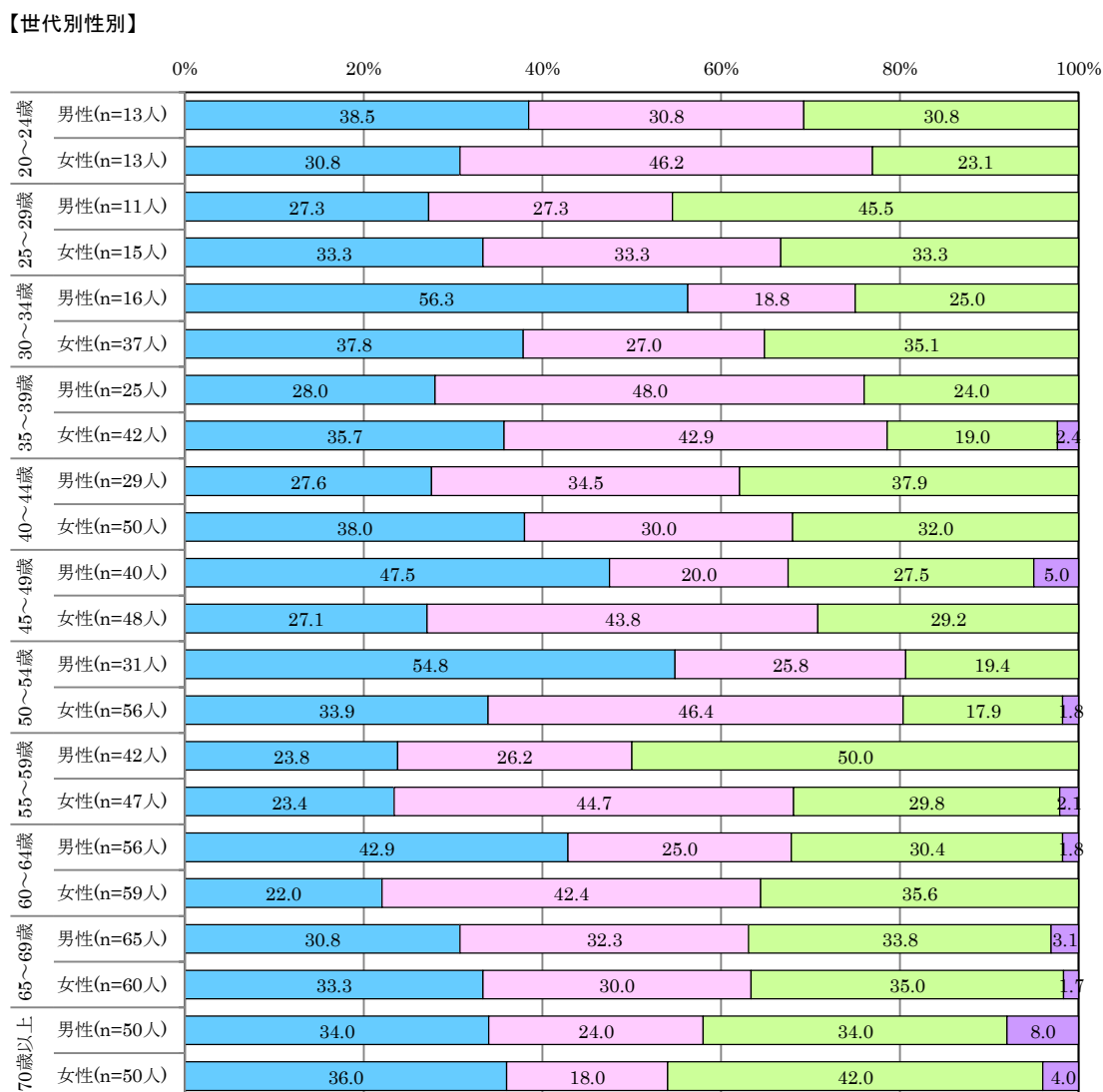
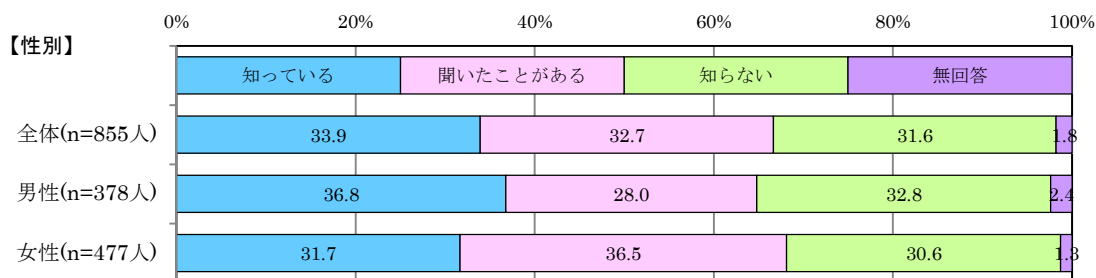
1 男女共同参画社会

- ・性別では、男女とも「知っている」及び「聞いたことがある」の回答の合計が、約8割となっている。
- ・世代別性別で見ると、男性は20歳～24歳で、「知っている」及び「聞いたことがある」という回答の合計が、約9割(92.3%)となっている。一方、女性は25歳～29歳、30歳～34歳の世代で、「知らない」が約4割となっている。



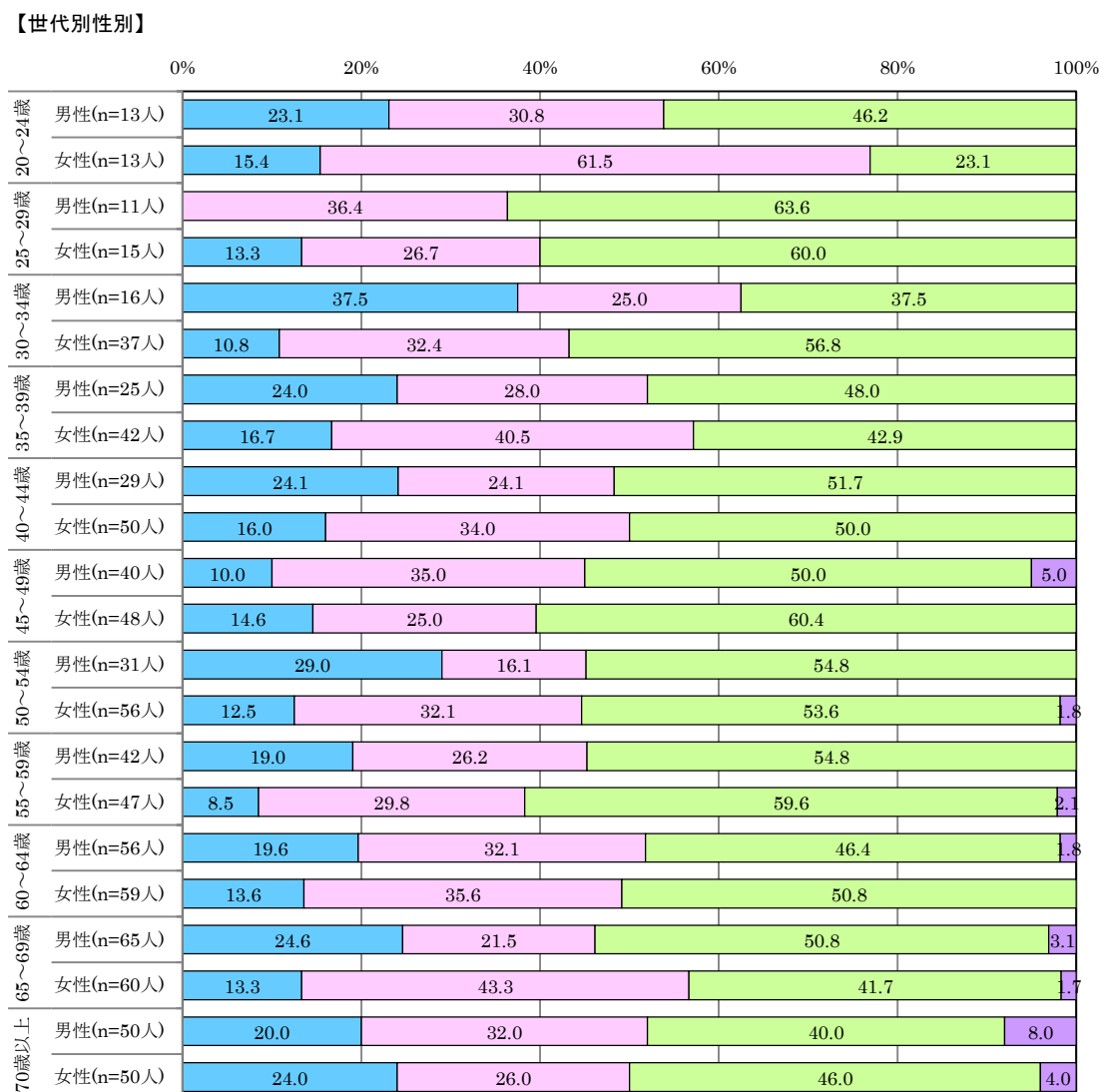
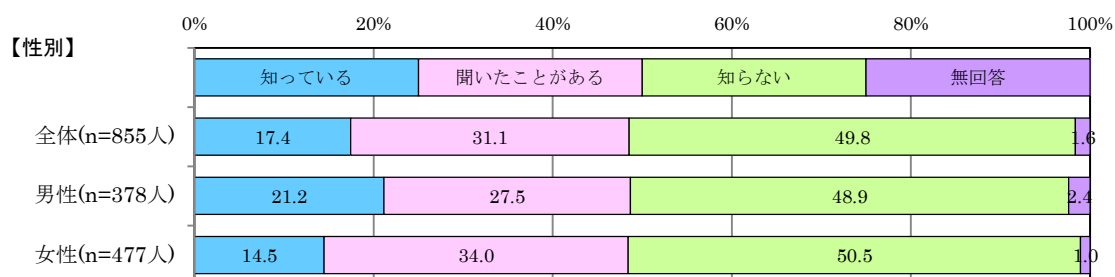
2 ジェンダー（社会的差別）

- ・性別でみると、男性では、「知っている」という回答が36.8%で最も多い回答となっている。女性では、「聞いたことがある」が36.5%で最も多い回答となっている。
- ・「知っている」及び「聞いたことがある」という回答の合計は、男性が64.8%、女性が68.2%となり、女性の方が男性よりやや回答割合が高くなっている。
- ・世代別性別でみると、男性では50歳～54歳で「知っている」及び「聞いたことがある」という回答の合計が80.6%となっている。女性も50歳～54歳で80.3%となっている。男性の55歳～59歳では、「知らない」が5割となっている。



3 女子差別撤廃条約

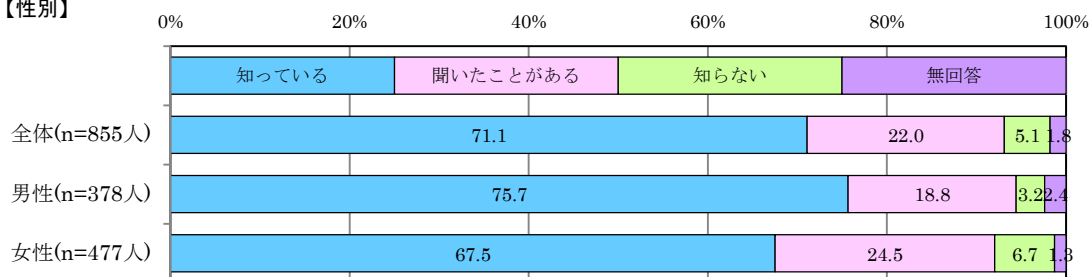
- ・性別でみると、「知らない」という回答が男女とも最も多く、男性が48.9%、女性が50.5%となっている。
- ・「知っている」及び「聞いたことがある」という回答の合計は、男性が48.7%、女性が48.5%で、ほぼ同じ割合になっている。
- ・世代別性別でみると、「知っている」及び「聞いたことがある」という回答の合計は、男性では30歳～34歳で62.5%、女性では20歳～24歳で76.9%と最も多くなっている。



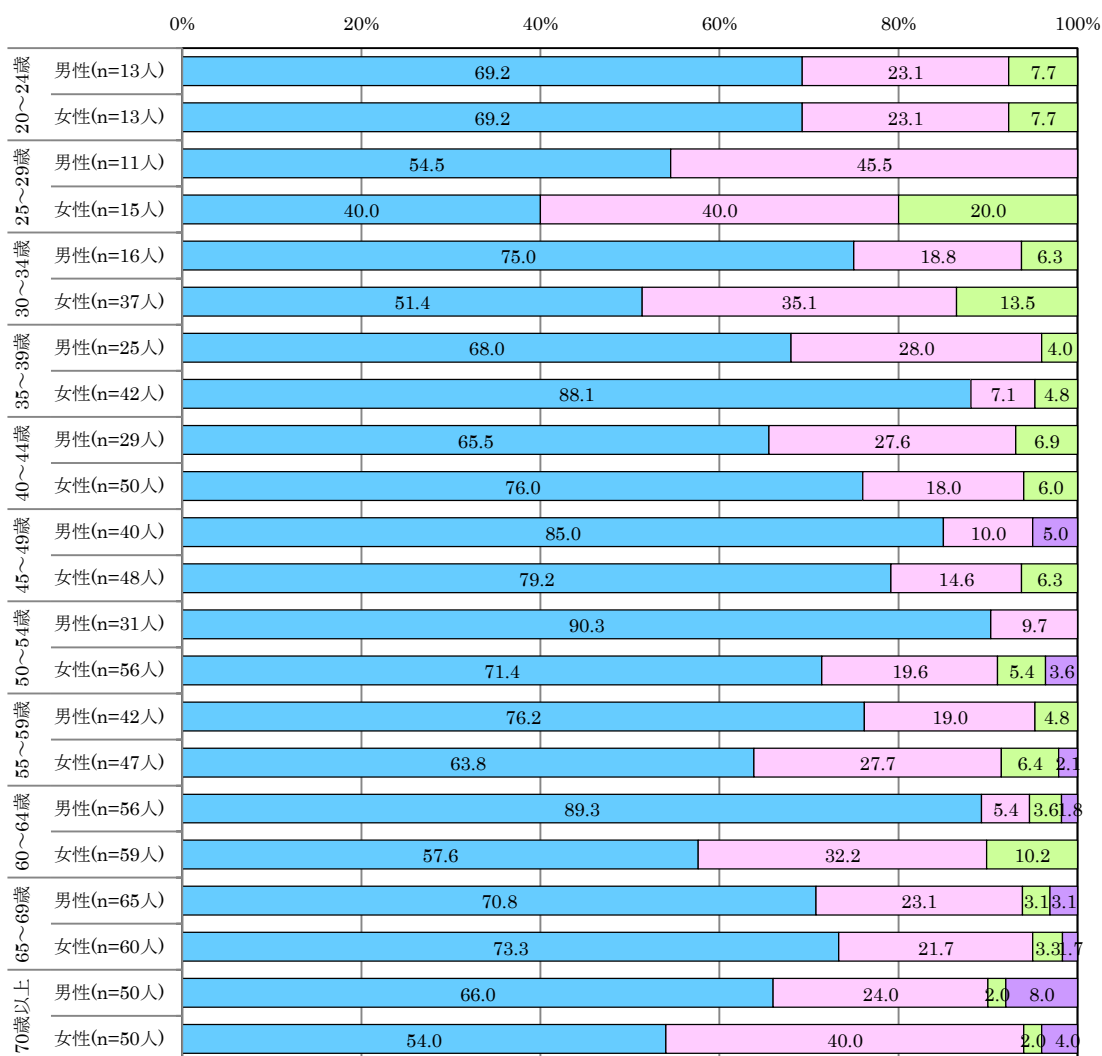
4 男女雇用機会均等法

- ・性別でみると、「知っている」及び「聞いたことがある」という回答の合計は、男性が94.5%、女性が92.0%で、どちらも9割を超えている。
- ・世代別性別でみると、男性では25歳～29歳と50歳～54歳で、「知っている」及び「聞いたことがある」という回答の合計が100.0%になっている。

【性別】



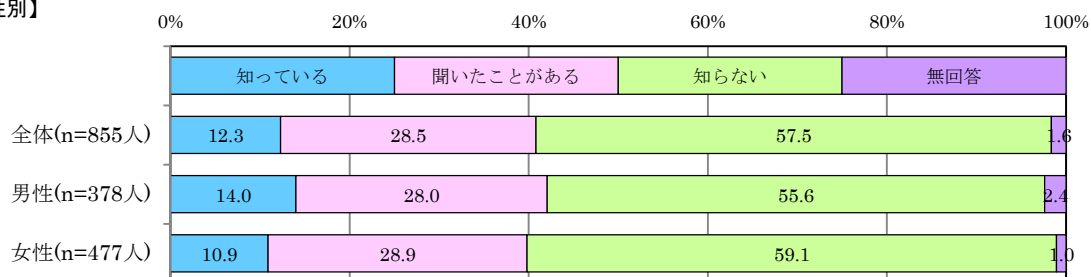
【世代別性別】



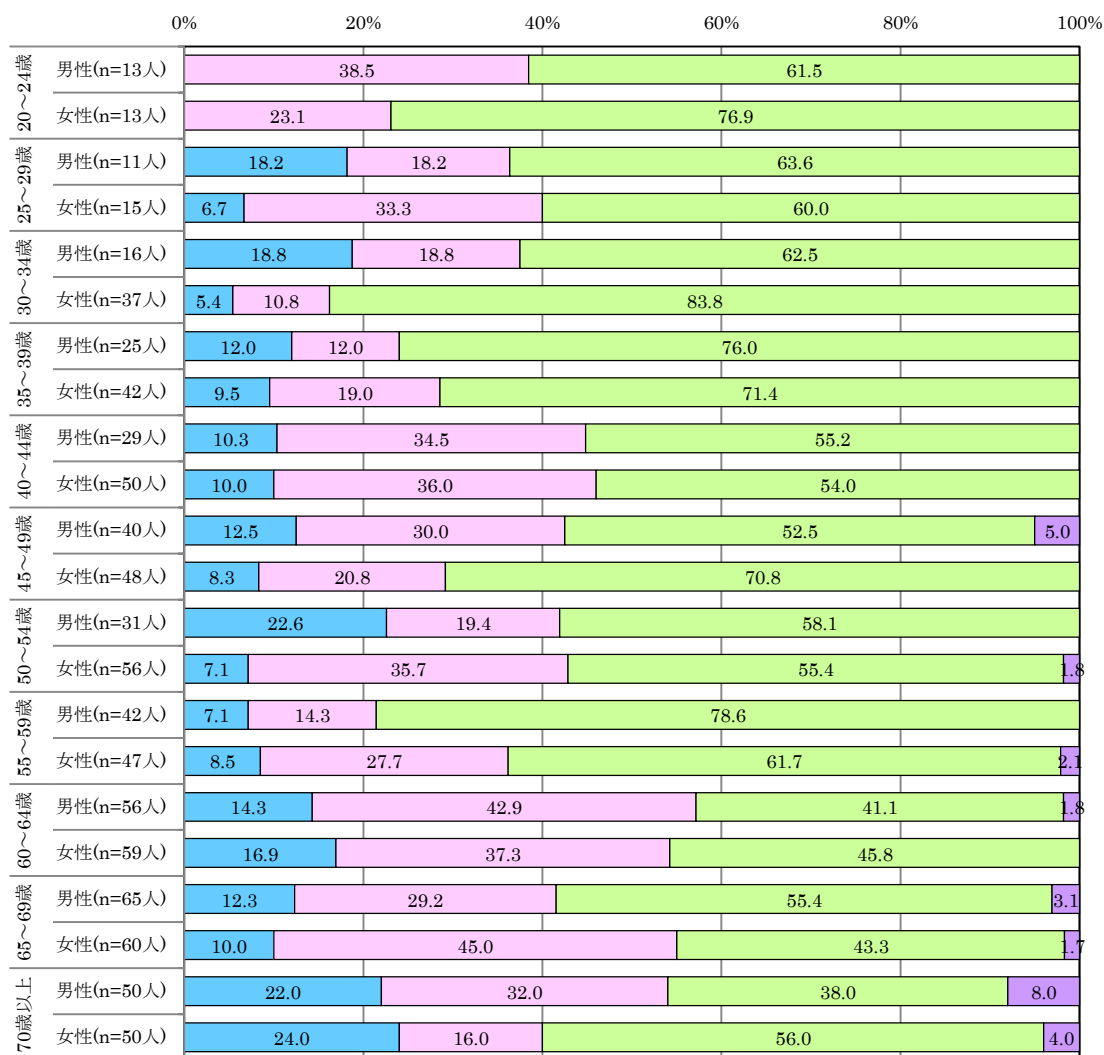
5 長野市男女共同参画推進条例

- ・性別でみると、男女とも「知らない」という回答が最も多く、男性は55.6%、女性は59.1%と、男女ともに約6割となっている。
- ・「知っている」及び「聞いたことがある」という回答の合計は、男性が42.0%、女性が39.8%となっており、若干男性の方が高くなっている。
- ・世代別性別でみると、女性では、30歳～34歳で、「知らない」という回答割合は8割(83.8%)を超えている。

【性別】

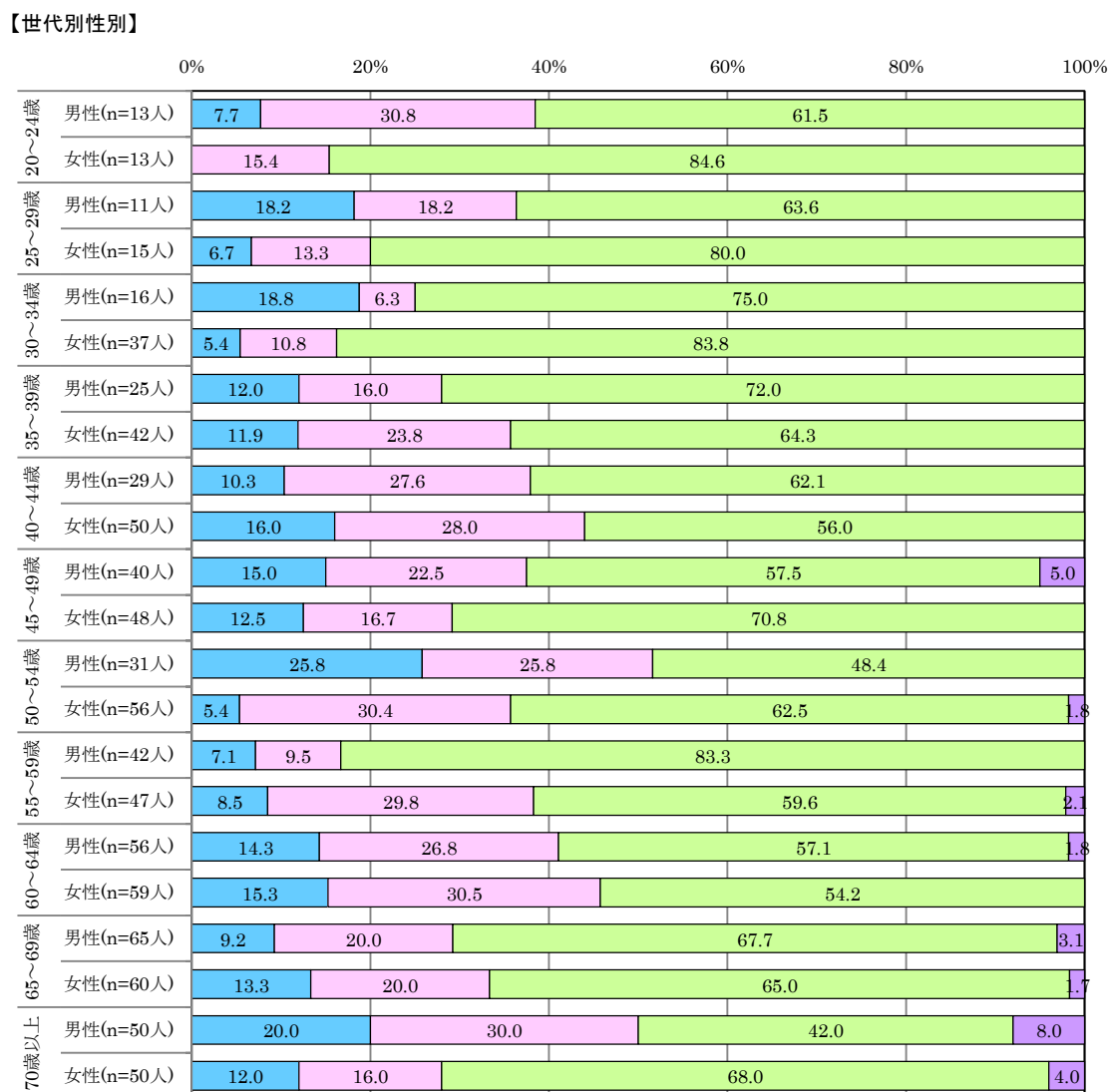
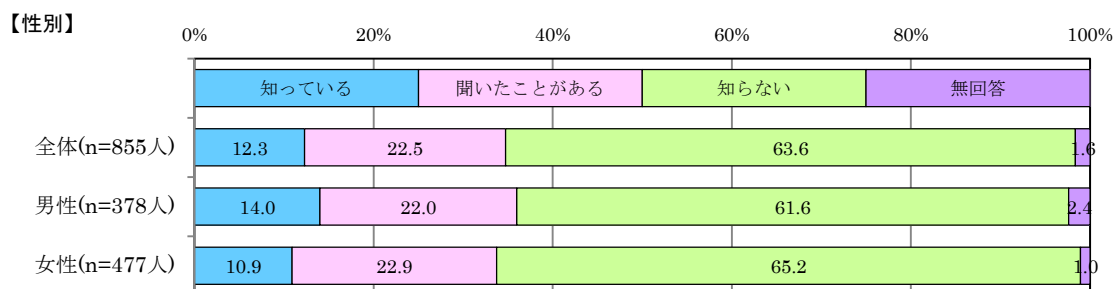


【世代別性別】



6 長野市男女共同参画センター

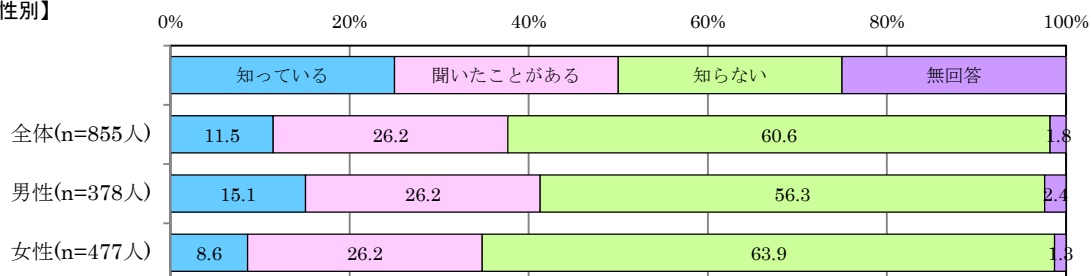
- ・性別で見ると、「知らない」という回答が男女とも最も多く、男性が61.6%、女性が65.2%となっている。
- ・「知っている」及び「聞いたことがある」という回答の合計は、男性が36.0%、女性が33.8%と、若干男性の方が高くなっている。
- ・世代別性別で見ると、「知らない」という回答割合が最も高いのは、女性の20歳～24歳で84.6%となっており、「知っている」という回答の割合が最も高いのは男性の50歳～54歳で25.8%となっている。



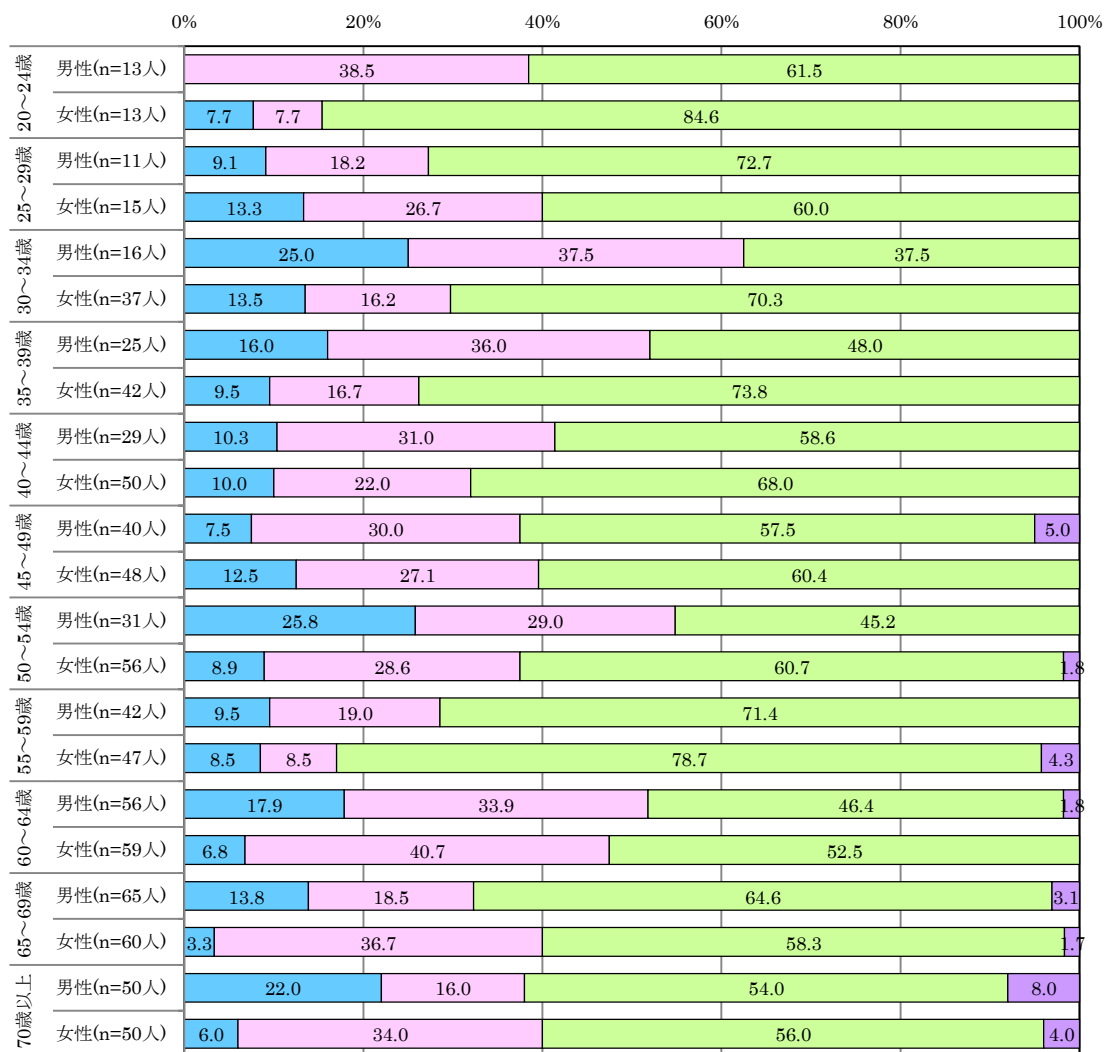
7 女性活躍推進法

- 性別でみると、「知らない」という回答が男女とも最も多く、男性が56.3%、女性が63.9%となっている。
- 「知っている」及び「聞いたことがある」という回答の合計は、男性が41.3%、女性が34.8%と、やや男性の方が高くなっている。
- 世代別性別でみると、「知らない」という回答割合が最も高いのは、女性の20歳～24歳で84.6%となっており、「知っている」という回答の割合が最も高いのは、男性の50歳～54歳で25.8%となっている。

【性別】



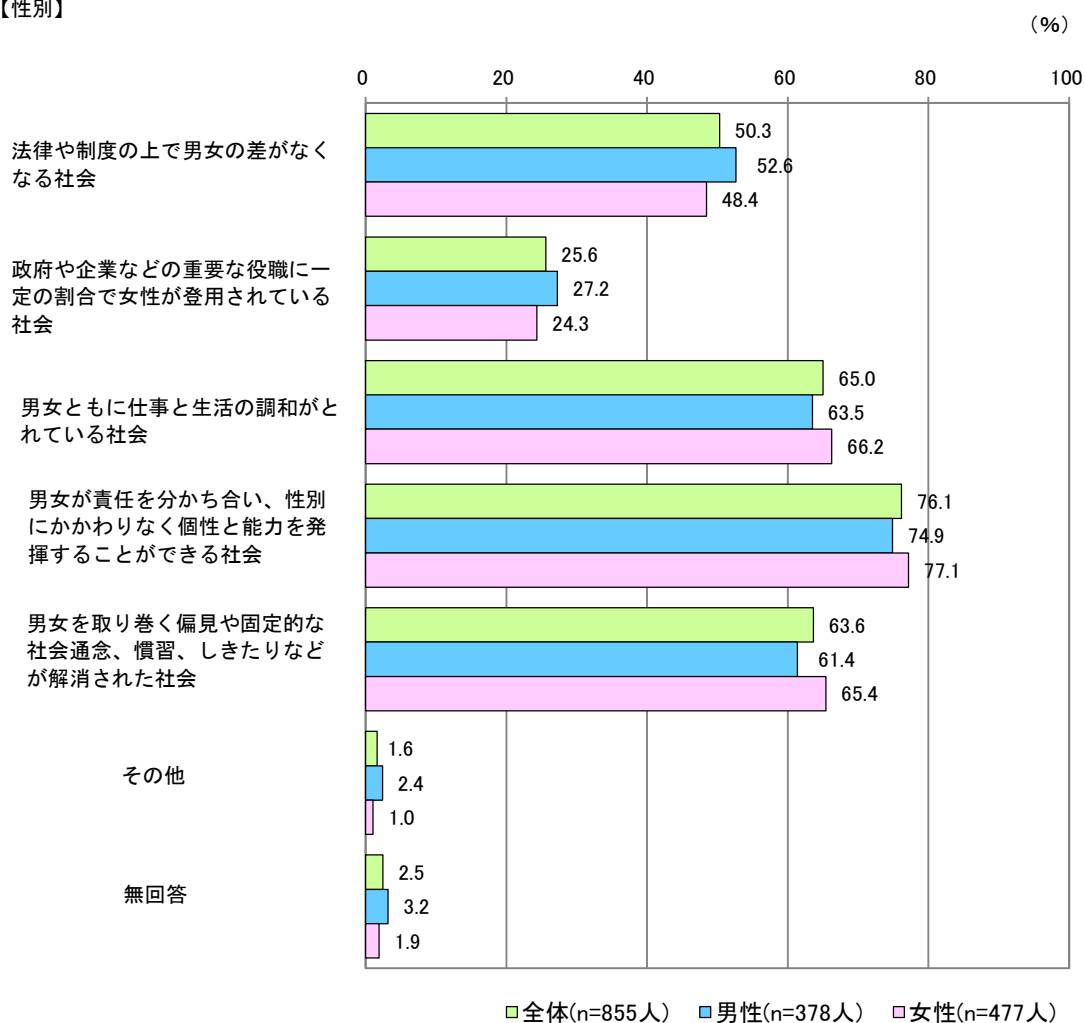
【世代別性別】



問3 あなたが考える「男女共同参画社会」はどのような社会ですか。
お考えに近いものを3つまでお選びください。

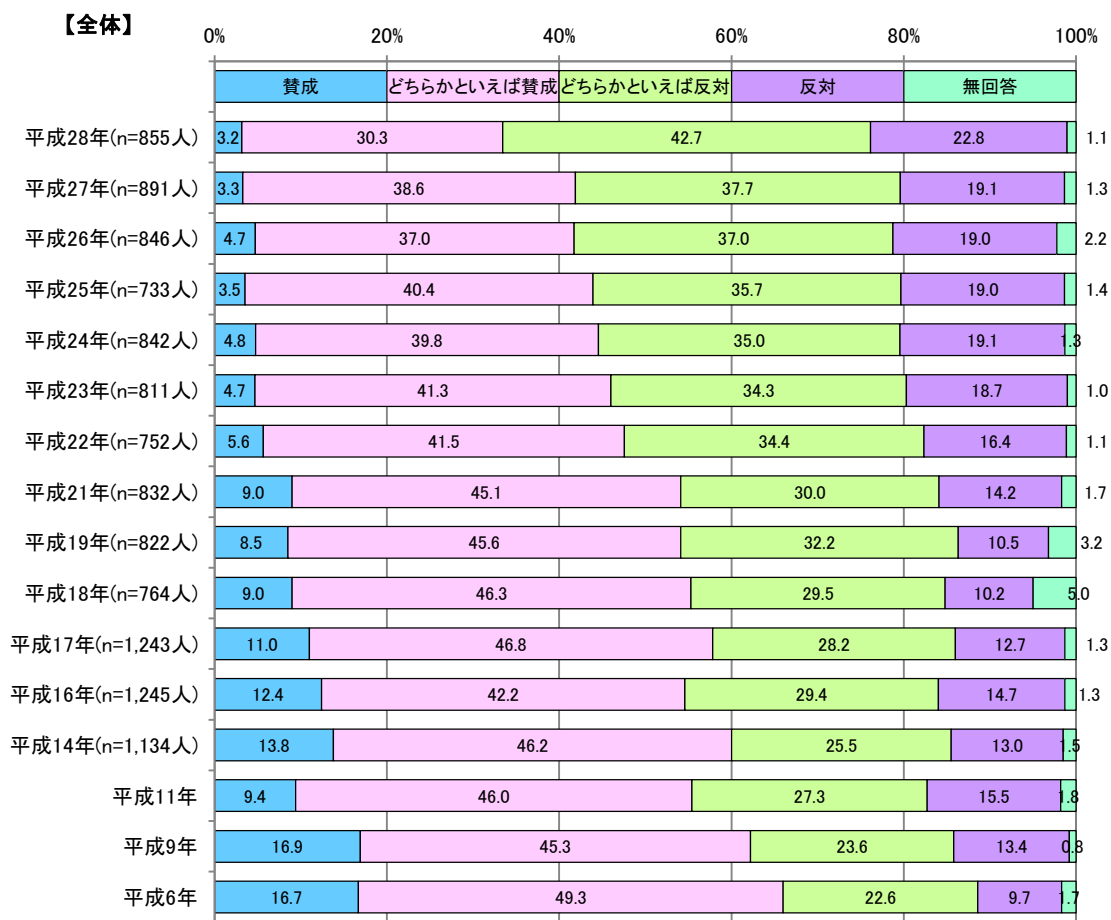
- ・全体では、「男女が責任を分かち合い、性別にかかわらず個性と能力を発揮することができる社会」が約8割（76.1%）で最も多い回答となっている。次いで、「男女ともに仕事と生活の調和がとれている社会」（65.0%）、「男女を取り巻く偏見や固定的な社会通念、慣習、しきたりなどが解消された社会」（63.6%）、「法律や制度の上で男女の差がなくなる社会」（50.3%）の順となっている。
- ・性別で見ると、「男女が責任を分かち合い、性別にかかわらず個性と能力を発揮することができる社会」という回答は、男性が74.9%で、女性が77.1%となっている。

【性別】

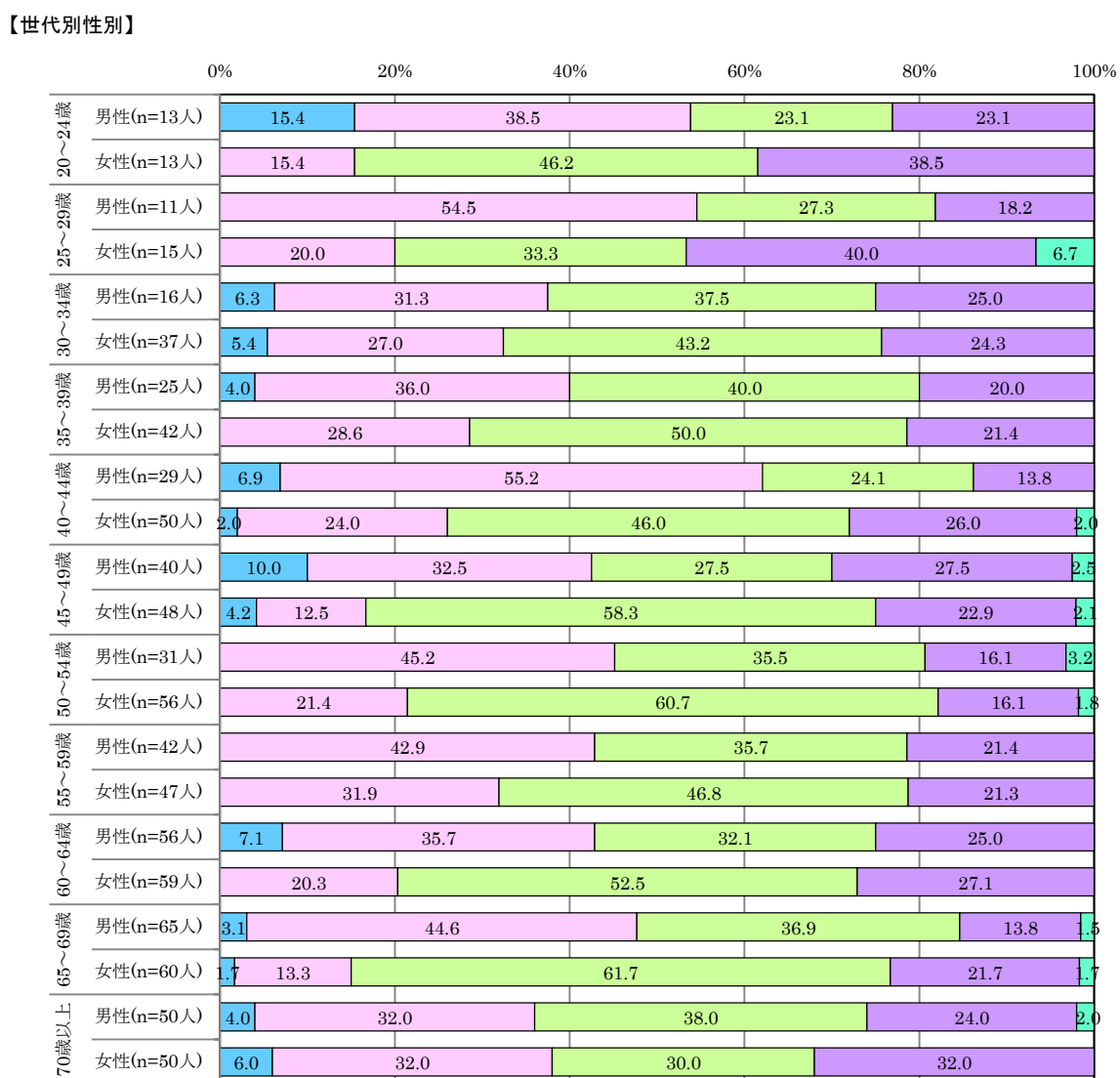
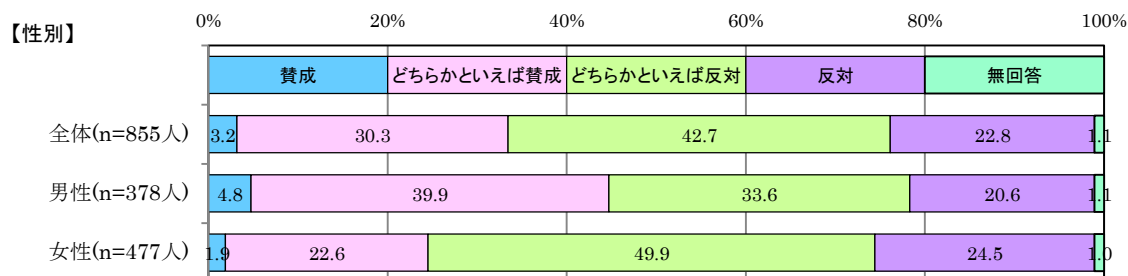


問4 「男性は仕事、女性は家事・育児」という、性別によって役割を固定する考え方についてどう思いますか。次の中から1つお選びください。

- ・平成28年の調査結果は、「賛成」が3.2%「どちらかといえば賛成」が30.3%、「どちらかといえば反対」が42.7%、「反対」が22.8%となった。
- ・経年的にみると、「賛成」及び「どちらかといえば賛成」という回答割合の合計は年々減少傾向にある。平成28年は平成27年と比べて、「賛成」が0.1ポイント減り、「どちらかといえば賛成」が8.3ポイントの減少となった。「どちらかといえば反対」と「反対」の回答割合の合計は8.7ポイントの増加となった。



- ・性別でみると、「反対」及び「どちらかといえば反対」という回答の合計は、男性が 54.2%、女性が 74.4%となっている。男性より女性の方が、性別によって役割を固定する考え方に否定的な方が多くなっている。
- ・世代別性別でみると、「どちらかといえば反対」及び「反対」の回答の合計は、20 歳代の男性、40 歳～44 歳の男性を除いて、5 割を超えている。

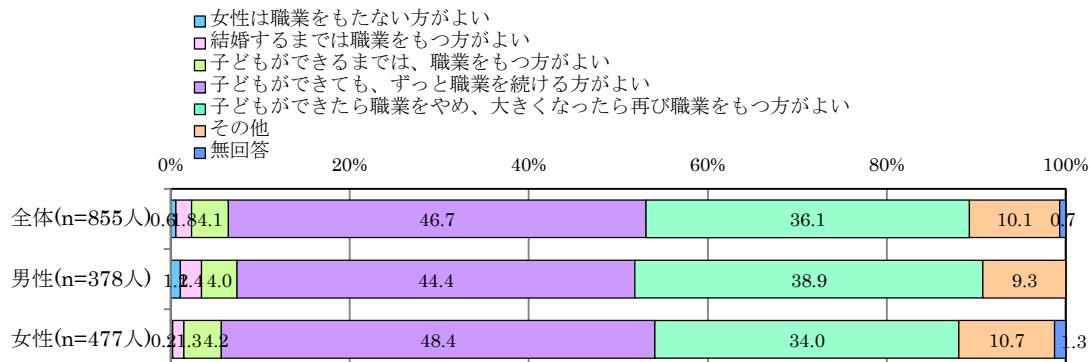


問5 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどうお考えですか。

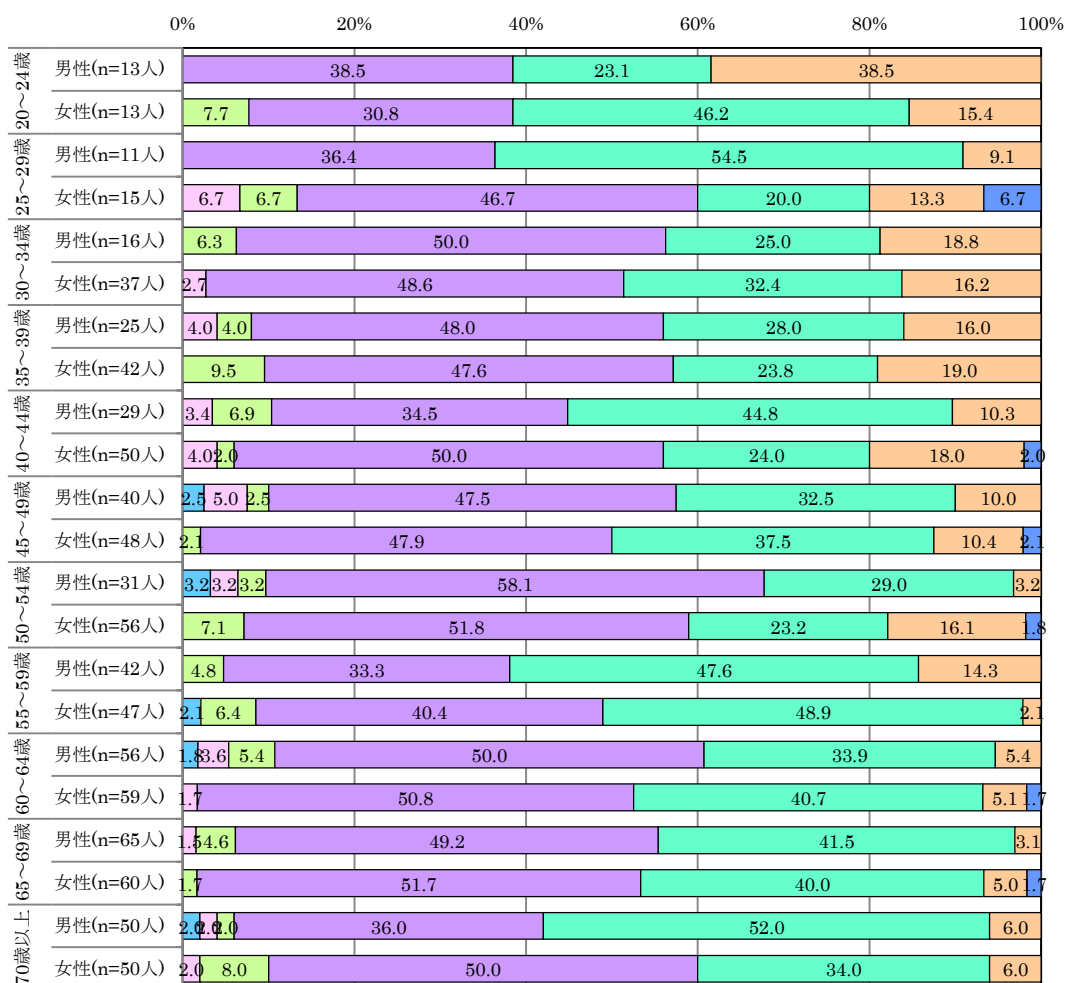
次の中から1つお選びください。

- ・性別で見ると、男性、女性ともに、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」という回答が最も多く、次いで、「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」となっている。
- ・世代別性別で見ると、男性は50歳～54歳で、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」という回答が一番多くなっている。一方、女性は40歳～44歳、50歳～54歳、60歳代以上で、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」という回答の割合が5割を超えている。

【性別】



【世代別性別】



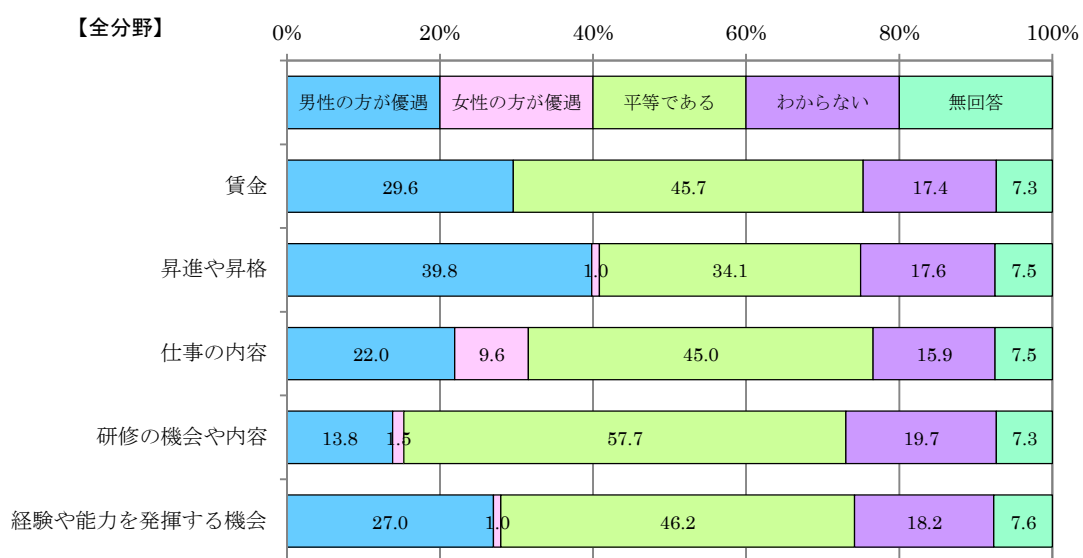
就労に関することについて

問6 現在職業に就いていらっしゃる方におたずねします。

あなたの職場では次のことがらについて、男女は平等になっていると思いますか（次にあげるそれぞれの面で性別によって差があると思いますか）。

あてはまる番号を1つずつお選びください。

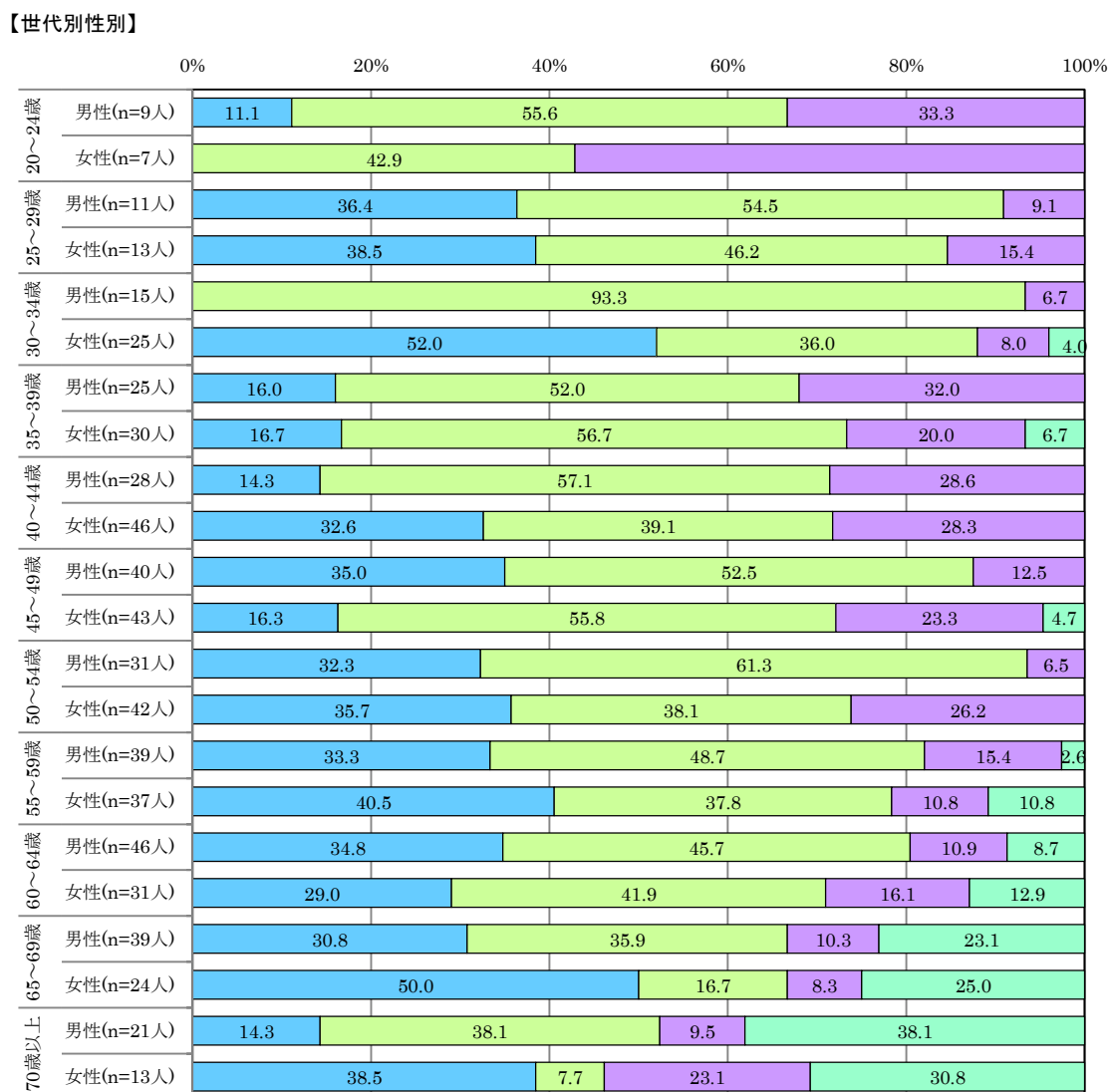
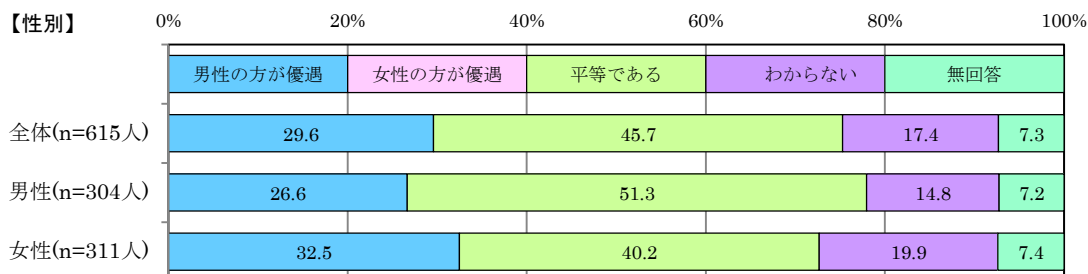
- ・「昇進や昇格」を除き、「平等である」という回答が最も多くなっている。
- ・「男性の方が優遇されている」という回答でみると、「昇進や昇格」が約4割（39.8%）で、最も多くなっている。次いで、「賃金」が約3割（29.6%）、「経験や能力を發揮する機会」（27.0%）、「仕事の内容」（22.0%）、「研修の機会や内容」（13.8%）の順に続いている。一方、「女性の方が優遇されている」という回答の割合は、「仕事の内容」が約1割（9.6%）となっている。それ以外の分野では、2%以下となっており、「賃金」では回答なしとなっている。



(全体 n=615人)

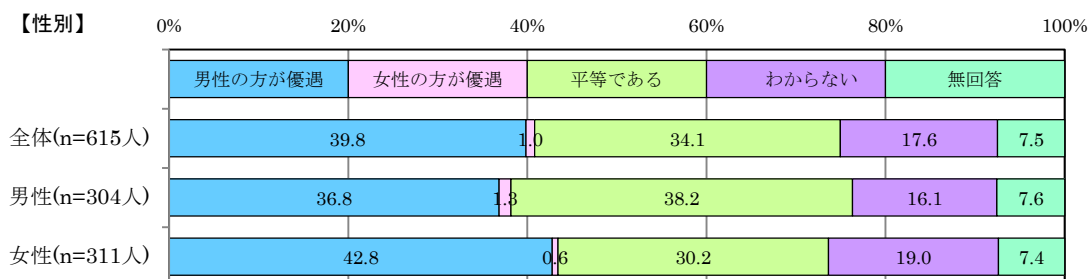
1 賃金

- ・性別でみると、男女ともに、「平等である」という回答が最も多く、男性は51.3%で、女性は40.2%となっている。
- ・世代別性別でみると、「平等である」という回答の割合は、30歳～34歳の男性で9割(93.3%)を超えている。「男性の方が優遇されている」という回答の割合は、30歳～34歳、65歳～69歳の女性で約5割と、ほかの年代に比べて高くなっている。

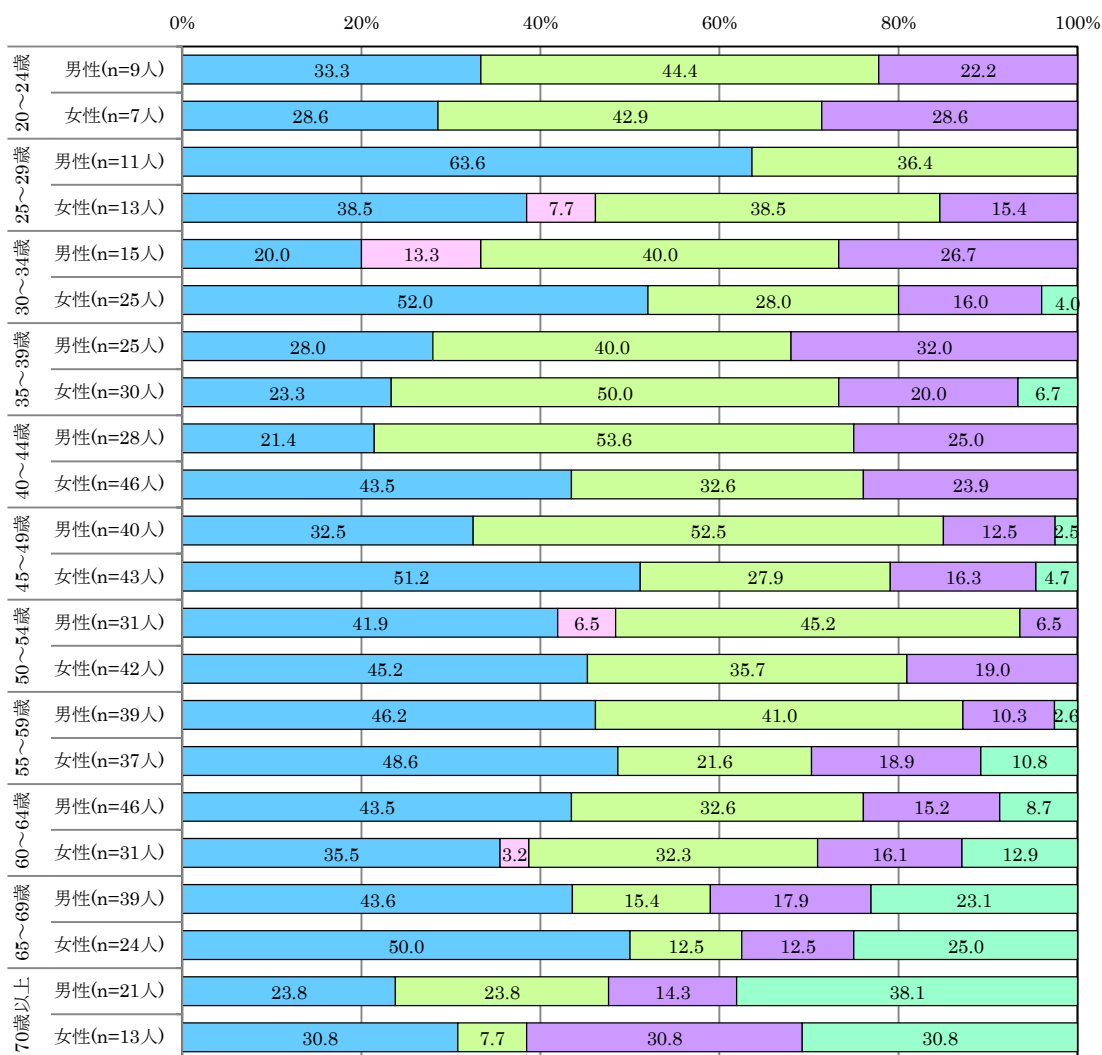


2 昇進や昇格

- ・性別でみると、男性は「平等である」という回答が最も多く 38.2%となっている。一方女性は「男性の方が優遇されている」という回答が最も多く 42.8%となっている。
- ・「平等である」という回答は、男性が 38.2%、女性が 30.2%となり、男性の方が女性より回答割合が高くなっている。

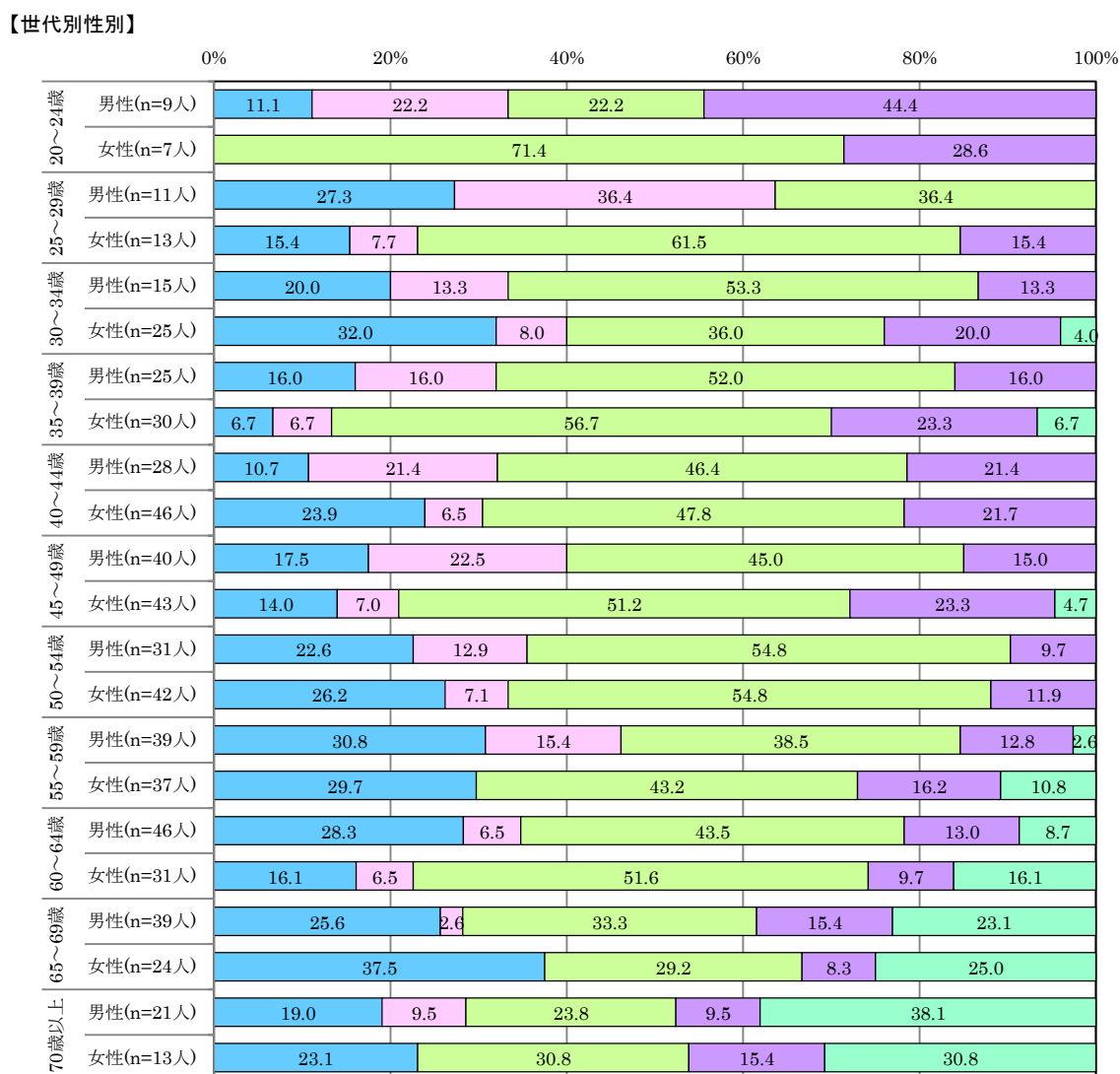
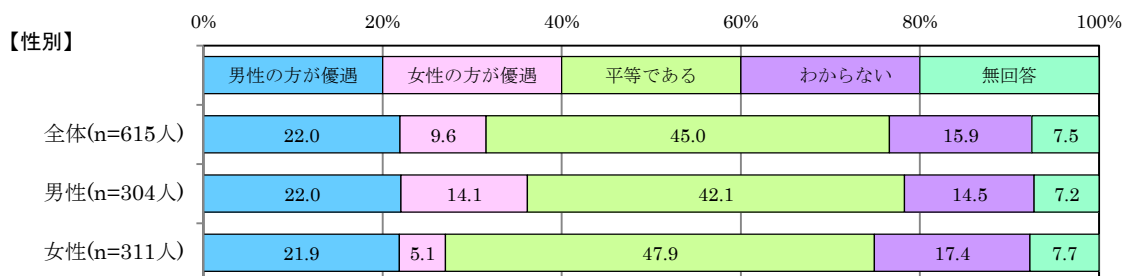


【世代別性別】



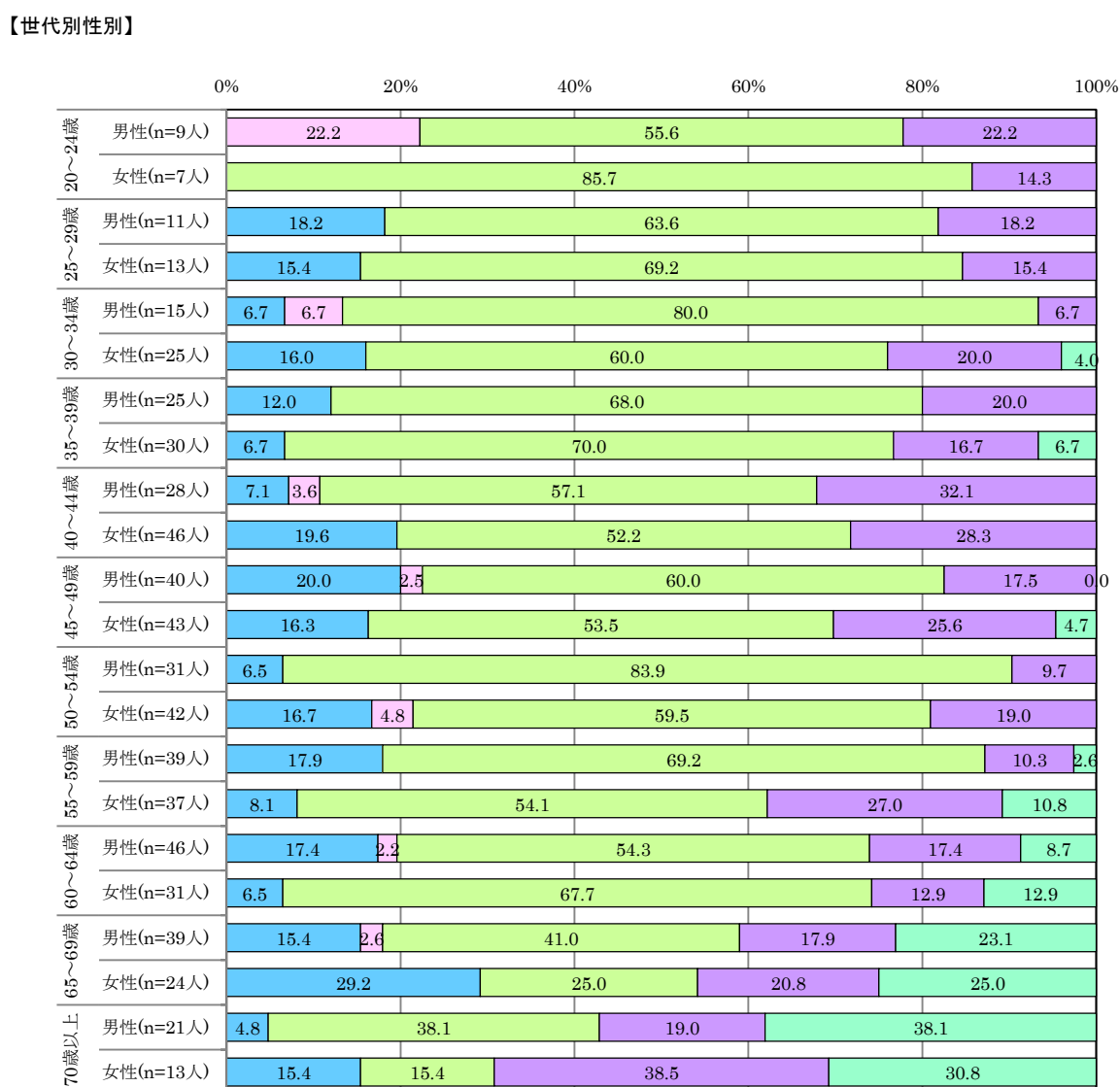
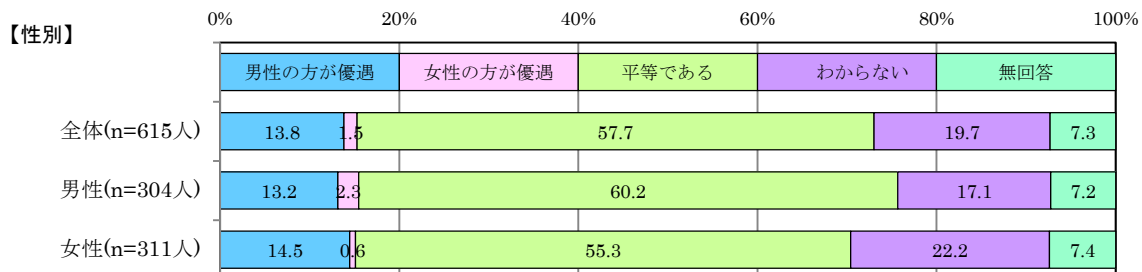
3 仕事の内容

- ・性別でみると、男女とも「平等である」という回答が最も多く、男性が42.1%、女性が47.9%となっている。
- ・「女性の方が優遇されている」という回答は、男性が14.1%、女性が5.1%で、男性の回答割合が高く、男女間に意識の差がみられる。
- ・世代別性別では、女性の65歳～69歳においては、「男性の方が優遇されている」という回答が、「平等である」という回答を上回っている。



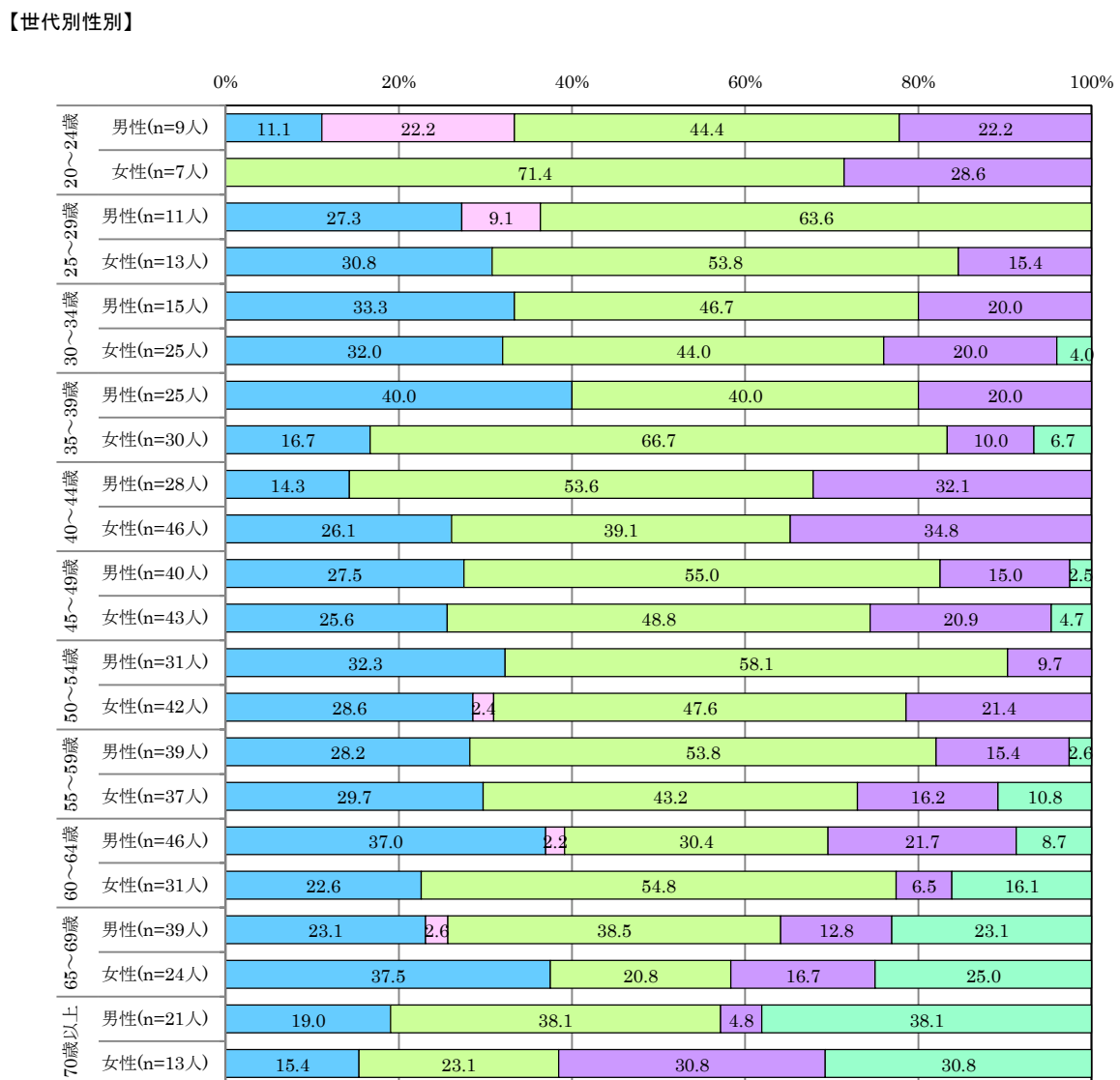
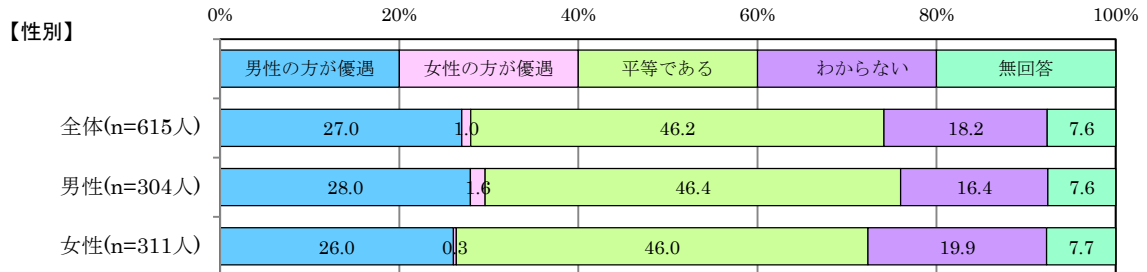
4 研修の機会や内容

- ・性別でみると、「平等である」という回答が男女とも最も多くなっている。回答割合は、男性が60.2%、女性が55.3%となっている。
- ・世代別性別でみると、65歳～69歳の女性以外は、いずれの世代においても「平等である」という回答が最も多くなっている。55歳～59歳女性、65歳以上の男女で、「わからない」又は「無回答」という回答の割合が多い傾向がみられる。



5 経験や能力を発揮する機会

- ・性別でみると、「平等である」という回答が男女とも最も多くなっている。回答割合は、男性が46.4%、女性が46.0%となっている。
- ・世代別性別でみると、男性では35歳～39歳と60歳～64歳以外の年代で、女性では65歳～69歳以外で、いずれの年代においても「平等である」という回答が最も多くなっている。



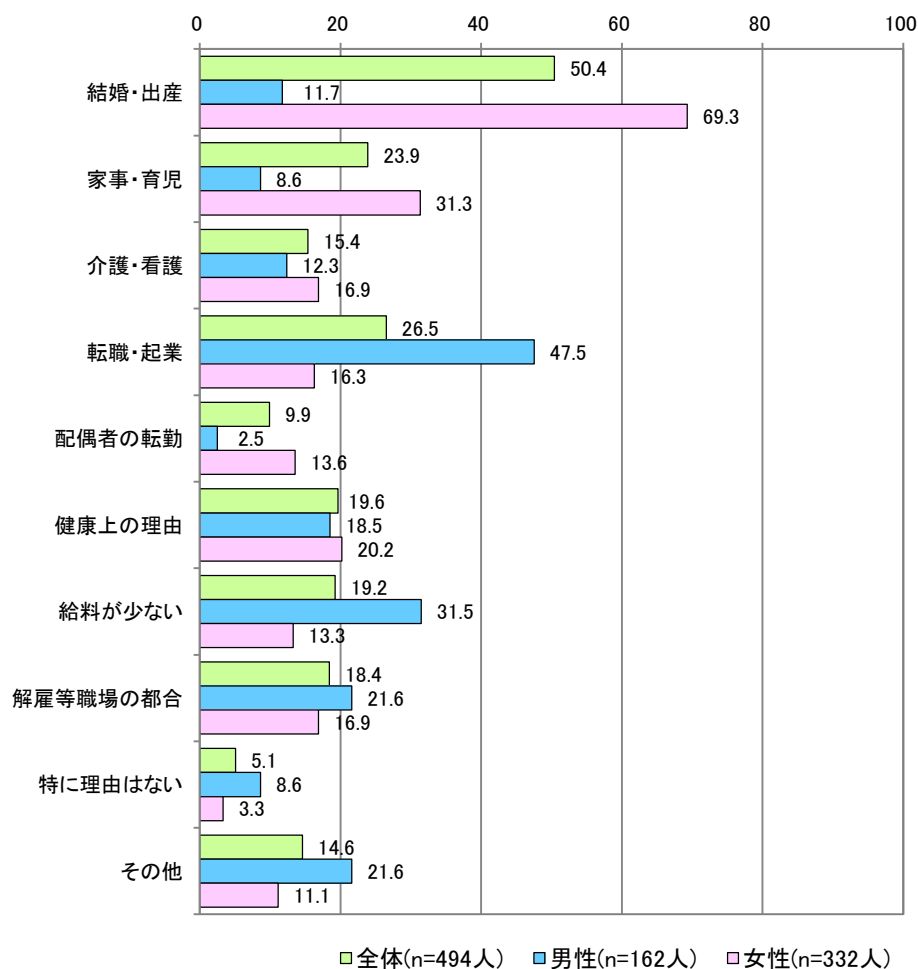
問7 離職経験のある方におたずねします。

離職の原因（理由）としてあてはまるものを3つまでお選びください。

- ・全体で見ると、「結婚・出産」(50.4%)が最も多い回答となっている。次いで、「転職・起業」(26.5%)、「家事・育児」(23.9%)の順が続いている。
- ・性別で見ると、男性は、「転職・起業」(47.5%)、「給料が少ない」(31.5%)、「解雇等職場の都合」(21.6%)の順となっている。女性は、「結婚・出産」(69.3%)、「家事・育児」(31.3%)、「健康上の理由」(20.2%)の順となっている。
(※無回答は、離職経験のない方として集計している)。

(%)

【性別】

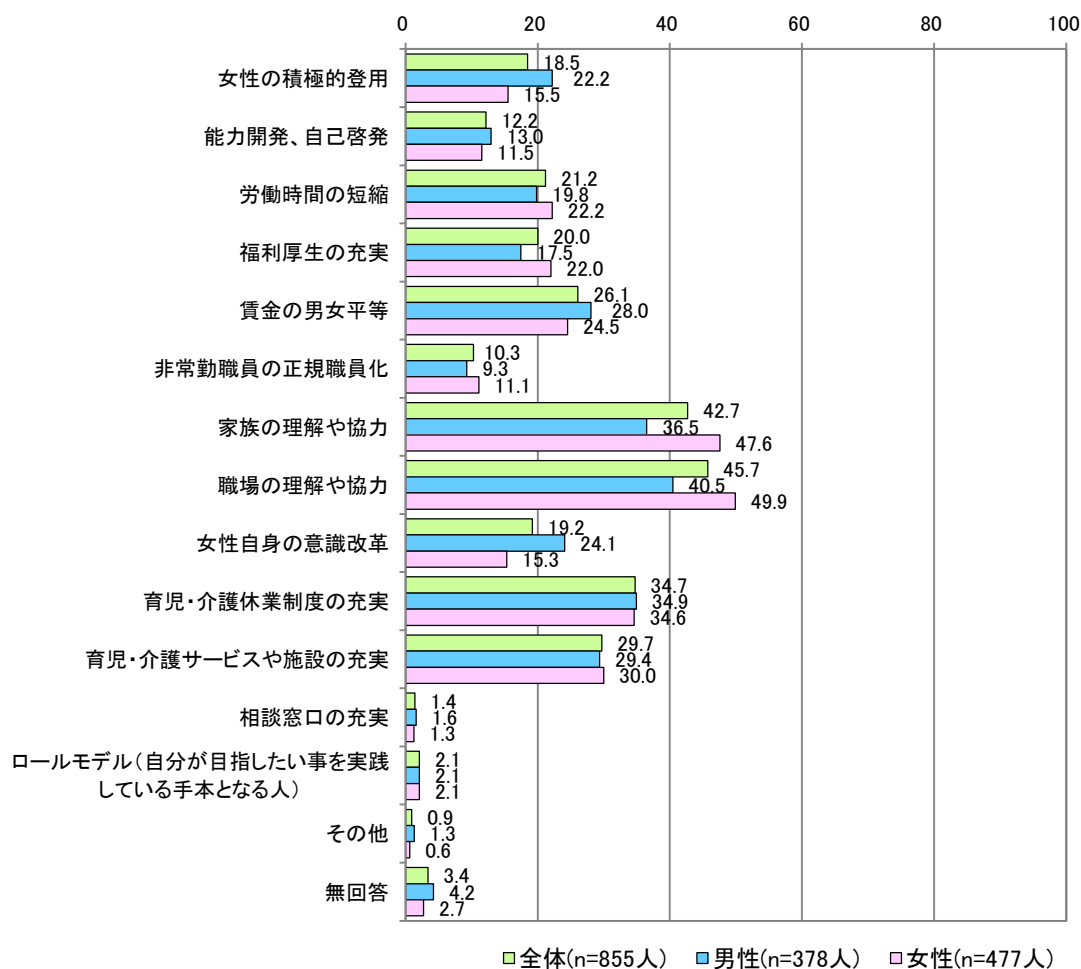


問8 女性が意欲をもって働き続けるためには、何が必要だと思いますか。
該当するものを3つまでお選びください。

- ・全体で見ると、「職場の理解や協力」(45.7%)が最も多い回答となっている。次いで、「家族の理解や協力」(42.7%)、「育児・介護休業制度の充実」(34.7%)の順で続いている。
- ・性別で見ると、男性は、「職場の理解や協力」(40.5%)、「家族の理解や協力」(36.5%)、「育児・介護休業制度の充実」(34.9%)の順となっている。女性も同様に、「職場の理解や協力」(49.9%)、「家族の理解や協力」(47.6%)、「育児・介護休業制度の充実」(34.6%)の順となっている。

(%)

【性別】

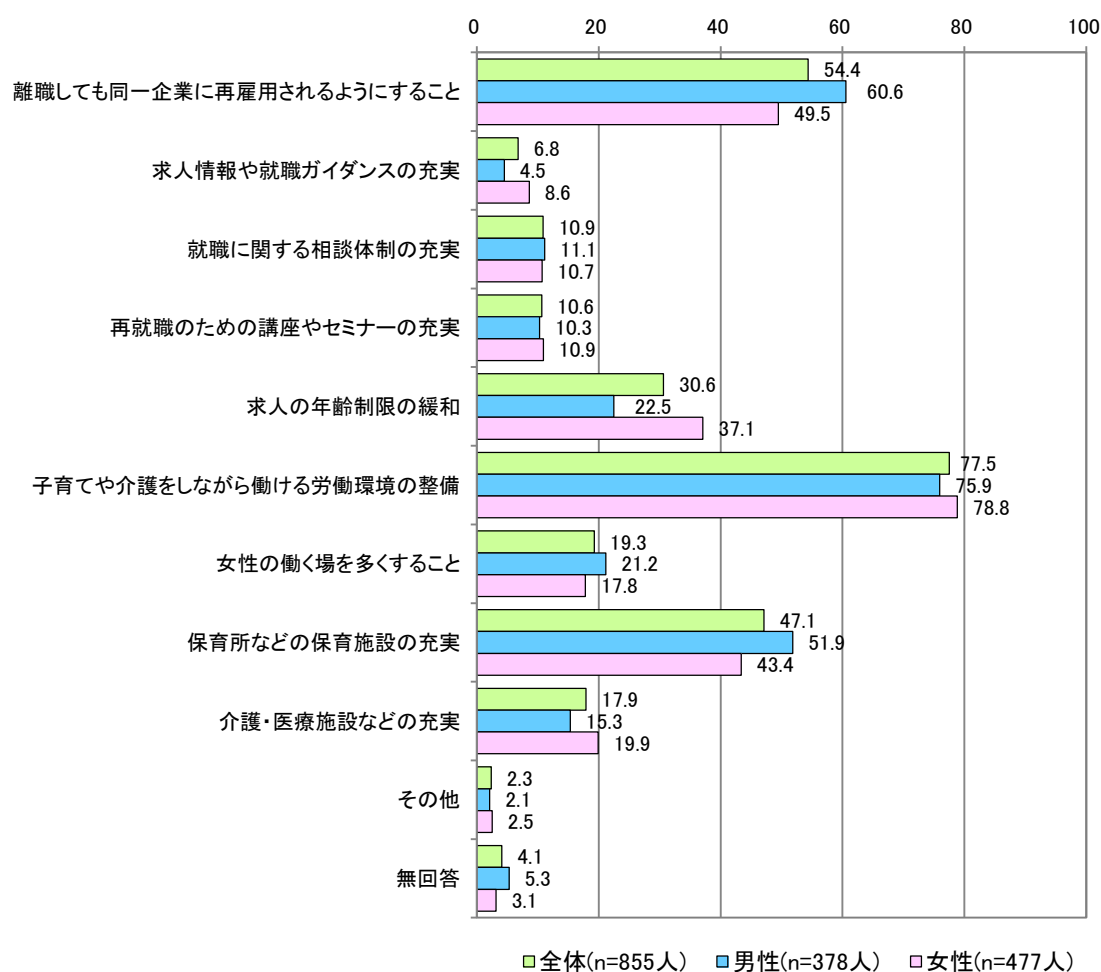


問9 出産・育児などで離職した女性が再就職を希望する場合、どのような支援や対策が必要だと思いますか。該当するものを3つまでお選びください。

- ・全体でみると、「子育てや介護をしながら働ける労働環境の整備」(77.5%)が最も多い回答となっている。次いで、「離職しても同一企業に再雇用されるようにすること」(54.4%)、「保育所などの保育施設の充実」(47.1%)の順で続いている。
- ・性別でみると、男性は、「子育てや介護をしながら働ける労働環境の整備」(75.9%)、「離職しても同一企業に再雇用されるようにすること」(60.6%)、「保育所などの保育施設の充実」(51.9%)の順となっている。また、女性も同様に、「子育てや介護をしながら働ける労働環境の整備」(78.8%)、「離職しても同一企業に再雇用されるようにすること」(49.5%)、「保育所などの保育施設の充実」(43.4%)の順となっている。

(%)

【性別】

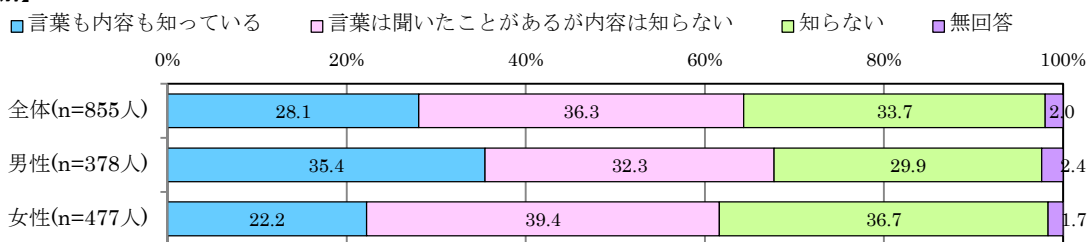


仕事と生活の調和に関することについて

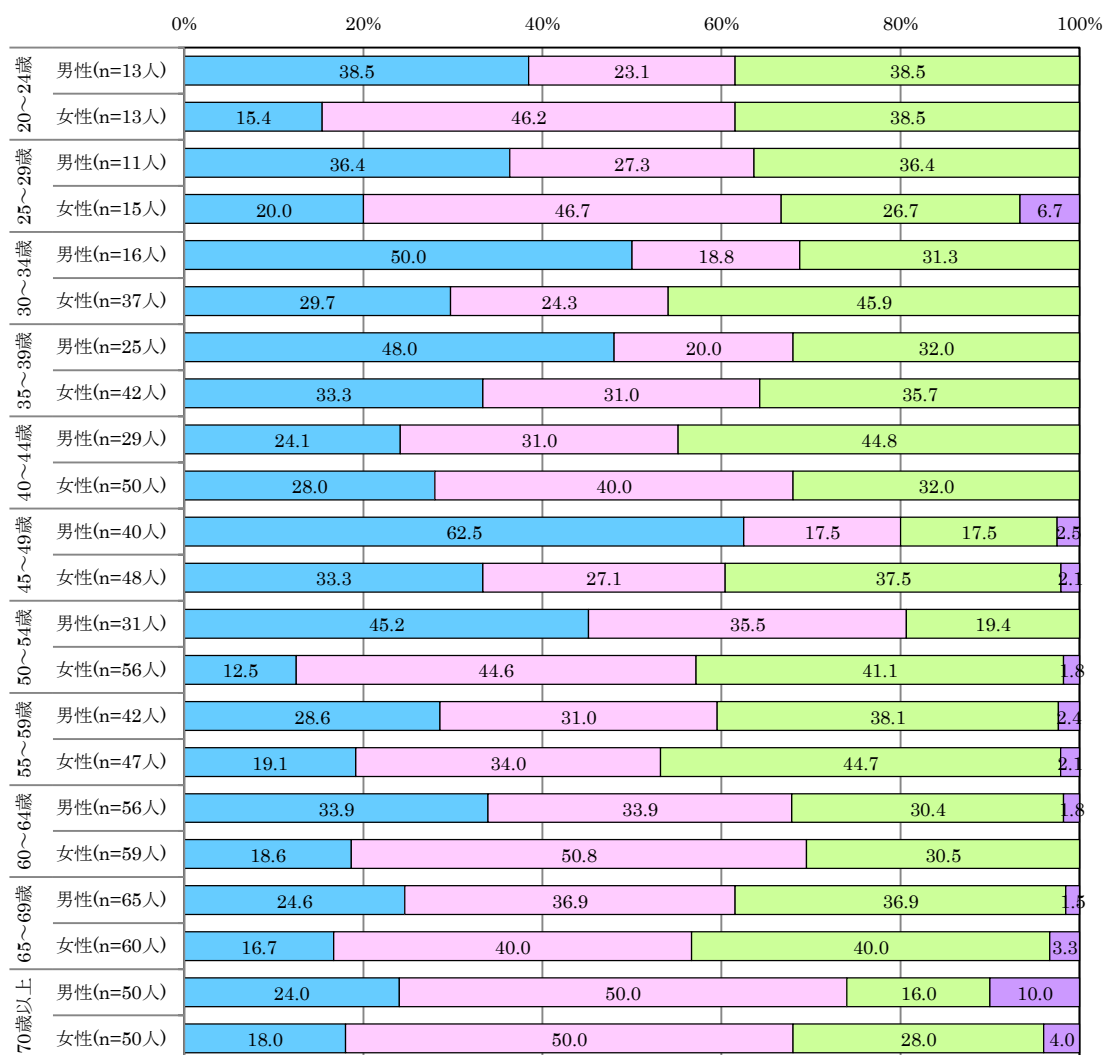
問 10 あなたは、「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」という言葉をご存知ですか。次の中から1つお選びください。

- ・性別でみると、男性では、「言葉も内容も知っている」という回答が最も多く、約3割（35.4%）であるのに対し、女性では「言葉は聞いたことがあるが内容は知らない」が約4割（39.4%）となっている。「知らない」という回答は、男性が29.9%、女性が36.7%で、女性の方が男性より回答割合が高くなっている。
- ・世代別性別でみると、男性では45歳～49歳、女性では35歳～39歳、45歳～49歳で、「言葉も内容も知っている」という回答割合が高くなっている。

【性別】



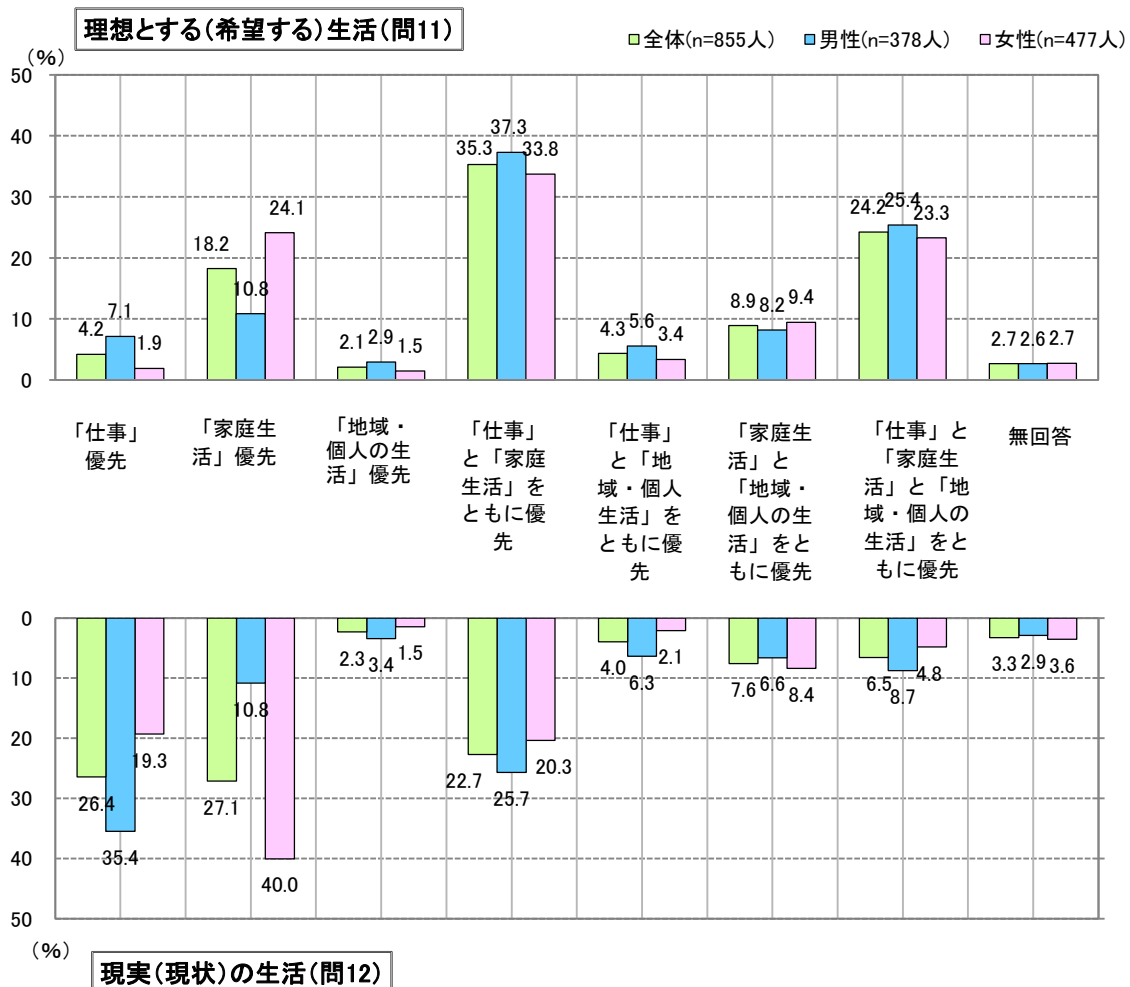
【世代別性別】



問11 「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活（学習、趣味、付き合い等）」の優先度について、あなたが理想とする（希望する）生活に最も近いものを1つお選びください。

問12 「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活」の優先度について、あなたの現実（現状）の生活に最も近いものを1つお選びください。

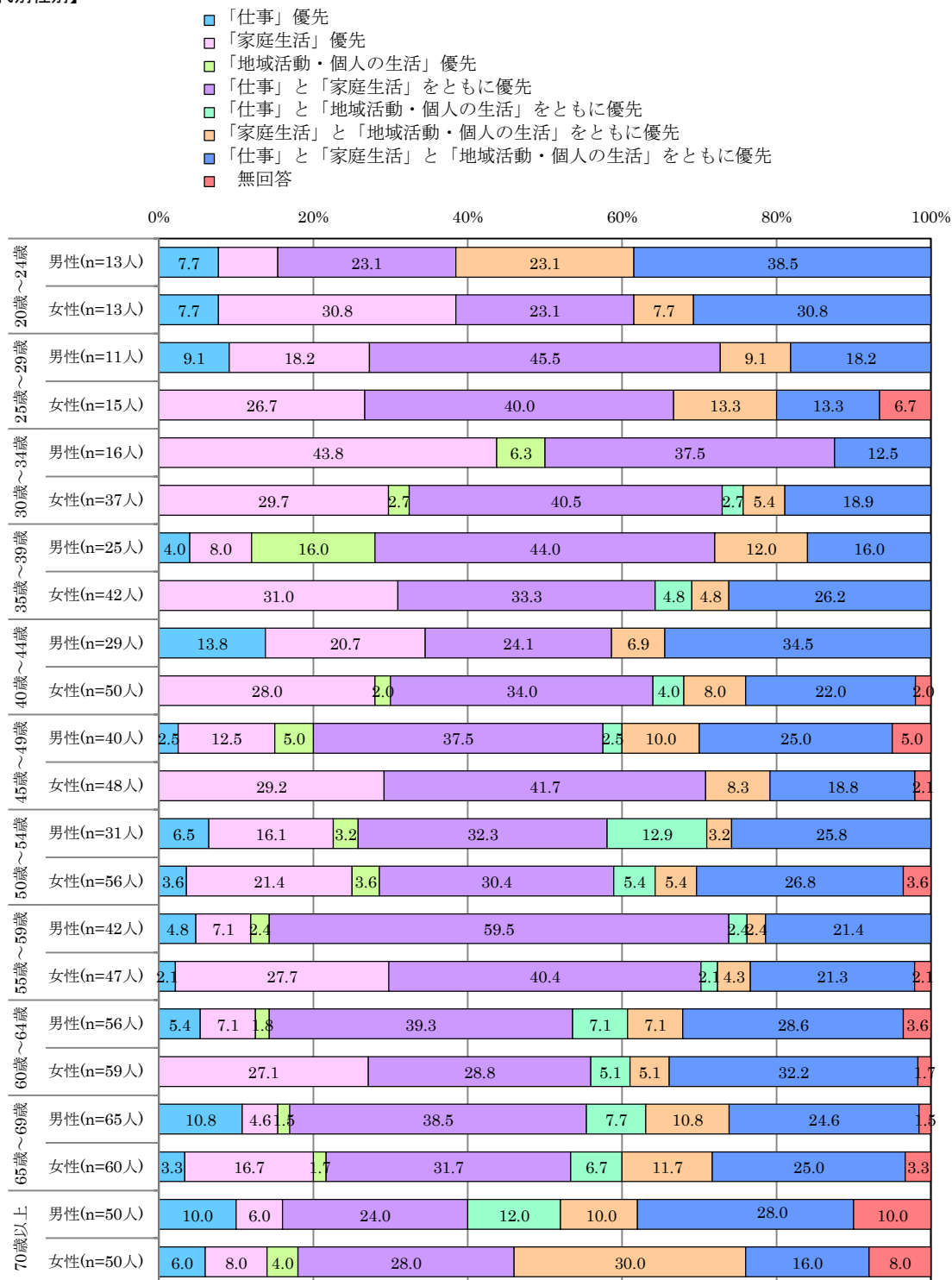
- ・全体でみると、問11の理想とする生活については『仕事』と『家庭生活』をともに優先という回答が最も多く、約4割（35.3%）となっている。次に、『仕事』と『家庭生活』と『地域活動・個人の生活』をともに優先（24.2%）、『家庭生活』優先（18.2%）の順が続いている。
- ・一方、問12の現実の生活では、『家庭生活』優先（27.1%）という回答が最も多く、次いで、『仕事』優先（26.4%）、『仕事』と『家庭生活』をともに優先（22.7%）となっている。
- ・理想の生活では1番目であった『仕事』と『家庭生活』をともに優先が、現実の生活では3番目となっている。また、理想の生活で2番目に多かった『仕事』と『家庭生活』と『地域活動・個人の生活』をともに優先という回答は、現実の生活では、5番目となっている。
- ・性別でみると、理想の生活においては『家庭生活』優先以外男女の回答に大きな差は見られないが、現実の生活においては、男性は『仕事』優先、女性は『家庭生活』優先が最も多い回答となり、理想の生活と現実の生活に差があることがうかがえる。



問 11 理想とする（希望する）生活 世代別性別

- ・ 世代別性別でみると、男性では 55 歳～59 歳で「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」という回答の割合が 5 割を超えている。
- ・ 「『家庭生活』優先」という回答は、30 歳～34 歳の男性で最も多い回答となっている。

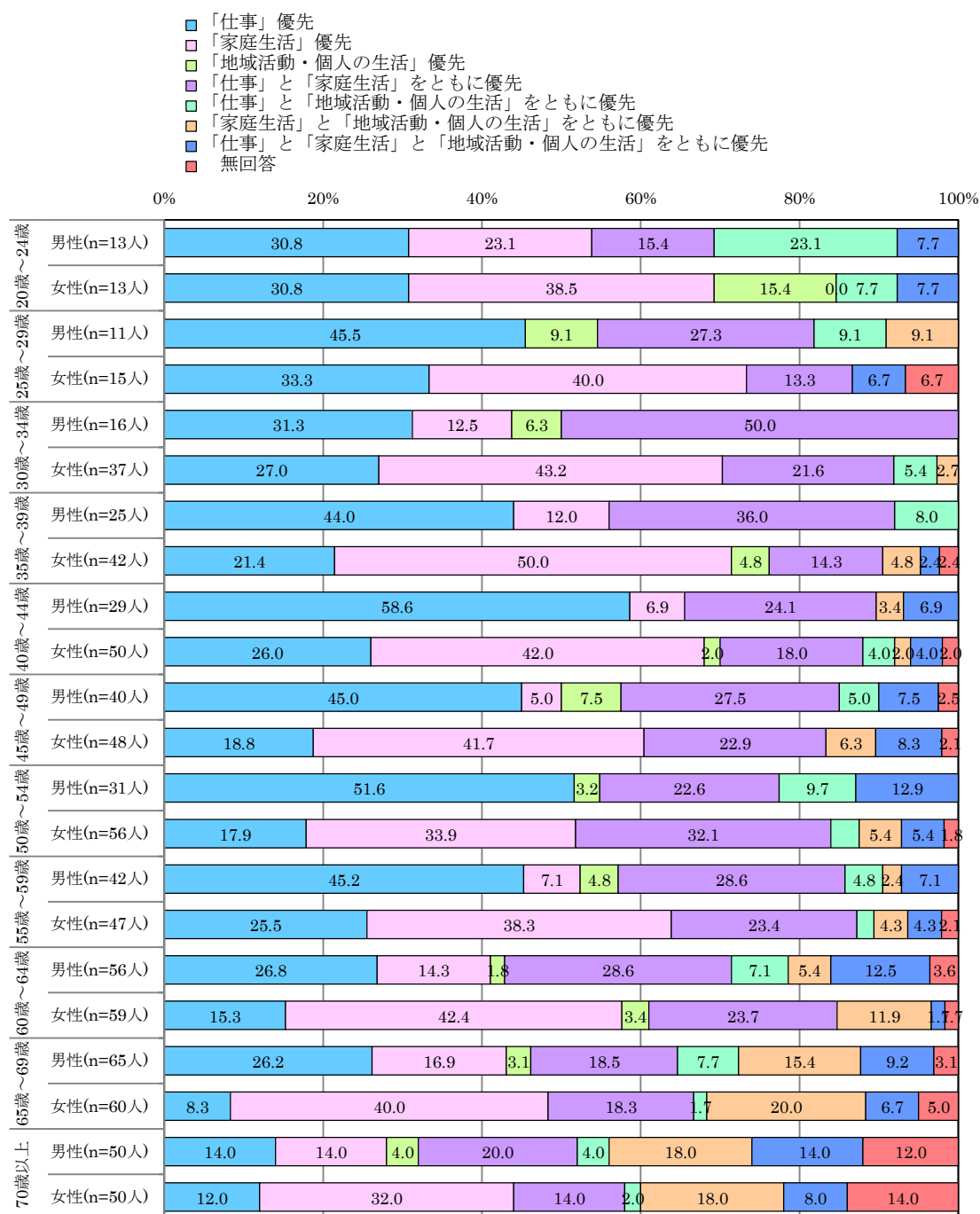
【世代別性別】



問 12 現実（現状）の生活 世代別性別

- ・世代別性別で見ると、男性は、30歳～34歳、60歳～64歳、70歳以上以外の年代で、「『仕事』優先」という回答が最も多くなっている。一方女性は、全ての年代で「『家庭生活』優先」という回答が最も多くなっている。
- ・「『家庭生活』と『地域活動・個人の生活』をともに優先」という回答は、70歳以上で増加している。

【世代別性別】

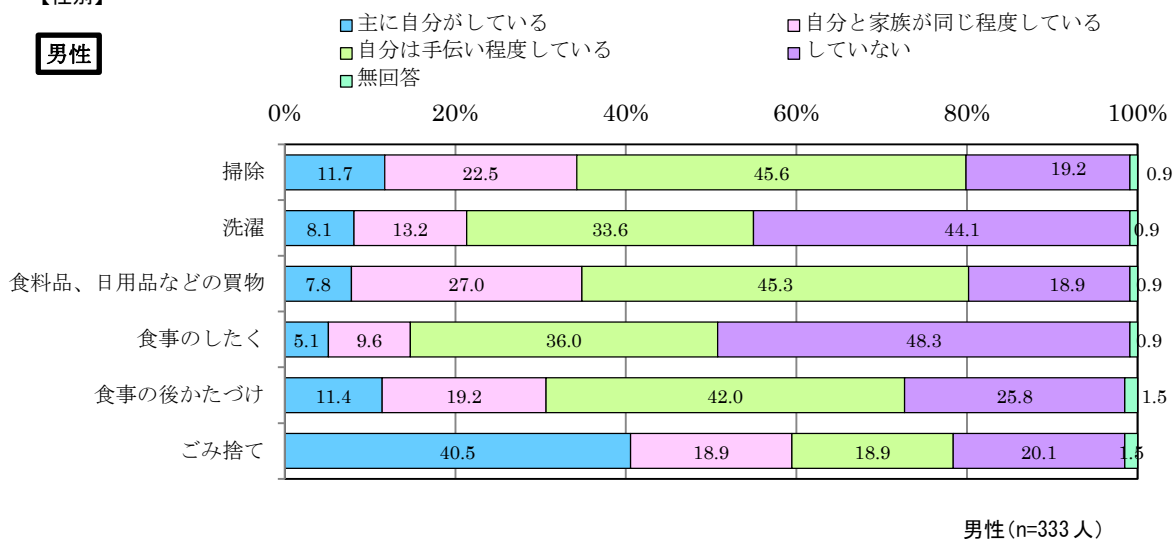


問 13 あなたは次にあげる家事をしていますか。あてはまる番号を1つずつお選びください。
 (※集計対象は世帯構成で、「単身世帯」、「その他」、「無回答」を除く 764 人とする)

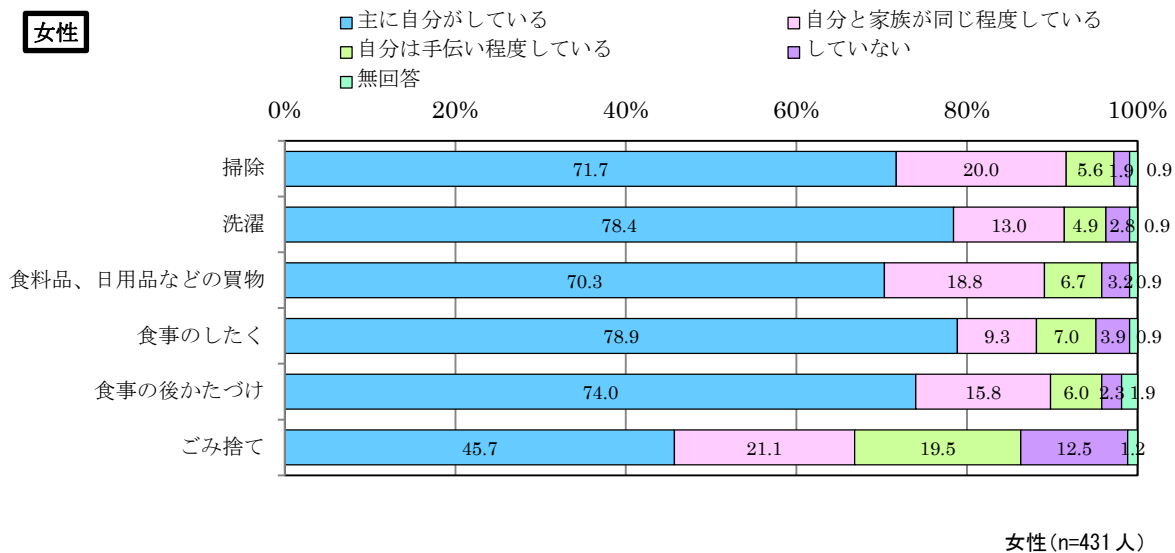
- ・全分野では、男性は、「主に自分がしている」という回答は、「ごみ捨て」が最も多く、約4割(40.5%)となっている。次いで、「掃除」(11.7%)、「食事の後かたづけ」(11.4%)と続いている。
- ・女性は、「主に自分がしている」という回答は、「食事のしたく」が最も多く、約8割(78.9%)となっている。次いで、「洗濯」(78.4%)、「食事の後かたづけ」(74.0%)となっている。

【性別】

男性



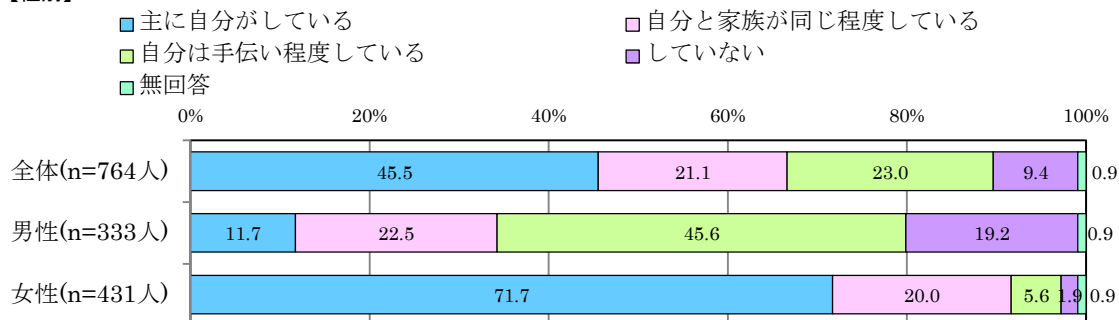
女性



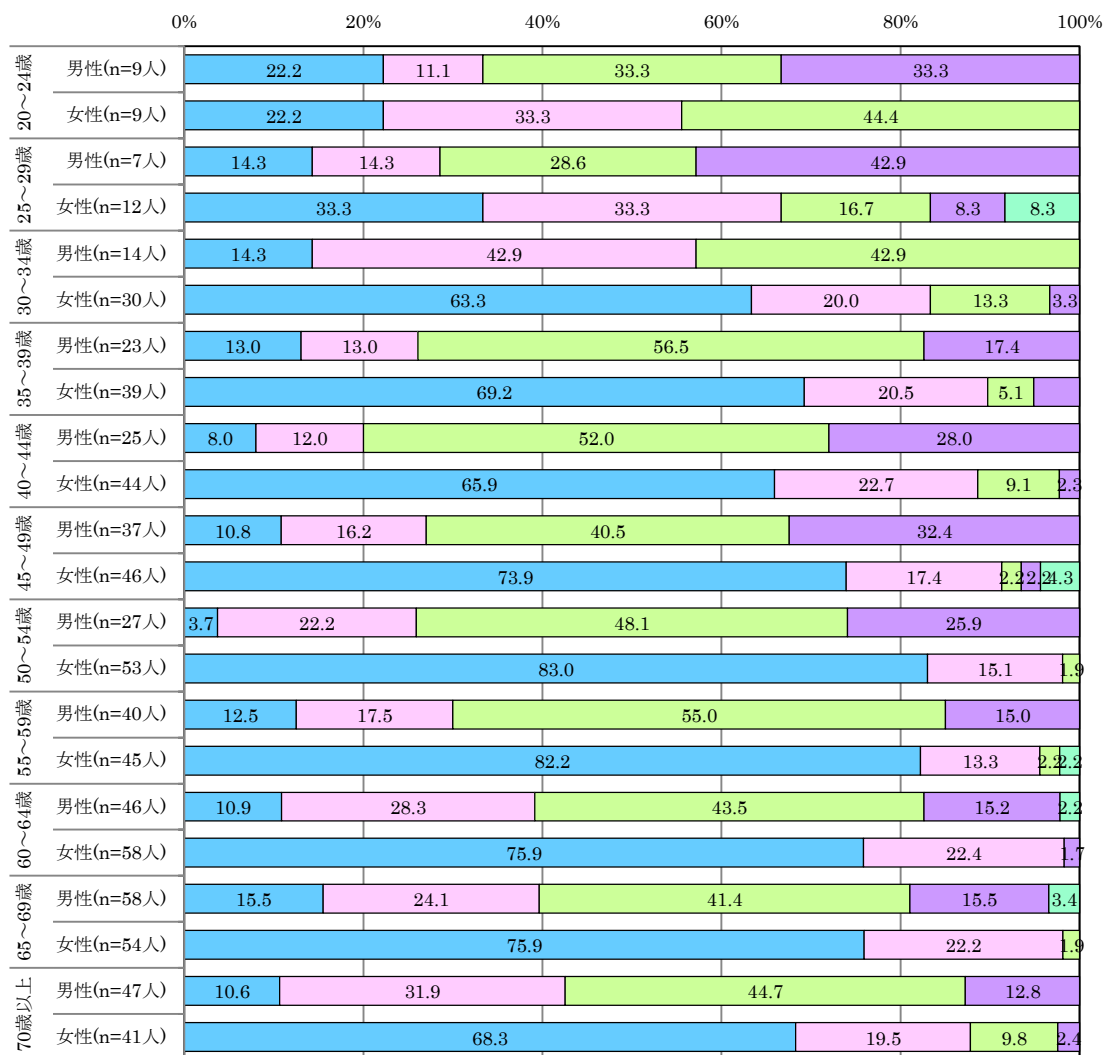
1 掃除

- ・性別でみると、女性は「主に自分がしている」(71.7%)という回答が最も多く、男性は「自分は手伝い程度している」(45.6%)という回答が最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、「していない」という回答が最も多いのは、25歳～29歳の男性42.9%となっている。

【性別】

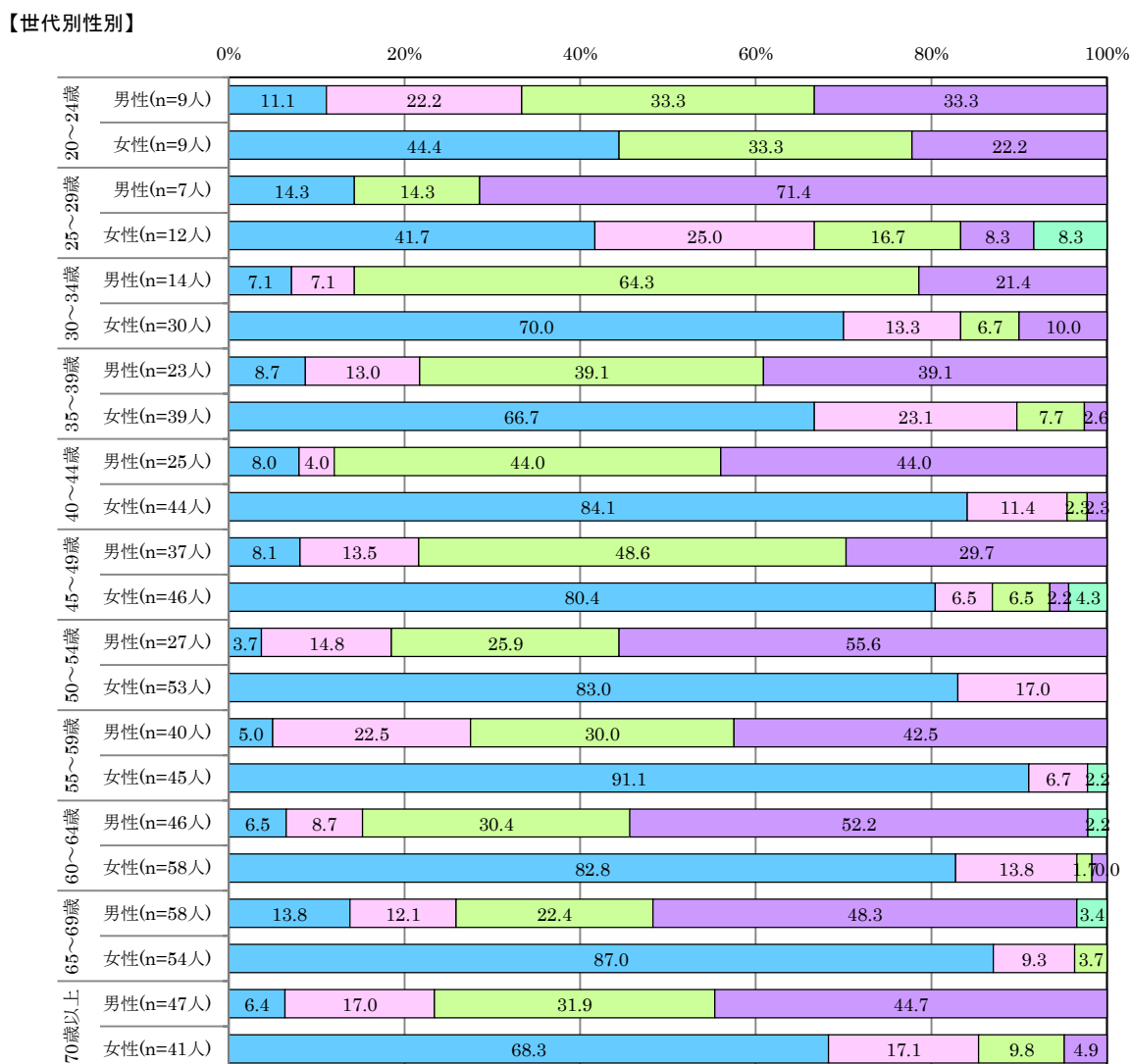
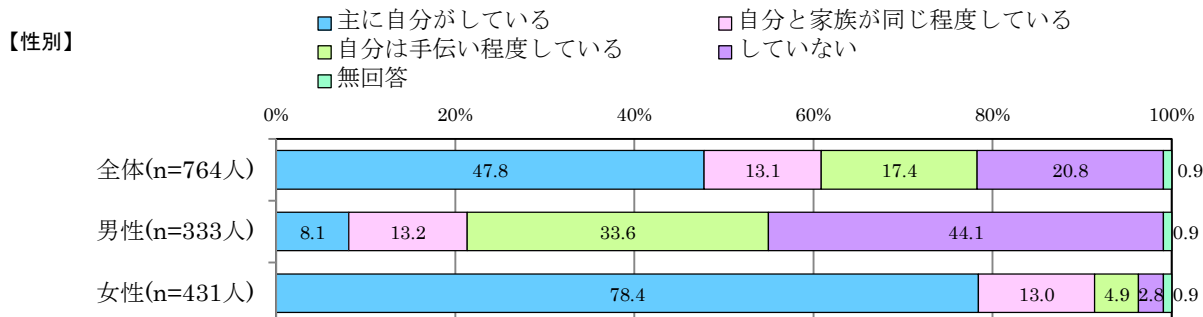


【世代別性別】



2 洗濯

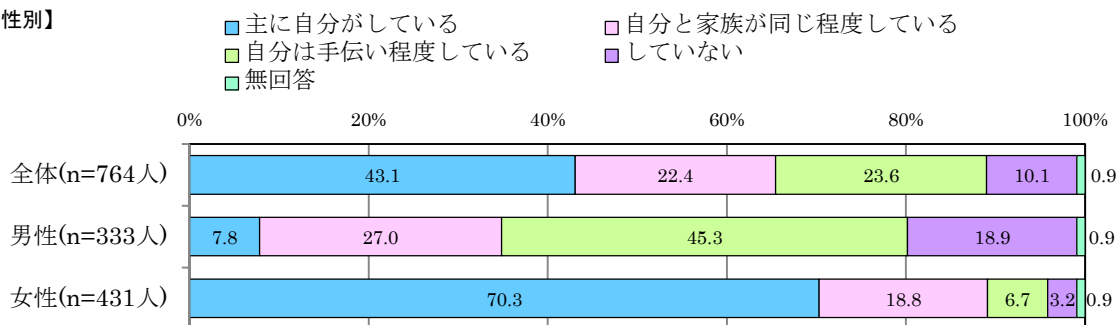
- ・性別で見ると、女性は「主に自分がしている」(78.4%)という回答が最も多く、男性は「していない」(44.1%)という回答が最も多くなっている。
- ・世代別性別で見ると、25歳～29歳の男性では、「していない」という回答割合が約7割(71.4%)となっている。



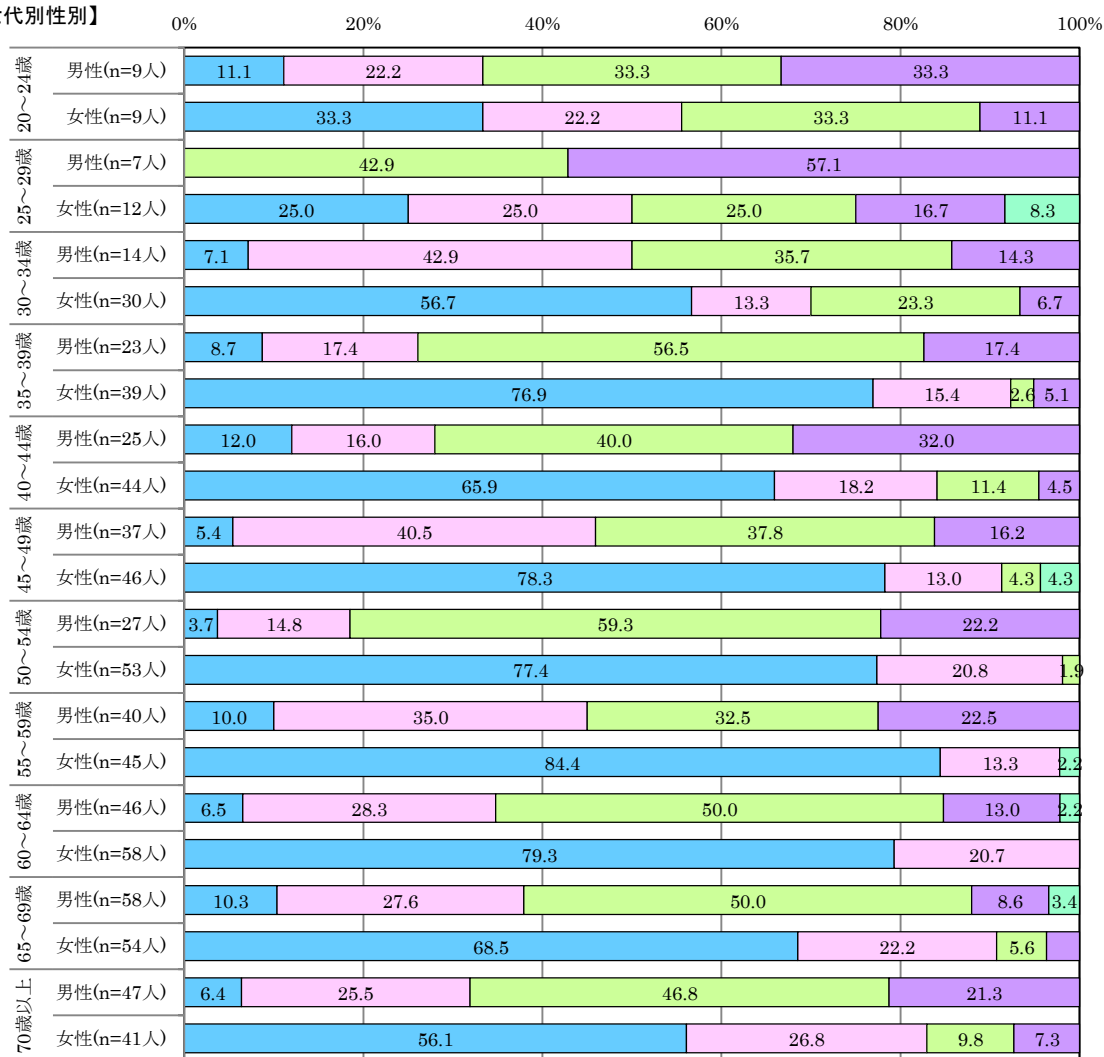
3 食料品、日用品などの買物

- ・性別でみると、女性は「主に自分がしている」(70.3%)という回答が最も多く、男性は「自分は手伝い程度している」(45.3%)という回答が最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、男性は30歳～34歳、45歳～49歳、55歳～59歳以外の全ての年代で、「自分は手伝い程度している」という回答が最も多くなっている。一方女性は、「主に自分がしている」という回答が、20歳代では約3割、30歳代以降の年代では約6～8割となっている。

【性別】

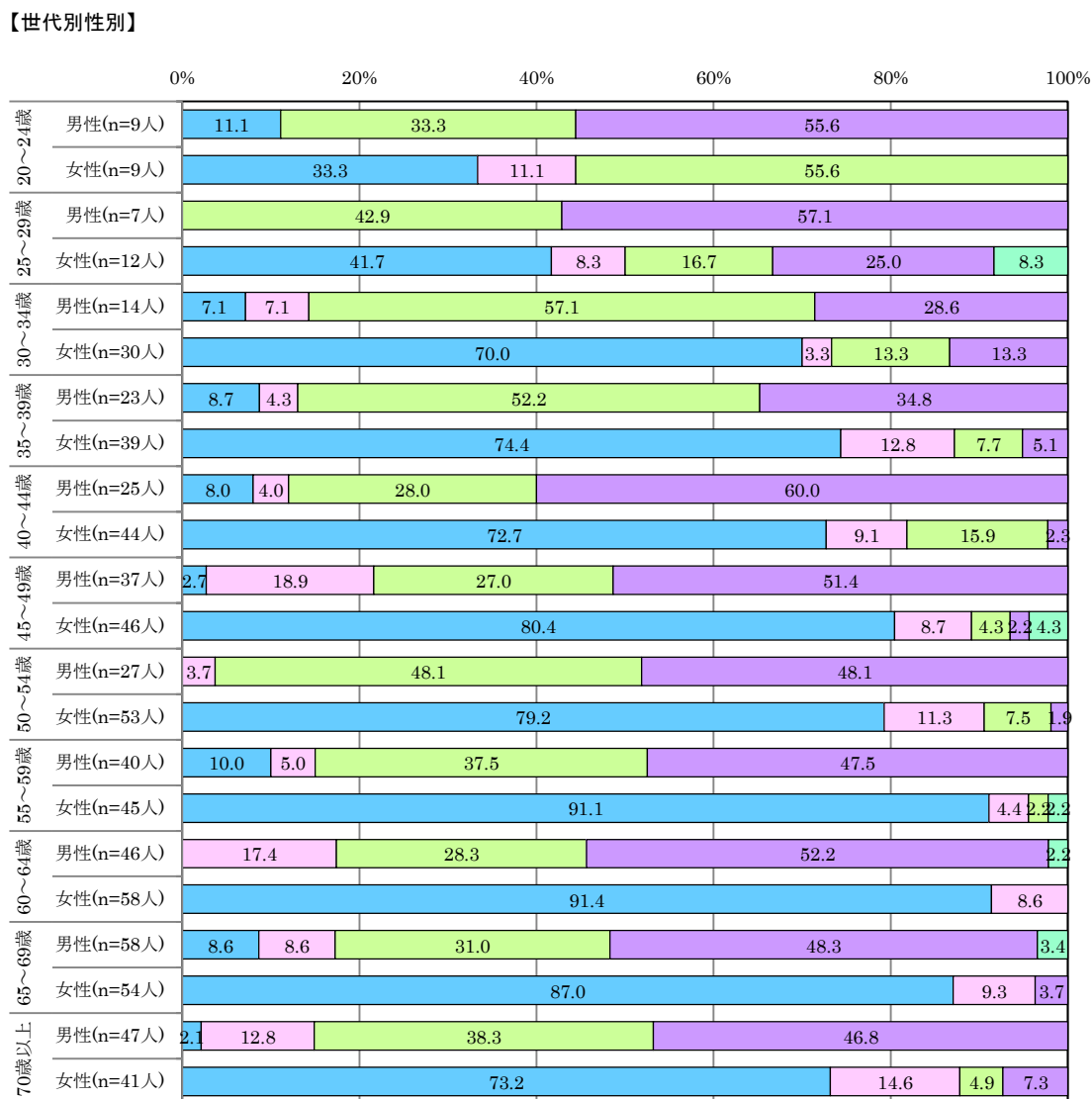
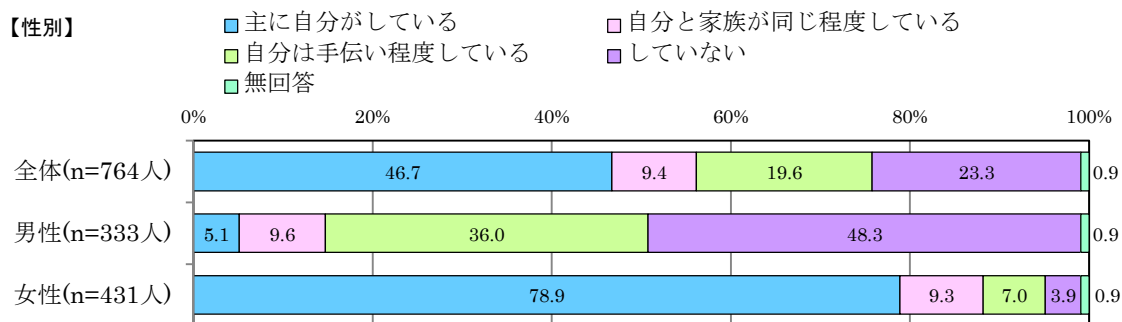


【世代別性別】



4 食事のしたく

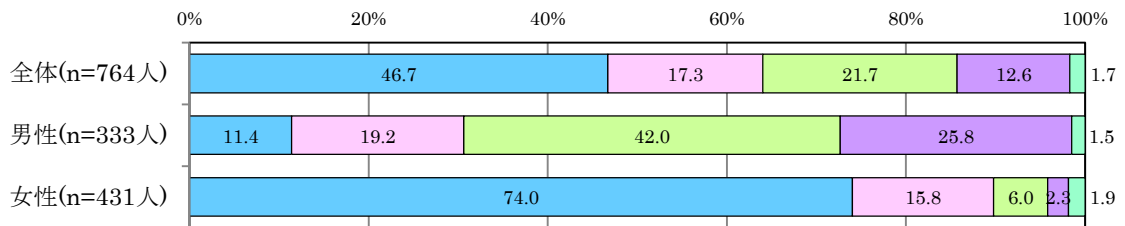
- ・性別でみると、女性は「主に自分がしている」(78.9%)という回答が最も多く、男性は「していない」(48.3%)という回答が最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、男性は、30歳代以外の年代では、「していない」という回答が最も多く、約3～6割という回答割合になっている。



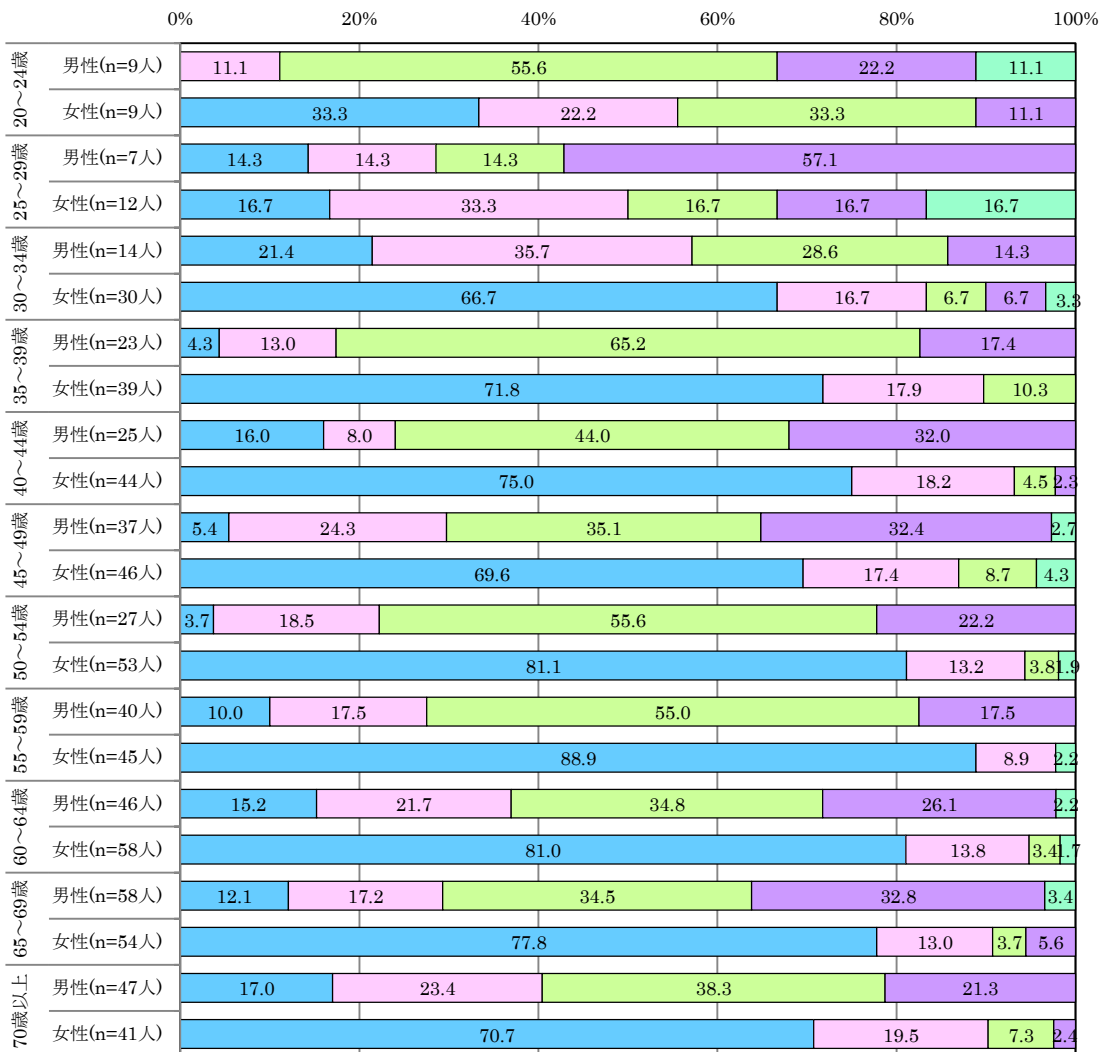
5 食事の後かたづけ

- ・性別でみると、女性は「主に自分がしている」(74.0%)という回答が最も多く、男性は「自分は手伝い程度している」(42.0%)という回答が最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、男性の中では、20歳～24歳で「主に自分がしている」という回答がなしとなっている。

【性別】



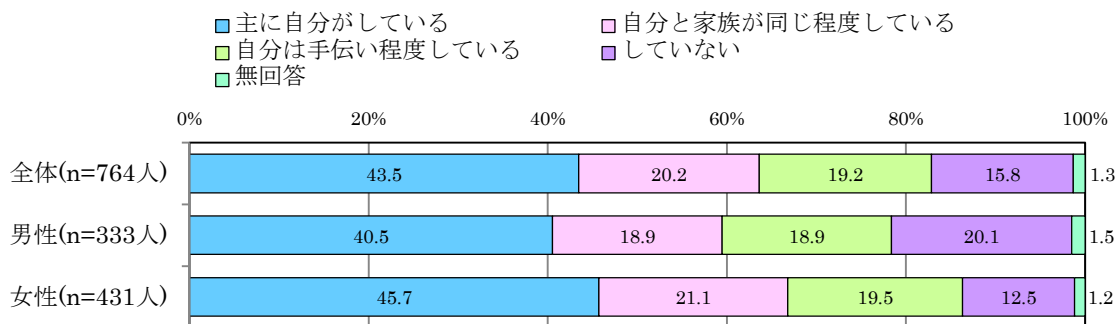
【世代別性別】



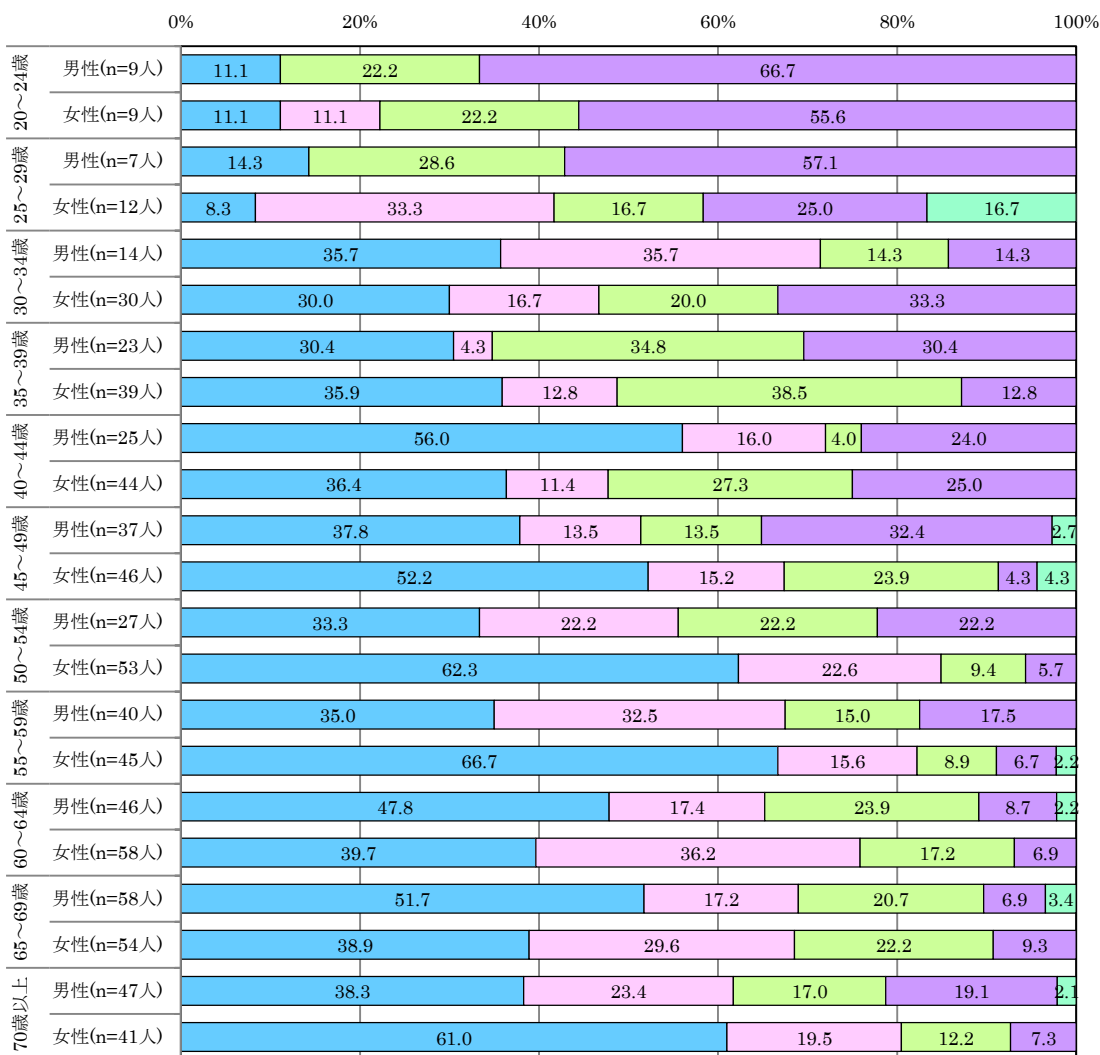
6 ごみ捨て

- ・性別でみると、男女ともに「主に自分がしている」という回答が最も多く、女性は45.7%、男性は40.5%となっている。
- ・世代別性別でみると、25歳～29歳、30歳～34歳、40歳～44歳、60歳代では、「主に自分がしている」という回答が女性よりも男性の方が多くなっている。

【性別】



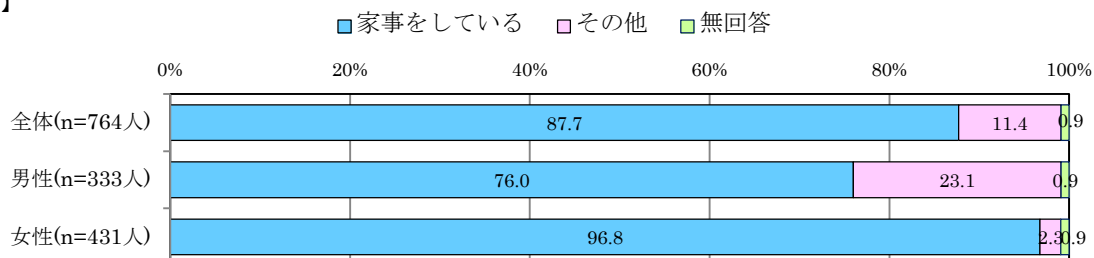
【世代別性別】



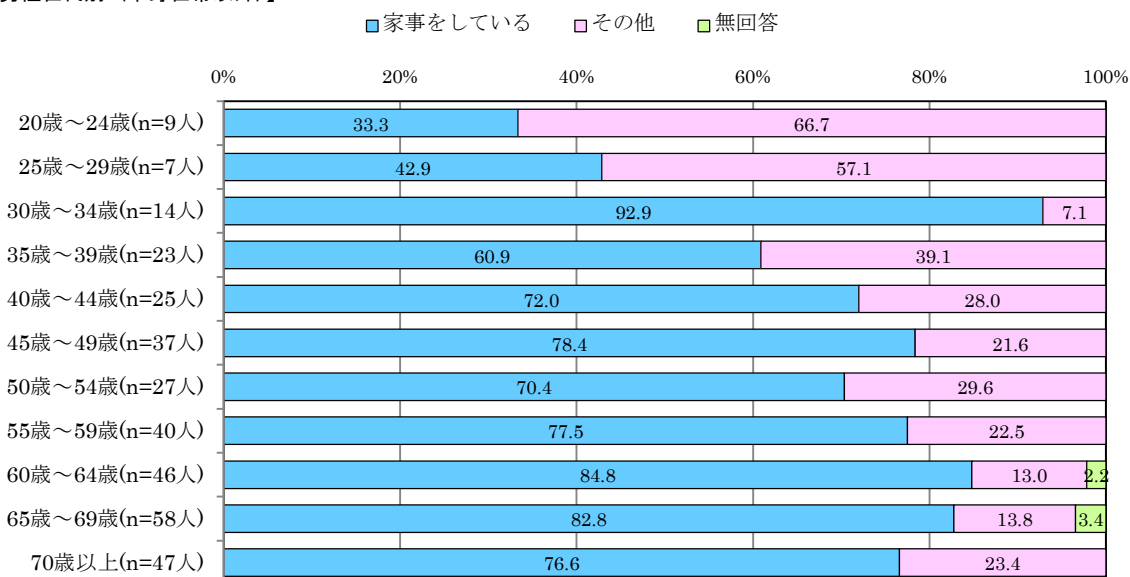
<家事への参画度>

- ・問 13 の 1 ～ 6 の家事について、いずれか1つでも「主に自分がしている」、「自分と家族が同じ程度している」と回答した方を「家事をしている」とすると、全体の 87.7%が「家事をしている」となっている。
- ・性別でみると、男性では 76.0%、女性は 96.8%の方が「家事をしている」となっており、男性は女性よりも「家事をしている」の回答割合が約 2 割低くなっている。

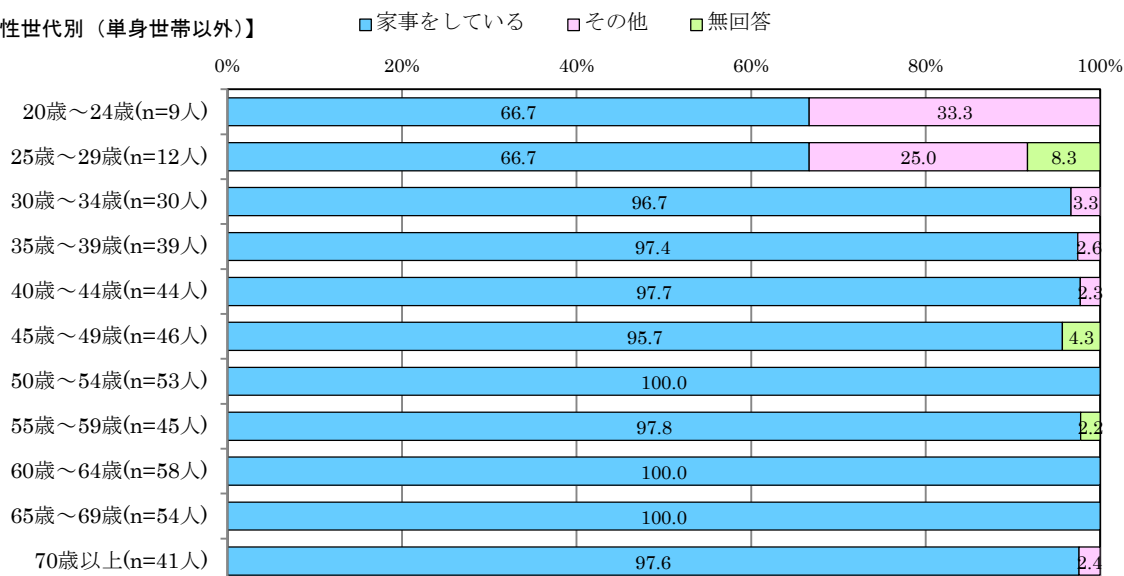
【性別】



【男性世代別（単身世帯以外）】



【女性世代別（単身世帯以外）】

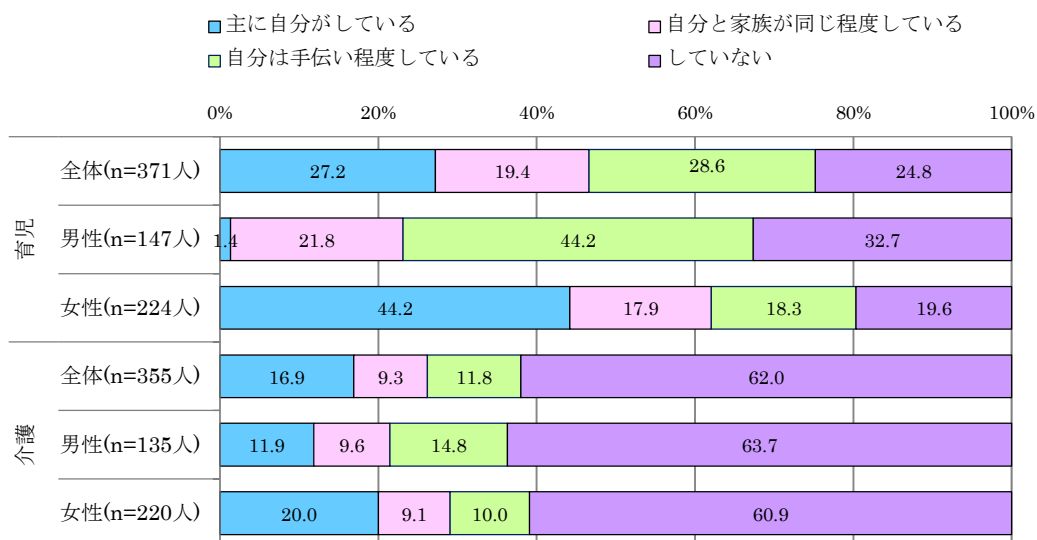


問 14 身近に育児または介護の対象者がいる方におたずねします。

あなたは育児または介護をどの程度していますか。あてはまる番号を1つずつお選びください。

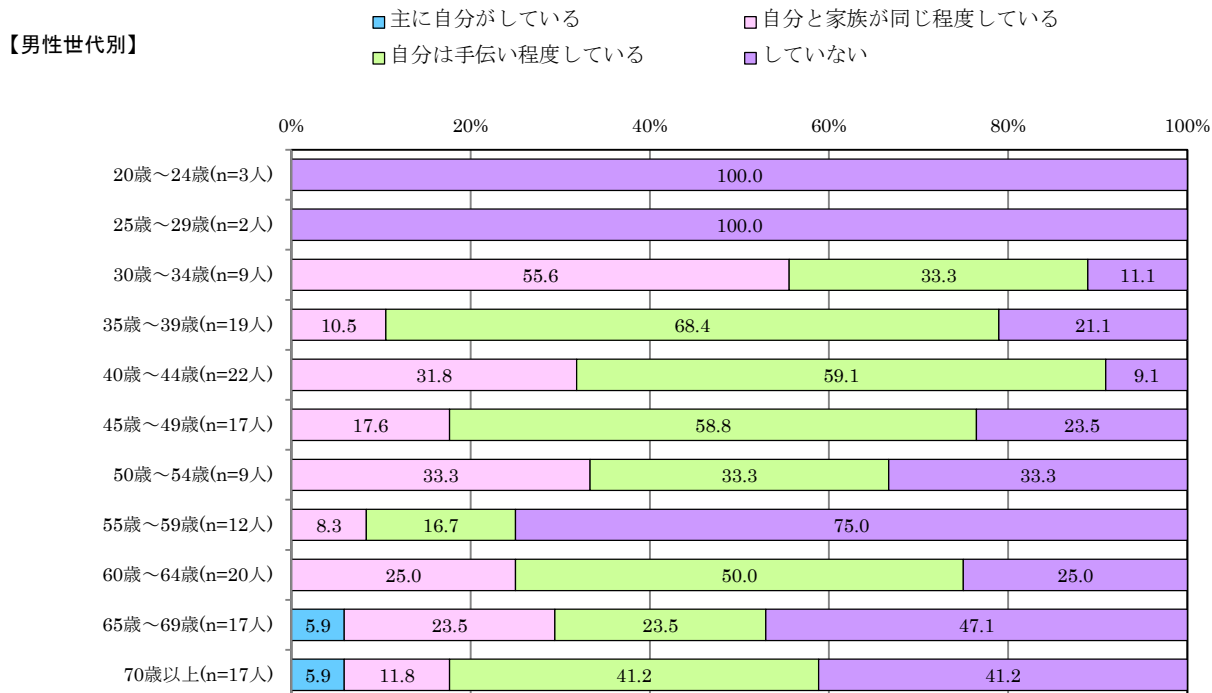
- ・育児では、「主に自分がしている」という女性の回答割合が約4割（44.2%）で、男性の回答割合1.4%と比べ大きな差がある。
 - ・介護では、男性は、「主に自分がしている」と「自分と家族が同じ程度している」の回答割合の合計が約2割（21.5%）となり、女性は約3割（29.1%）と育児に比べ性別による差は小さくなっている。
- （※無回答は、育児、介護の必要な家族がない方として集計している）。

【全分野】

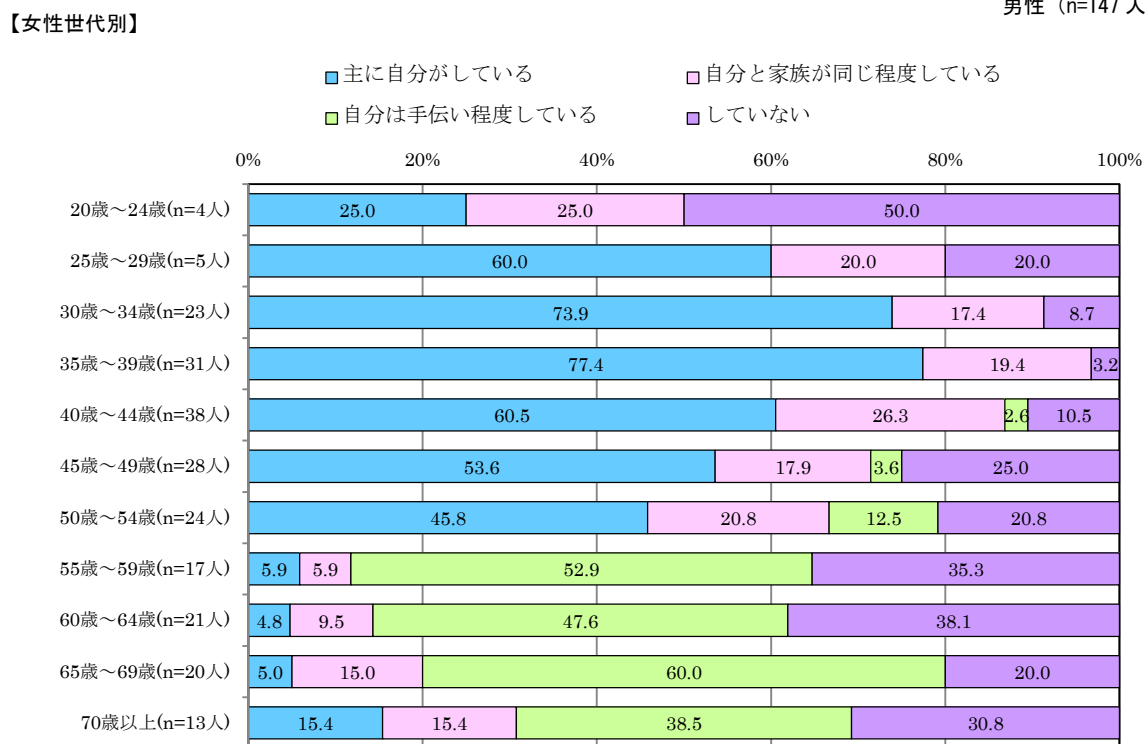


1 育児（お孫さんを含む）

- ・男性では30歳～34歳、40歳～44歳、50歳～54歳では、「主に自分がしている」、「自分と家族が同じ程度している」という回答割合の合計が約3割～6割となっている。他の年代では、約1割～2割となっている。20歳から64歳の男性では、「主に自分がしている」という回答はなく、65歳以上では若干いる結果となっている。
- ・一方、女性では「主に自分がしている」、「自分と家族が同じ程度している」と回答した女性が、55歳以上の年代以外で、それぞれの年代で約5割から9割となっている。



男性 (n=147人)

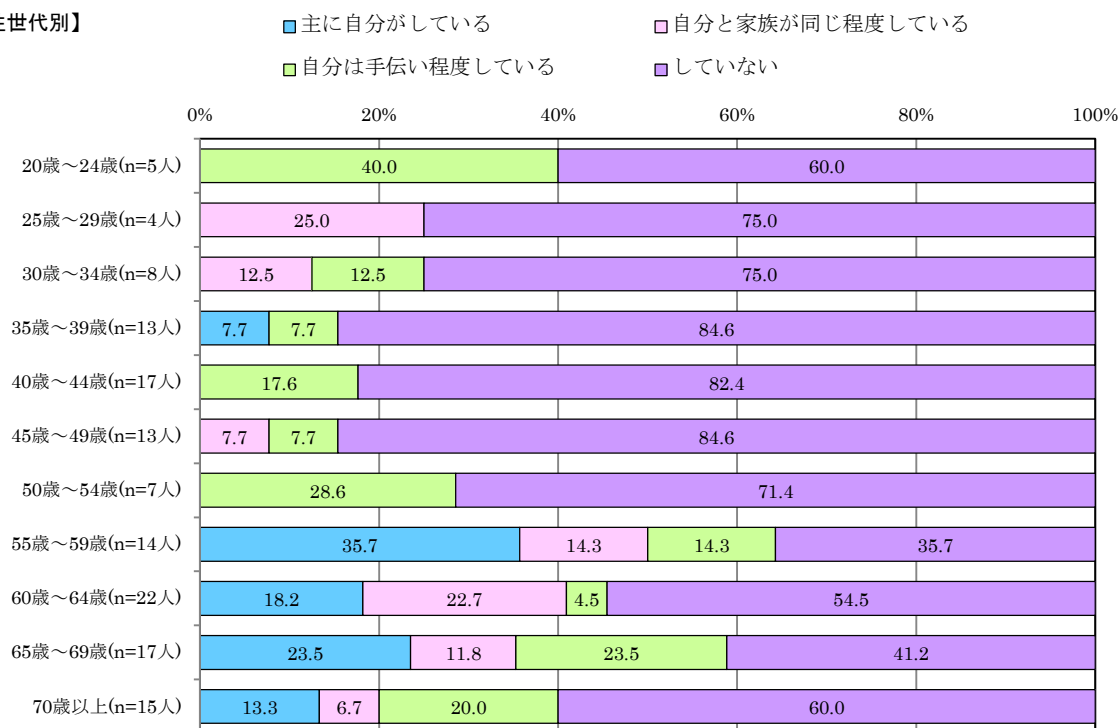


女性 (n=224人)

2 介護

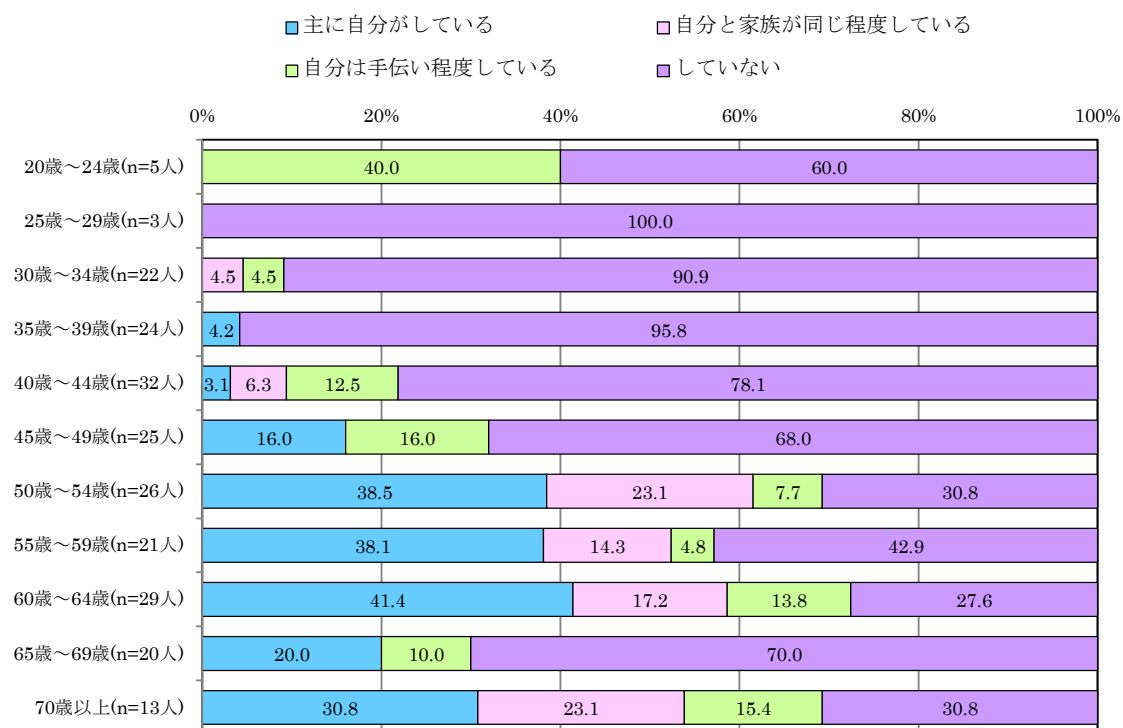
- ・性別で見ると、男性は55歳以上の年代から、女性は50歳以上の年代から介護に関わる人の割合が多くなっており、「主に自分がしている」という回答割合が男性に比べ女性の方が多くなっている。

【男性世代別】



男性 (n=135人)

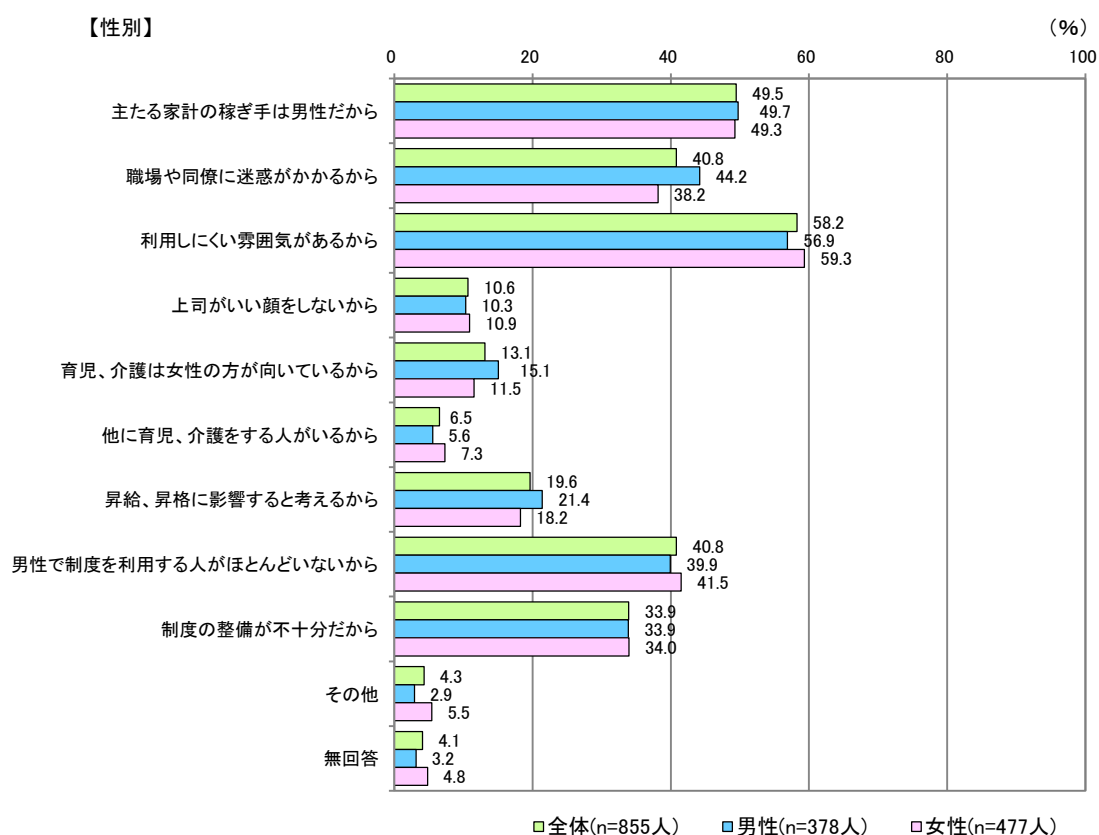
【女性世代別】



女性 (n=220人)

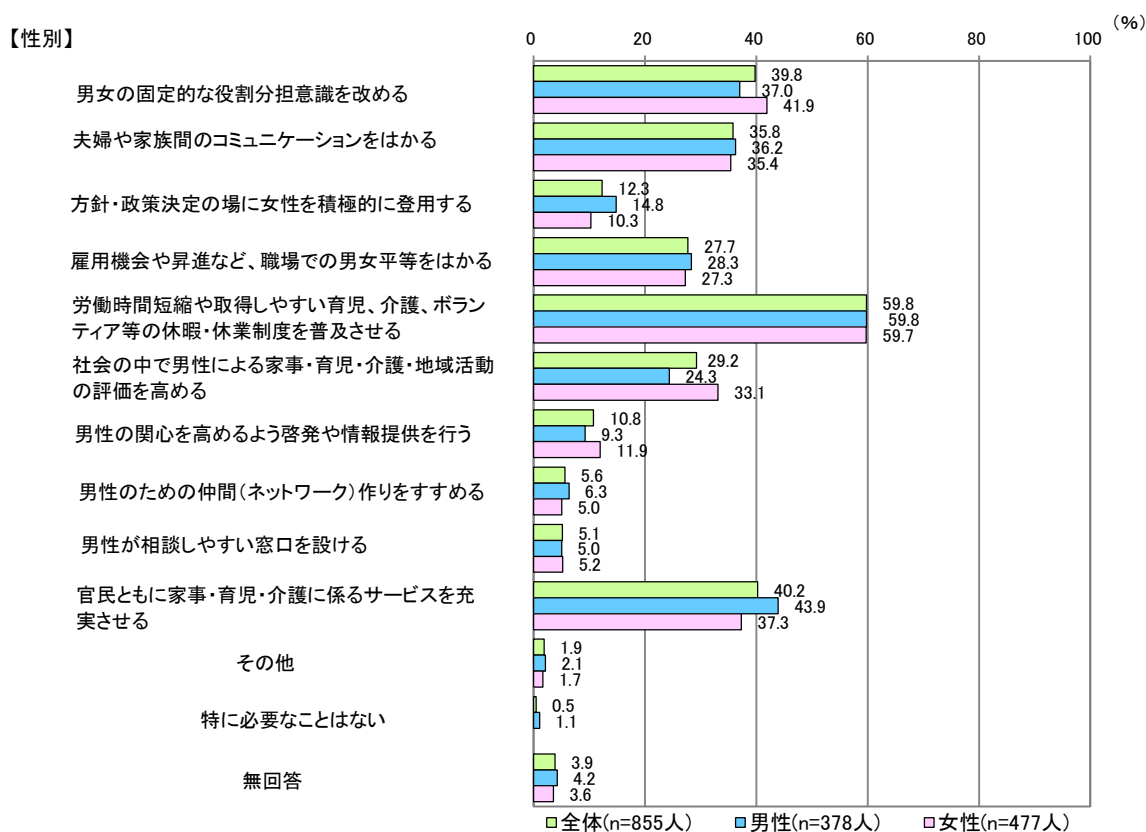
問 15 男性が「育児・介護休業制度」を利用することが進まないのは、どうしてだと思いますか。主な理由を次の中から3つまでお選びください。

- 全体でみると、最も回答割合が多いのは、「利用しにくい雰囲気があるから」(58.2%)で、約6割となっている。次いで、「主たる家計の稼ぎ手は男性だから」(49.5%)、「職場や同僚に迷惑がかかるから」(40.8%)と「男性で制度を利用する人がほとんどいないから」(40.8%)は同じ回答割合となっている。
- 性別でみると、男性では、「利用しにくい雰囲気があるから」(56.9%)と「主たる家計の稼ぎ手は男性だから」(49.7%)という回答が多くなっている。次に、「職場や同僚に迷惑がかかるから」(44.2%)となっている。
- 女性では男性同様、「利用しにくい雰囲気があるから」(59.3%)が最も多くなっている。次いで、2番目に「主たる家計の稼ぎ手は男性だから」(49.3%)、3番目に「男性で制度を利用する人がほとんどいないから」(41.5%)の順となる。



問 16 今後、女性と男性がともに仕事・家事・育児・介護・地域活動等に積極的に参加していくためには、どのようなことが重要だと思えますか。次の中から3つまでお選びください。

- ・全体では、「労働時間短縮や取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させる」(59.8%) が最も多く、約6割となっている。次に、「官民ともに家事・育児・介護に係るサービスを充実させる」(40.2%)、「男女の固定的な役割分担意識を改める」(39.8%)、「夫婦や家族間のコミュニケーションをはかる」(35.8%)、「社会の中で男性による家事・育児・介護・地域活動の評価を高める」(29.2%)の順で続いている。
- ・性別で見ると、男性は、「労働時間短縮や取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させる」(59.8%) が最も多く、約6割となっている。次いで、「官民ともに家事・育児・介護に係るサービスを充実させる」(43.9%)、「男女の固定的な役割分担意識を改める」(37.0%)、「夫婦や家族間のコミュニケーションをはかる」(36.2%)、「雇用機会や昇進など、職場での男女平等をはかる」(28.3%)の順となる。女性も、「労働時間短縮や取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させる」(59.7%)という回答が最も多い。次に、「男女の固定的な役割分担意識を改める」(41.9%)、「官民ともに家事・育児・介護に係るサービスを充実させる」(37.3%)、「夫婦や家族間のコミュニケーションをはかる」(35.4%)の順となっている。

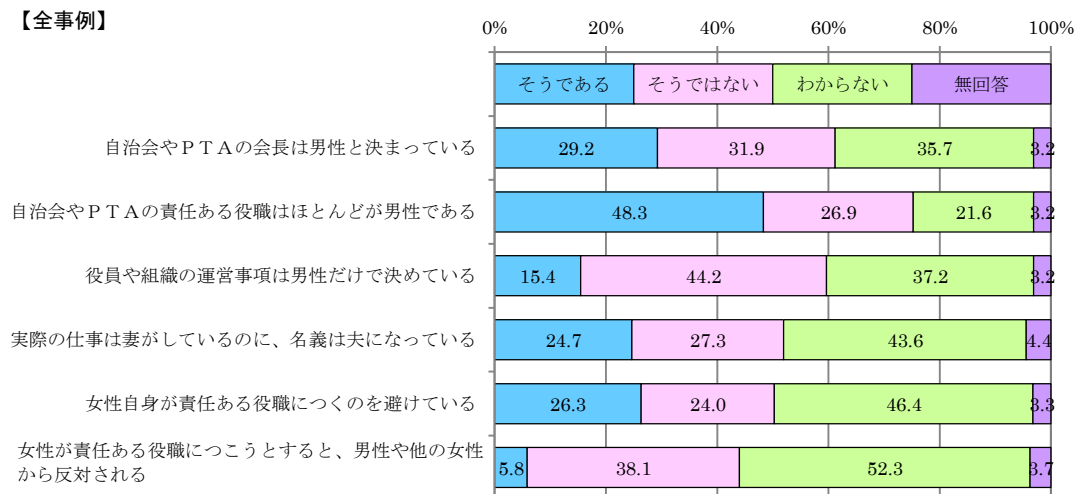


地域社会に関することについて

問 17 あなたが住んでいる地域では、自治会・PTA・そのほかの地域での活動において次のような事例が見受けられますか。あてはまる番号を1つずつお選びください。

- ・「そうである」という回答でみると、「自治会やPTAの責任ある役職はほとんどが男性である」が最も多く、約5割（48.3%）となっている。次に、「自治会やPTAの会長は男性と決まっている」（29.2%）、「女性自身が責任ある役職につくのを避けている」（26.3%）と続いている。
- ・一方、「そうではない」という回答は、「役員や組織の運営事項は男性だけで決めている」（44.2%）が最も多く、約4割となっている。次いで、「女性が責任ある役職につこうとすると、男性や他の女性から反対される」（38.1%）、「自治会やPTAの会長は男性と決まっている」（31.9%）と続いている。

【全事例】

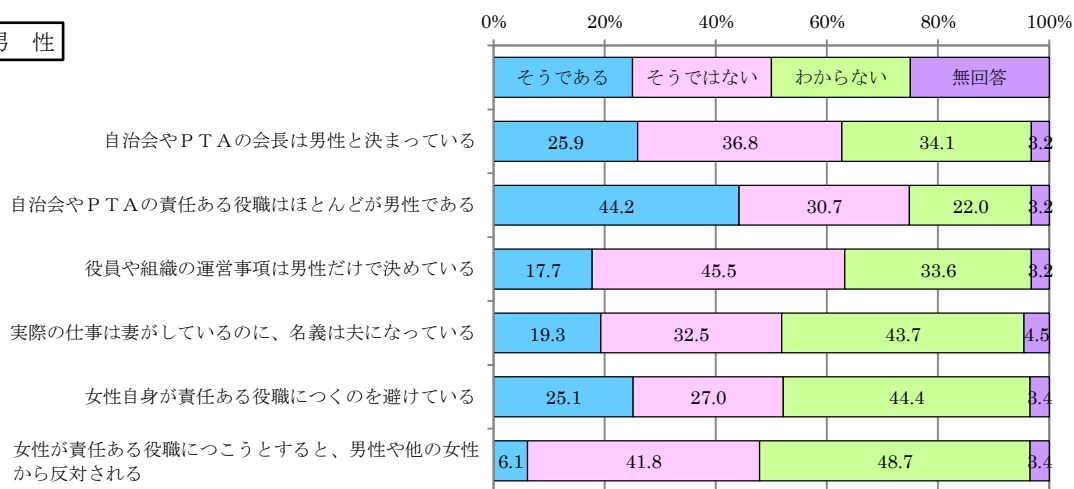


全体 (n=855 人)

- ・性別でみると、男女ともいずれの事例においても同じような傾向になっており、男女による大きな差異はみられない。

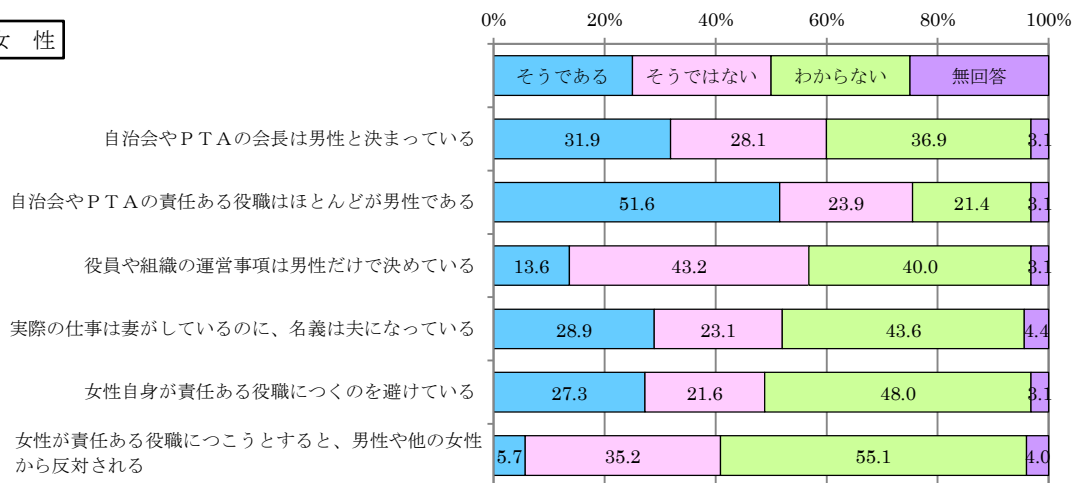
【性別】

男性



男性 (n=378 人)

女性

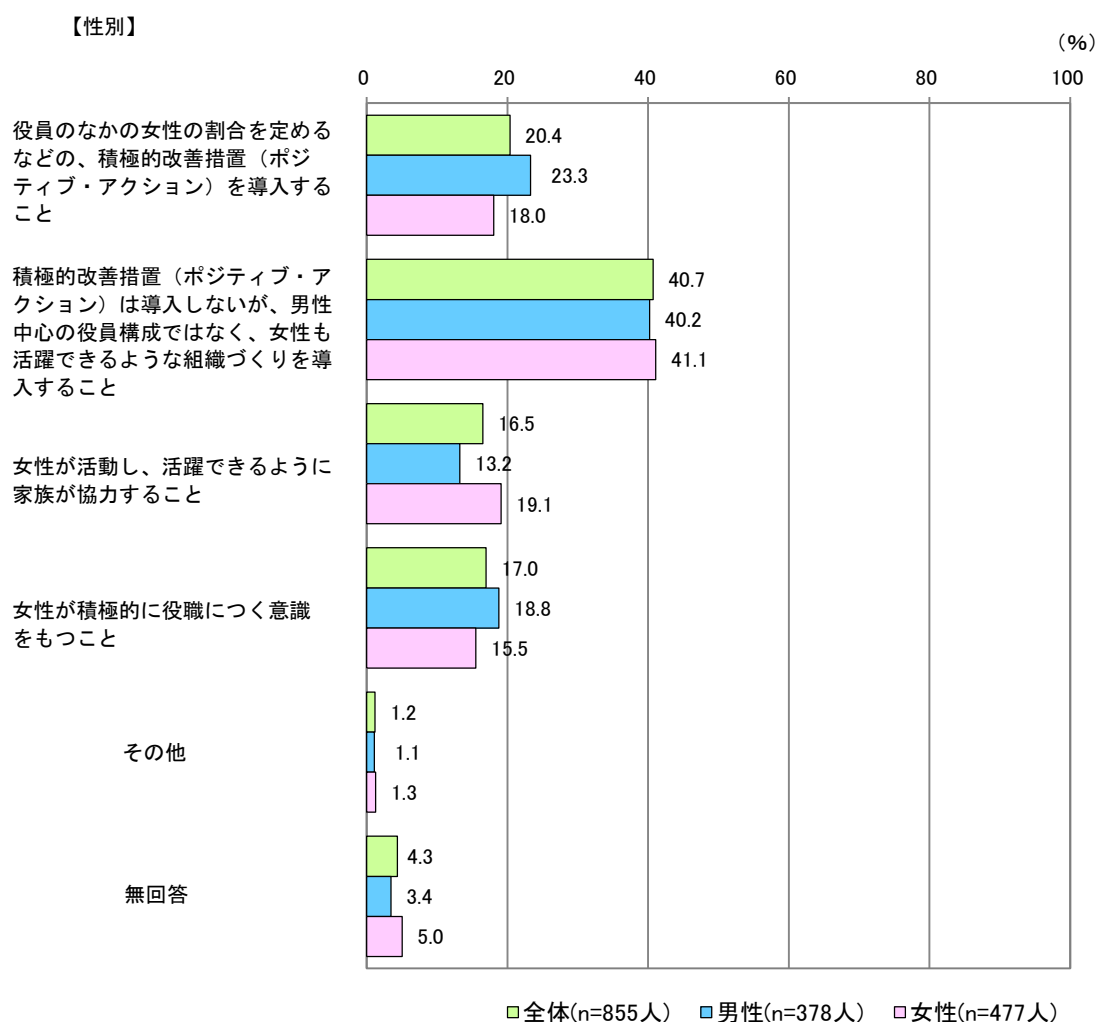


女性 (n=477 人)

問 18 女性も地域の重要な方針決定の場に出させていただく必要があります。

あなたは、どうすればそれが可能だと思いますか。次の中から1つお選びください。

- ・全体でみると、「積極的改善措置（ポジティブ・アクション）は導入しないが、男性中心の役員構成ではなく、女性も活躍できるような組織づくりを導入すること」が最も多く、4割（40.7%）を超えている。次に、「役員の中かの女性の割合を定めるなどの、積極的改善措置（ポジティブ・アクション）を導入すること」（20.4%）、「女性が積極的に役職につく意識をもつこと」（17.0%）と続いている。
- ・性別でみると、男女どちらも「積極的改善措置（ポジティブ・アクション）は導入しないが、男性中心の役員構成ではなく、女性も活躍できるような組織づくりを導入すること」という回答が最も多く、4割を超えている。次に、男性は、「役員の中かの女性の割合を定めるなどの、積極的改善措置（ポジティブ・アクション）を導入すること」（23.3%）が続き、一方女性は、「女性が活動し、活躍できるように家族が協力すること」（19.1%）が2番目となる。

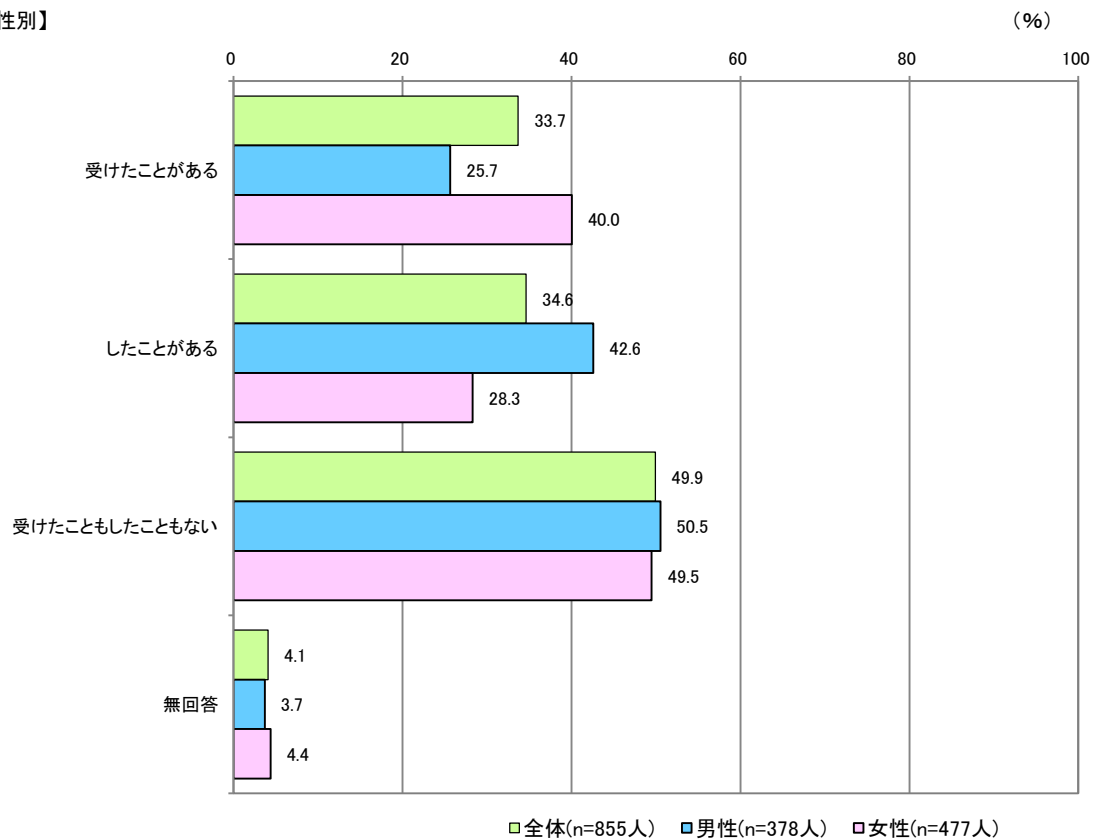


男女の人権に関することについて

問 19 身近な人（夫・妻・恋人）からの暴力が、DV（ドメスティック・バイオレンス）として問題になっています。次にあげる行為は、DVにあたる行為です。あなたは、今までにこれらの行為を受けた又はしたことがありますか。あてはまる番号を1つずつお選びください。

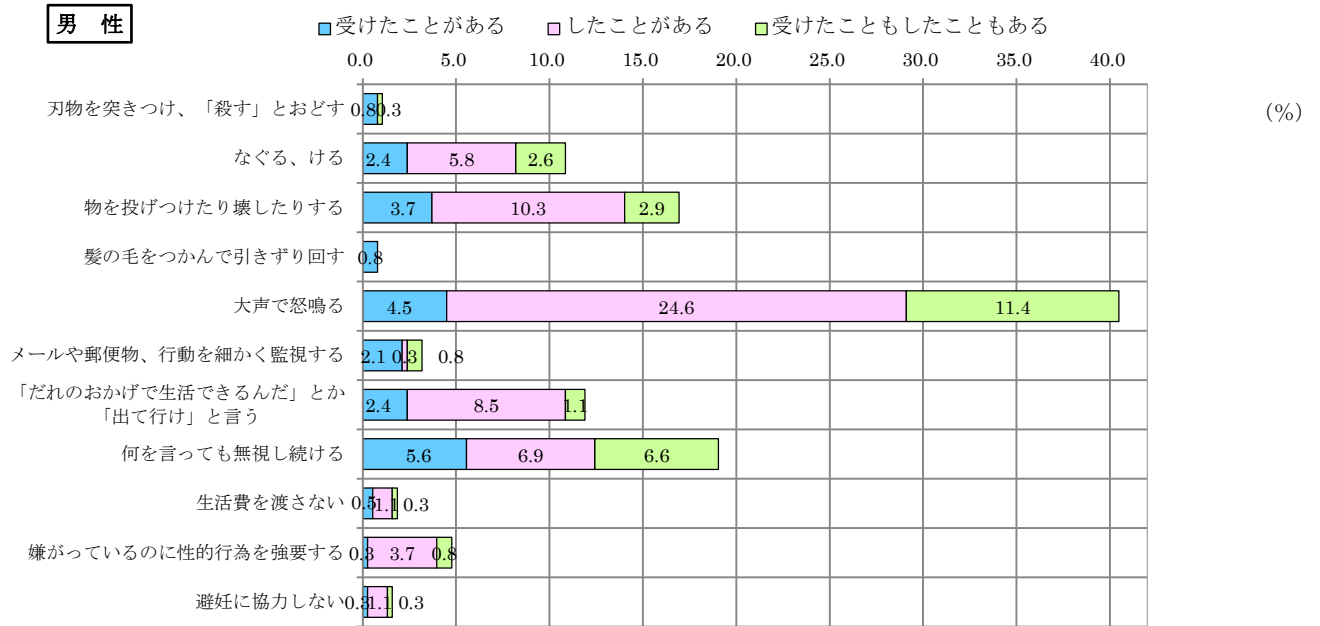
- ・性別では、男性で「したことがある」（42.6%）なのに対し、女性では「受けたことがある」（40.0%）となっている。

【性別】

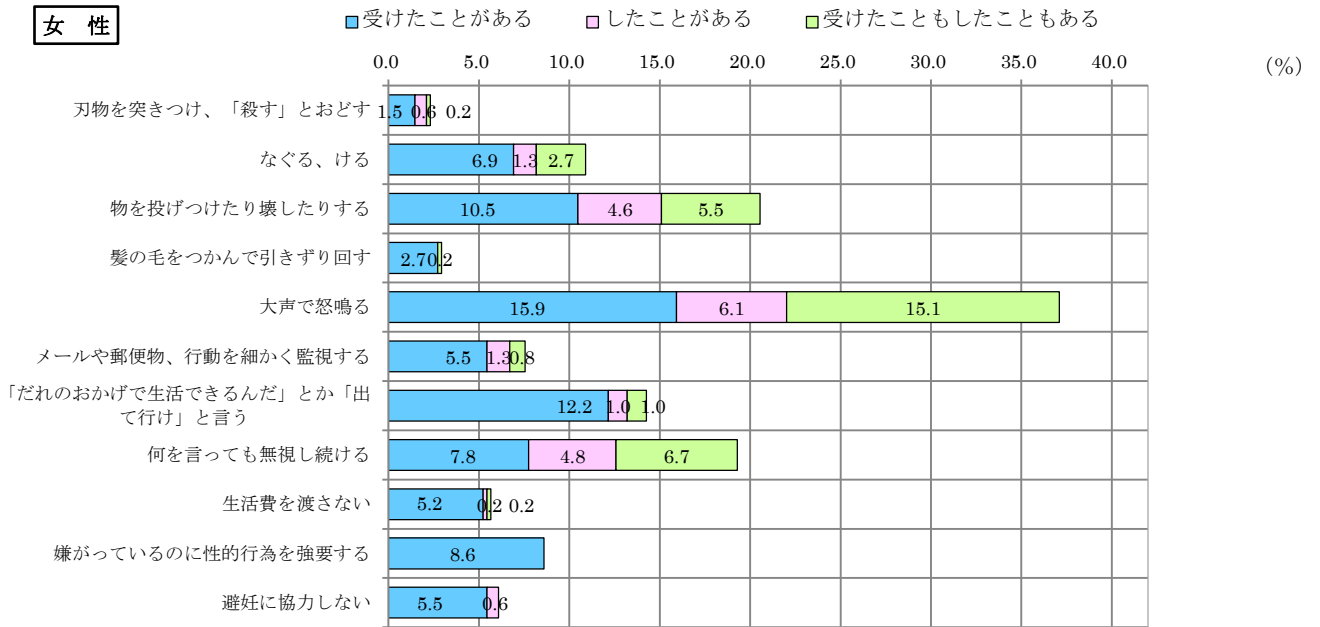


- ・性別で見ると、「受けたこともしたこともない」という回答がどの行為においても大多数となっている。
- ・「受けたことがある」という回答については女性が多く、反対に「したことがある」という回答については、男性の回答が多くなっている。「大声で怒鳴る」、「何を言っても無視し続ける」については、回答の傾向が、男性、女性ともほぼ同じとなっている。

【性別】



男性 (n=378 人)



女性 (n=477 人)

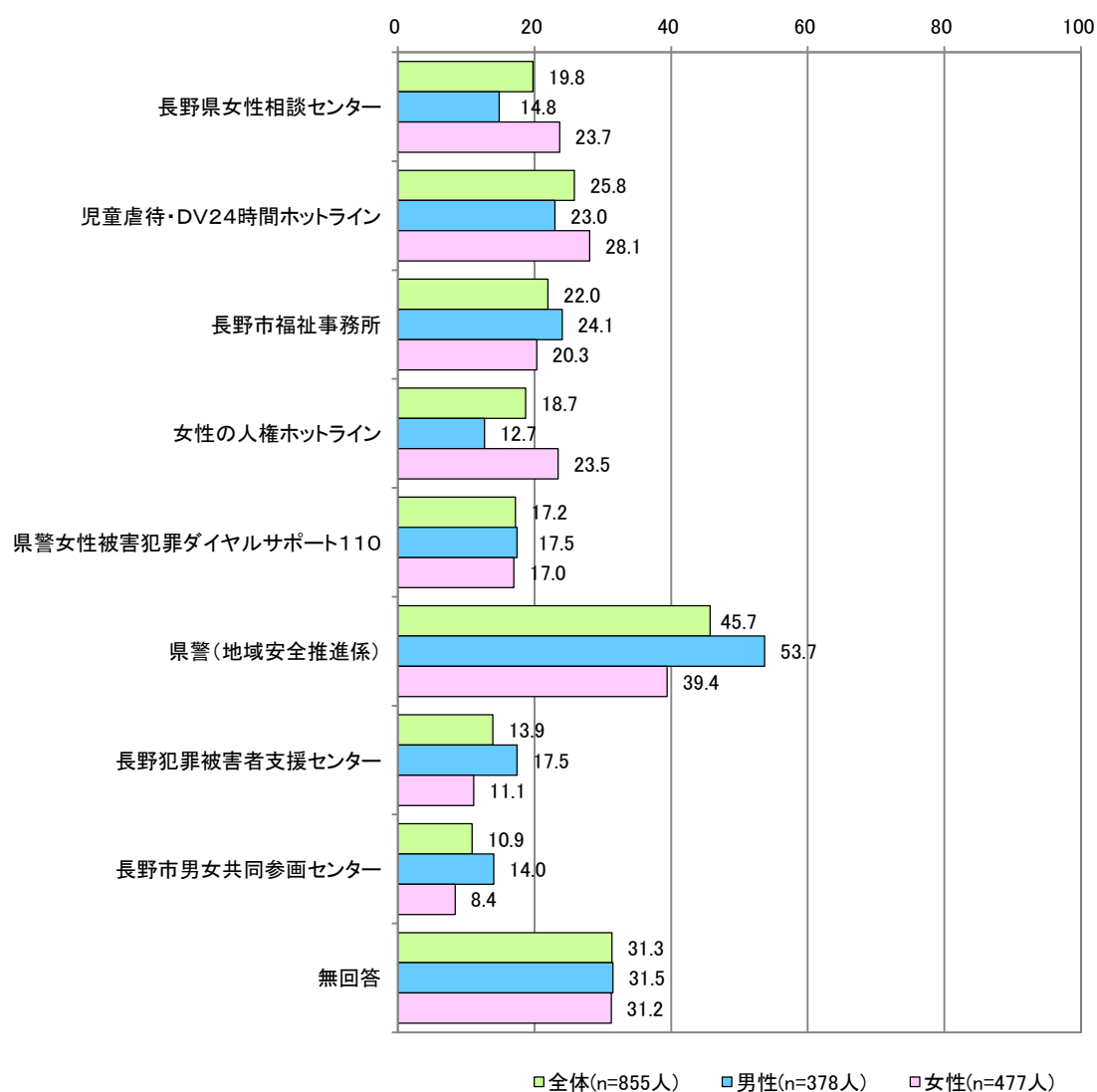
※無回答は男性で 3.4%~4.5%、女性で 3.6%~4.4%で、残りの回答は「受けたこともしたこともない」

問 20 あなたはDV（ドメスティック・バイオレンス）にあったとき、相談するところをご存知ですか。知っている相談窓口すべてをお選びください。

- ・全体でみると、最も回答が多かったのは「県警（地域安全推進係）」（45.7%）で、4割を超えている。次いで、「児童虐待・DV 24時間ホットライン」（25.8%）、「長野市福祉事務所」（22.0%）、「長野県女性相談センター」（19.8%）、「女性の人権ホットライン」（18.7%）と続いている。
- ・性別でみると、男性においては、「県警（地域安全推進係）」（53.7%）が約5割で最も多くなっている。次に、「長野市福祉事務所」（24.1%）、「児童虐待・DV 24時間ホットライン」（23.0%）の順となる。
- ・一方、女性においては、「県警（地域安全推進係）」（39.4%）と「児童虐待・DV 24時間ホットライン」（28.1%）と続いている。女性の3番目に多い回答は、「長野県女性相談センター」（23.7%）となっており、男性の回答とは認知度に差がある。

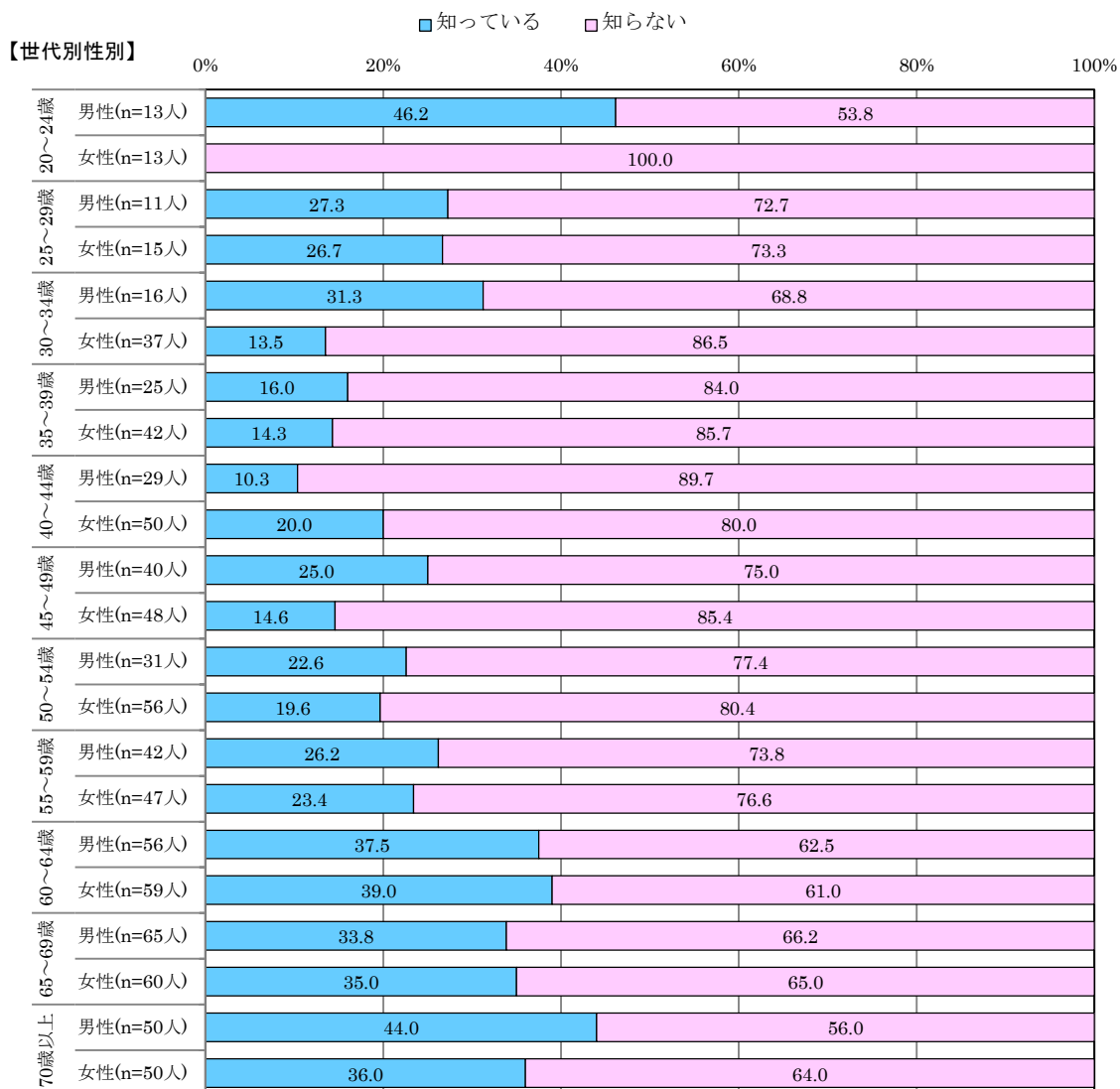
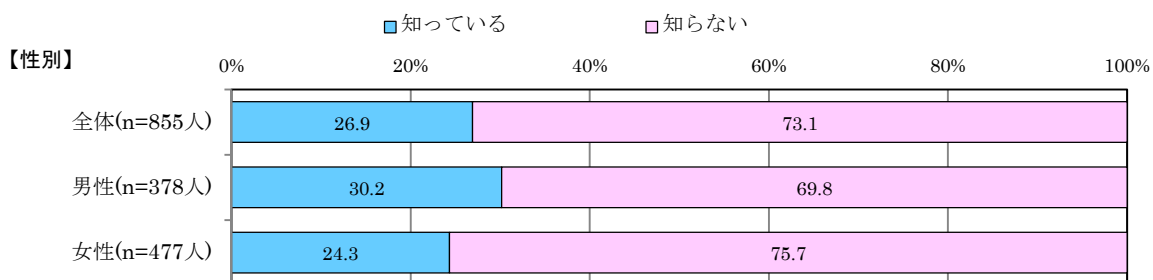
【性別】

(%)



<DV被害に対する市の対応窓口の認知度>

- ・問 20 において、「長野市福祉事務所」及び「長野市男女共同参画センター」のいずれかを「知っている」回答割合は、約 3 割（26.9%）となっている。
- ・性別でみると、「長野市福祉事務所」及び「長野市男女共同参画センター」のいずれかを「知っている」回答割合は、「男性」の方が「女性」よりやや高くなっている。
- ・世代別性別でみると、男性では、20 歳～24 歳、70 歳以上の年代において認知度が 4 割を超えている。一方、女性は 60 歳以上で認知度が高くなっている。20 歳～24 歳では、回答なしとなっている。

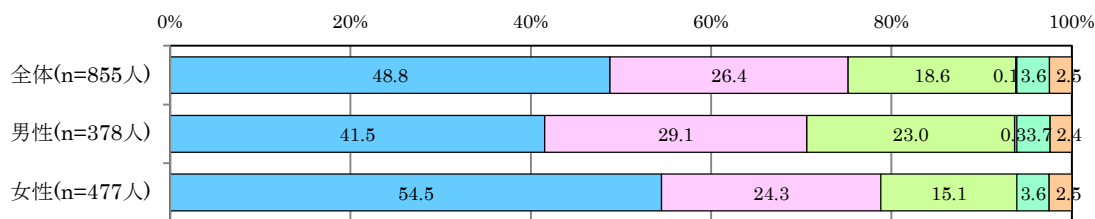


問 21 DV（ドメスティック・バイオレンス）についてあなたの考えに最も近いのは
 どれですか。次の中から1つお選びください。

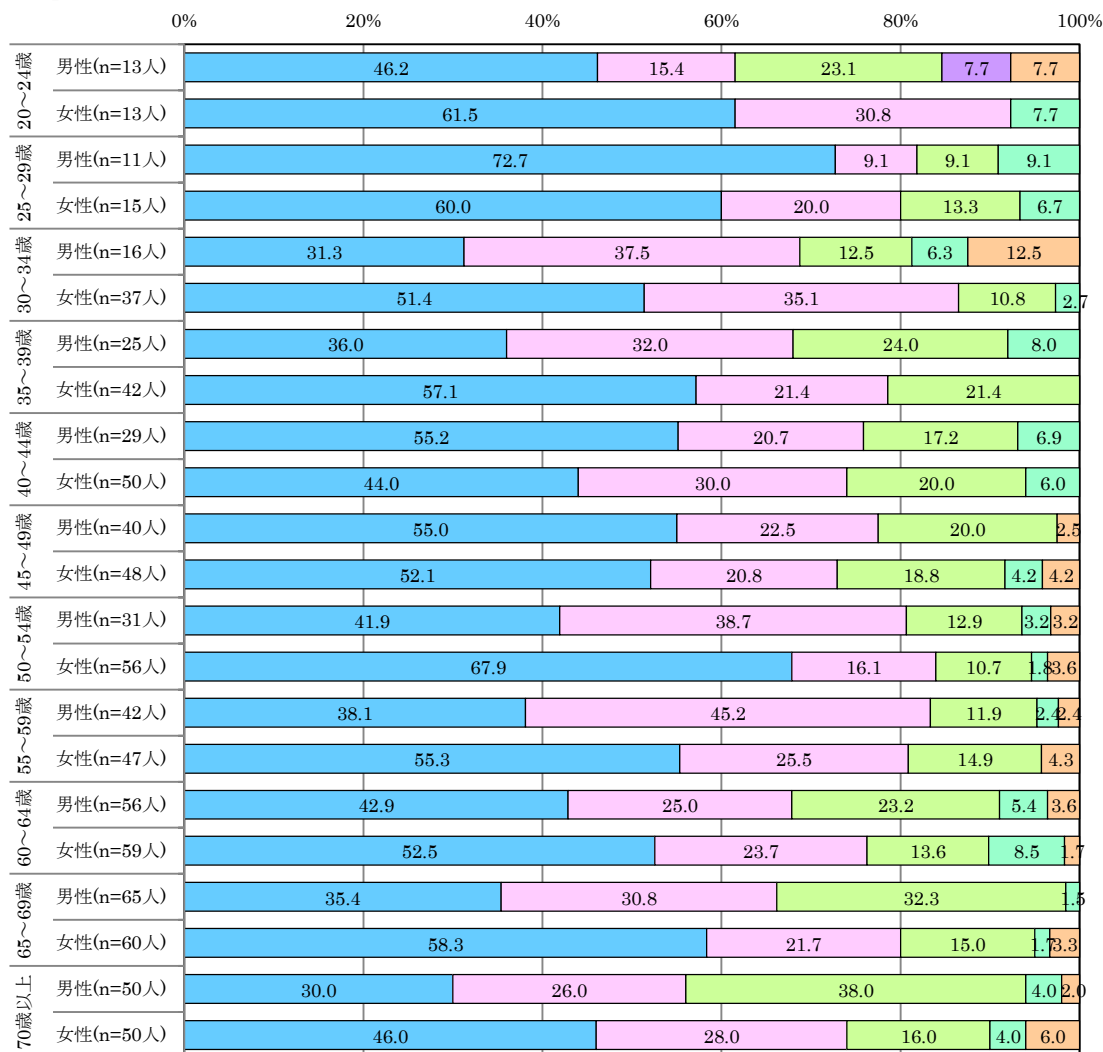
- 全体でみると、「どんな場合でも重大な人権侵害にあたる」（48.8%）が最も多い回答となっており、約5割となる。次いで、「どんな場合でも人権侵害にあたると思う」（26.4%）、「人権侵害にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」（18.6%）と続いている。
- 性別でみると、男女とも最も多い回答が、「どんな場合でも重大な人権侵害にあたる」という回答で、「どんな場合でも人権侵害にあたると思う」が2番目に多い回答になっている。
- 世代別性別でみると、70歳以上の男性で、「人権侵害にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」という回答が多くなっている。

【性別】

- どんな場合でも重大な人権侵害にあたると思う
- 人権侵害にあたる場合も、そうでない場合もあると思う
- わからない
- どんな場合でも人権侵害にあたると思う
- 人権侵害にあたるとは思わない
- 無回答



【世代別性別】



男女共同参画施策に関するについて

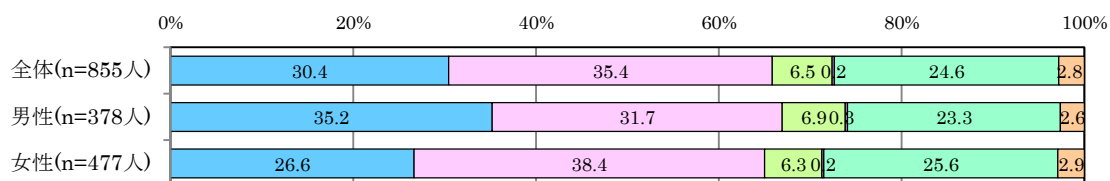
問 22 平成 28 年 4 月 1 日現在の長野市議会議員のうち女性議員の数(割合)は、6 人(15.4%)、平成 28 年 4 月 1 日現在の住民自治協議会における女性役員の数(割合)は 417 人(15.7%)となっています。

このことについて、あなたの考えに最も近いものを 1 つお選びください。

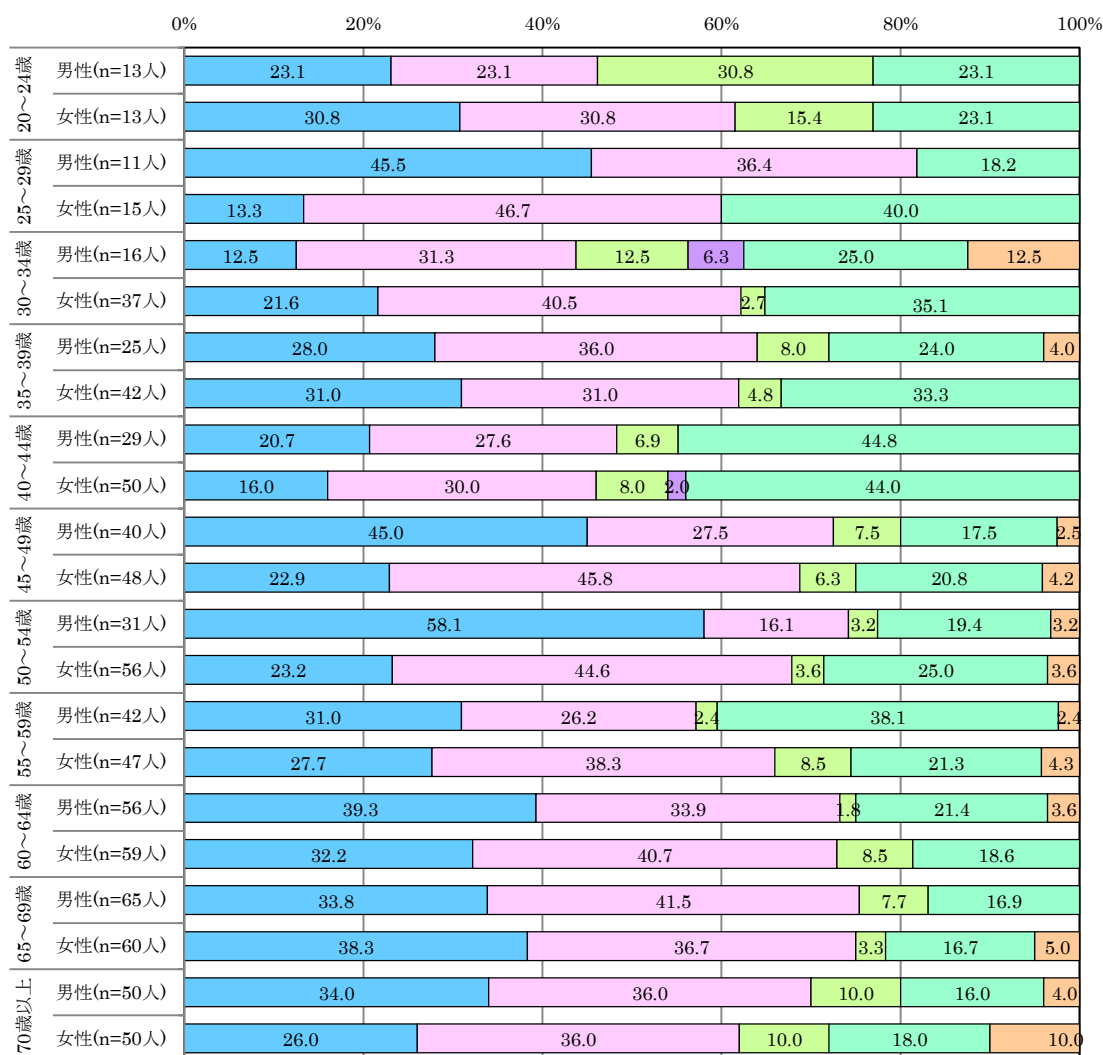
- ・全体で見ると、「現在より大幅に増えた方がよい」(30.4%)及び「現在より少し増えた方がよい」(35.4%)という回答割合の合計は、6 割(65.8%)を超えている。
- ・性別では、「現在より大幅に増えた方がよい」及び「現在より少し増えた方がよい」という回答割合の合計は男性 66.9%、女性 65.0%で、男性の方がやや多い。
- ・世代別性別で見ると、25 歳～29 歳、65 歳～69 歳の男性で、「現在より大幅に増えた方がよい」及び「現在より少し増えた方がよい」という回答割合の合計が約 8 割となっている。

■ 現在より大幅に増えた方がよい ■ 現在より少し増えた方がよい
■ 現状でよい ■ 現状より少なくてよい
■ わからない ■ 無回答

【性別】



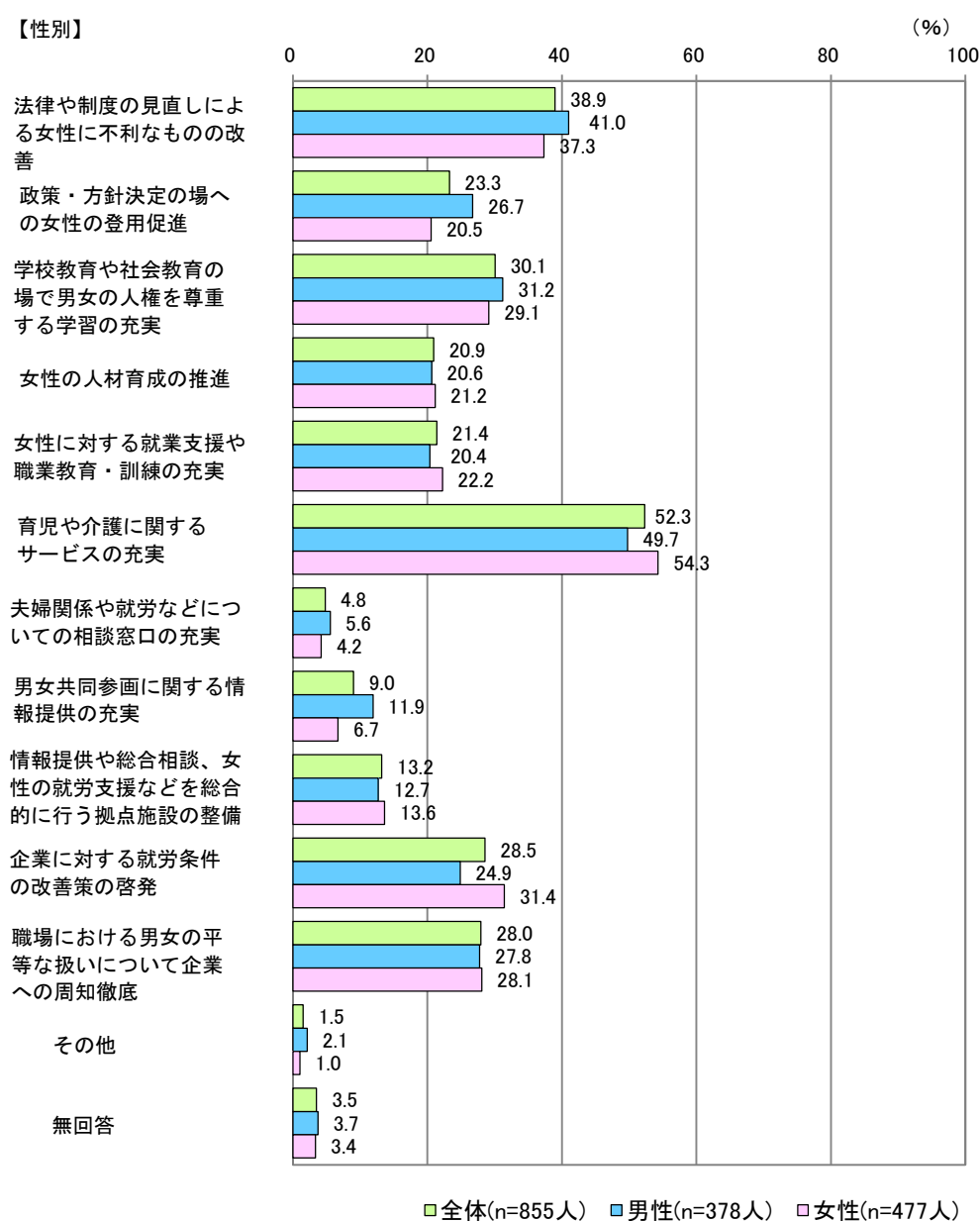
【世代別性別】



問23 女性も男性も対等なパートナーとして社会のあらゆる分野に参画していく男女共同参画社会を実現していくために、行政に期待することはどのようなことですか。特に重要だと思うものを3つまでお選びください。

- ・全体でみると、「育児や介護に関するサービスの充実」(52.3%)が最も多く、約5割となっている。次いで、「法律や制度の見直しによる女性に不利なものの改善」(38.9%)、「学校教育や社会教育の場で男女の人権を尊重する学習の充実」(30.1%)の順が続いている。
- ・性別でみると、男性では、「育児や介護に関するサービスの充実」(49.7%)が最も多い回答となる。次いで、「法律や制度の見直しによる女性に不利なものの改善」(41.0%)、「学校教育や社会教育の場で男女の人権を尊重する学習の充実」(31.2%)となる。女性も、「育児や介護に関するサービスの充実」(54.3%)という回答が最も多くなっており、男性よりも回答割合が高くなっている。次に、「法律や制度の見直しによる女性に不利なものの改善」(37.3%)、「企業に対する就労条件の改善策の啓発」(31.4%)の順となる。

【性別】



資 料

単純集計

「男女共同参画に関する市民意識と実態調査」

アンケート回答数

送付数	回答数	回収率
2,000	855	42.8%

あなた自身のことについておたずねします。

A あなたの性別を教えてください。

選択肢	回答数	回答割合
①男性	378	44.2%
②女性	477	55.8%
合計	855	100.0%

B あなたの年齢について教えてください。

選択肢	回答数	回答割合
①20歳～24歳	26	3.0%
②25歳～29歳	26	3.0%
③30歳～34歳	53	6.2%
④35歳～39歳	67	7.8%
⑤40歳～44歳	79	9.2%
⑥45歳～49歳	88	10.3%
⑦50歳～54歳	87	10.2%
⑧55歳～59歳	89	10.4%
⑨60歳～64歳	115	13.5%
⑩65歳～69歳	125	14.6%
⑪70歳以上	100	11.7%
合計	855	100.0%

C あなたの職業を教えてください。

選択肢	回答数	回答割合
①農林漁業の自営業主・家族従業者	40	4.7%
②農林漁業以外の自営業主・家族従業者	26	3.0%
③自由業(開業医、弁護士、会計士、文筆業、芸術家など)	7	0.8%
④会社役員・経営者	43	5.0%
⑤正社員・正職員などの正規雇用者	259	30.3%
⑥パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	224	26.2%
⑦家事専業者	119	13.9%
⑧学生	8	0.9%
⑨無職	112	13.1%
⑩その他	16	1.9%
無回答	1	0.1%
合計	855	100.0%

D あなたのご家族の構成(世帯構成)について教えてください。

選択肢	回答数	回答割合
①単身世帯(含単身赴任)	83	9.7%
②一世代世帯(夫婦のみ)	225	26.3%
③二世帯世帯(親と子)	411	48.1%
④三世帯世帯(親と子と孫)	128	15.0%
⑤その他	7	0.8%
無回答	1	0.1%
合計	855	100.0%

E あなたは現在、結婚していますか。

選択肢	回答数	回答割合
①結婚している	654	76.5%
②結婚していない	118	13.8%
③結婚していないがパートナーがいる	10	1.2%
④配偶者と離・死別した	73	8.5%
合計	855	100.0%

F あなたにお子さんはいらっしゃいますか。

選択肢	回答数	回答割合
①いる	652	76.3%
②いない	202	23.6%
無回答	1	0.1%
合計	855	100.0%

一般的なことでおたずねします。

問1 あなたは次にあげる分野で男女は平等になっていると思いますか。
それぞれ1つずつお選びください。

1 家庭では

選択肢	回答数	回答割合
①男性が優位	261	30.5%
②女性が優位	106	12.4%
③平等である	407	47.6%
④わからない	64	7.5%
無回答	17	2.0%
合計	855	100.0%

2 学校教育の場では

選択肢	回答数	回答割合
①男性が優位	102	11.9%
②女性が優位	37	4.3%
③平等である	451	52.7%
④わからない	241	28.2%
無回答	24	2.8%
合計	855	100.0%

3 地域社会では

選択肢	回答数	回答割合
①男性が優位	538	62.9%
②女性が優位	19	2.2%
③平等である	187	21.9%
④わからない	96	11.2%
無回答	15	1.8%
合計	855	100.0%

4 職場では

選択肢	回答数	回答割合
①男性が優位	465	54.4%
②女性が優位	27	3.2%
③平等である	237	27.7%
④わからない	104	12.2%
無回答	22	2.6%
合計	855	100.0%

5 法律や制度の上では

選択肢	回答数	回答割合
①男性が優位	344	40.2%
②女性が優位	37	4.3%
③平等である	287	33.6%
④わからない	170	19.9%
無回答	17	2.0%
合計	855	100.0%

6 習慣・しきたりでは

選択肢	回答数	回答割合
①男性が優位	671	78.5%
②女性が優位	12	1.4%
③平等である	77	9.0%
④わからない	79	9.2%
無回答	16	1.9%
合計	855	100.0%

7 政治の場では

選択肢	回答数	回答割合
①男性が優位	629	73.6%
②女性が優位	8	0.9%
③平等である	123	14.4%
④わからない	80	9.4%
無回答	15	1.8%
合計	855	100.0%

8 社会全体では

選択肢	回答数	回答割合
①男性が優位	612	71.6%
②女性が優位	14	1.6%
③平等である	108	12.6%
④わからない	106	12.4%
無回答	15	1.8%
合計	855	100.0%

問2 次の言葉やことごとらについて、知っているか、または聞いたことがありますか。
それぞれ1つずつお選びください。

1 男女共同参画社会

選択肢	回答数	回答割合
①知っている	372	43.5%
②聞いたことがある	306	35.8%
③知らない	163	19.1%
無回答	14	1.6%
合計	855	100.0%

2 ジェンダー(社会的差別)

選択肢	回答数	回答割合
①知っている	290	33.9%
②聞いたことがある	280	32.7%
③知らない	270	31.6%
無回答	15	1.8%
合計	855	100.0%

3 女子差別撤廃条約

選択肢	回答数	回答割合
①知っている	149	17.4%
②聞いたことがある	266	31.1%
③知らない	426	49.8%
無回答	14	1.6%
合計	855	100.0%

4 男女雇用機会均等法

選択肢	回答数	回答割合
①知っている	608	71.1%
②聞いたことがある	188	22.0%
③知らない	44	5.1%
無回答	15	1.8%
合計	855	100.0%

5 長野市男女共同参画推進条例

選択肢	回答数	回答割合
①知っている	105	12.3%
②聞いたことがある	244	28.5%
③知らない	492	57.5%
無回答	14	1.6%
合計	855	100.0%

6 長野市男女共同参画センター

選択肢	回答数	回答割合
①知っている	105	12.3%
②聞いたことがある	192	22.5%
③知らない	544	63.6%
無回答	14	1.6%
合計	855	100.0%

7 女性活躍推進法

選択肢	回答数	回答割合
①知っている	98	11.5%
②聞いたことがある	224	26.2%
③知らない	518	60.6%
無回答	15	1.8%
合計	855	100.0%

問3 あなたが考える「男女共同参画社会」はどのような社会ですか。

お考えに近いものを3つまでお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①法律や制度の上で男女の差がなくなる社会	430	50.3%
②政府や企業などの重要な役職に一定の割合で女性が登用されている社会	219	25.6%
③男女ともに仕事と生活の調和がとれている社会	556	65.0%
④男女が責任を分かち合い、性別にかかわらず個性と能力を発揮することができる社会	651	76.1%
⑤男女を取り巻く偏見や固定的な社会通念、慣習、しきたりなどが解消された社会	544	63.6%
⑥その他	14	1.6%
無回答	21	2.5%
対象数	855	-

問4 「男性は仕事、女性は家事・育児」という、性別によって役割を固定する考え方についてどう思いますか。
次の中から1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①賛成	27	3.2%
②どちらかといえば賛成	259	30.3%
③どちらかといえば反対	365	42.7%
④反対	195	22.8%
無回答	9	1.1%
合計	855	100.0%

問5 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどうかお考えですか。
次の中から1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①女性は職業をもたない方がよい	5	0.6%
②結婚するまでは職業をもつ方がよい	15	1.8%
③子どもができるまでは、職業をもつ方がよい	35	4.1%
④子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい	399	46.7%
⑤子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい	309	36.1%
⑥その他	86	10.1%
無回答	6	0.7%
合計	855	100.0%

「就労」に関することでおたずねします。

問6 現在職業に就いていらっしゃる方におたずねします。

あなたの職場では次のことに関して、男女は平等になっていると思いますか(次にあげるそれぞれの面で性別によって差があると思いますか)。
あてはまる番号を1つずつお選びください。

1 賃金

選択肢	回答数	回答割合
男性の方が優遇されている	182	29.6%
女性の方が優遇されている	0	0.0%
平等である	281	45.7%
わからない	107	17.4%
無回答	45	7.3%
合計	615	100.0%

2 昇進や昇格

選択肢	回答数	回答割合
男性の方が優遇されている	245	39.8%
女性の方が優遇されている	6	1.0%
平等である	210	34.1%
わからない	108	17.6%
無回答	46	7.5%
合計	615	100.0%

3 仕事の内容

選択肢	回答数	回答割合
男性の方が優遇されている	135	22.0%
女性の方が優遇されている	59	9.6%
平等である	277	45.0%
わからない	98	15.9%
無回答	46	7.5%
合計	615	100.0%

4 研修の機会や内容

選択肢	回答数	回答割合
男性の方が優遇されている	85	13.8%
女性の方が優遇されている	9	1.5%
平等である	355	57.7%
わからない	121	19.7%
無回答	45	7.3%
合計	615	100.0%

5 経験や能力を発揮する機会

選択肢	回答数	回答割合
男性の方が優遇されている	166	27.0%
女性の方が優遇されている	6	1.0%
平等である	284	46.2%
わからない	112	18.2%
無回答	47	7.6%
合計	615	100.0%

問7 離職経験のある方におたずねします。

離職の原因(理由)としてあてはまるものを3つまでお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①結婚・出産	249	50.4%
②家事・育児	118	23.9%
③介護・看護	76	15.4%
④転職・起業	131	26.5%
⑤配偶者の転勤	49	9.9%
⑥健康上の理由	97	19.6%
⑦給料が少ない	95	19.2%
⑧解雇等職場の都合	91	18.4%
⑨特に理由はない	25	5.1%
⑩その他	72	14.6%
対象数	494	-

問8 女性が意欲をもって働き続けるためには、何が必要だと思いますか。

該当するものを3つまでお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①女性の積極的登用	158	18.5%
②能力開発、自己啓発	104	12.2%
③労働時間の短縮	181	21.2%
④福利厚生充実	171	20.0%
⑤賃金の男女平等	223	26.1%
⑥非常勤職員の正規職員化	88	10.3%
⑦家族の理解や協力	365	42.7%
⑧職場の理解や協力	391	45.7%
⑨女性自身の意識改革	164	19.2%
⑩育児・介護休業制度の充実	297	34.7%
⑪育児・介護サービスや施設の充実	254	29.7%
⑫相談窓口の充実	12	1.4%
⑬ロールモデル(自分が目指したい事を実践している手本となる人)	18	2.1%
⑭その他	8	0.9%
無回答	29	3.4%
対象数	855	-

問9 出産・育児などで離職した女性が再就職を希望する場合、どのような支援や対策が必要だと思いますか。該当するものを3つまでお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①離職しても同一企業に再雇用されるようにすること	465	54.4%
②求人情報や就職ガイダンスの充実	58	6.8%
③就職に関する相談体制の充実	93	10.9%
④再就職のための講座やセミナーの充実	91	10.6%
⑤求人年齢制限の緩和	262	30.6%
⑥子育てや介護をしながら働ける労働環境の整備	663	77.5%
⑦女性の働く場を多くすること	165	19.3%
⑧保育所などの保育施設の充実	403	47.1%
⑨介護・医療施設などの充実	153	17.9%
⑩その他	20	2.3%
無回答	35	4.1%
対象数	855	-

「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)」に関することでおたずねします。

問10 あなたは、「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)」という言葉をご存知ですか。次の中から1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①言葉も内容も知っている	240	28.1%
②言葉は聞いたことがあるが内容は知らない	310	36.3%
③知らない	288	33.7%
無回答	17	2.0%
合計	855	100.0%

問11 「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活(学習、趣味、付き合い等)」の優先度について、あなたが理想とする(希望する)生活に最も近いものを1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①「仕事」優先	36	4.2%
②「家庭生活」優先	156	18.2%
③「地域活動・個人の生活」優先	18	2.1%
④「仕事」と「家庭生活」をともに優先	302	35.3%
⑤「仕事」と「地域活動・個人の生活」をともに優先	37	4.3%
⑥「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先	76	8.9%
⑦「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先	207	24.2%
無回答	23	2.7%
合計	855	100.0%

問12 「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活」の優先度について、あなたの現実(現状)の生活に最も近いものを1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①「仕事」優先	226	26.4%
②「家庭生活」優先	232	27.1%
③「地域活動・個人の生活」優先	20	2.3%
④「仕事」と「家庭生活」をともに優先	194	22.7%
⑤「仕事」と「地域活動・個人の生活」をともに優先	34	4.0%
⑥「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先	65	7.6%
⑦「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先	56	6.5%
無回答	28	3.3%
合計	855	100.0%

問13 あなたは次にあげる家事をしていますか。
 あてはまる番号を1つずつお選びください。

1 掃除

選択肢	回答数	回答割合
主に自分がしている	433	50.6%
自分と家族が同じ程度している	164	19.2%
自分は手伝い程度している	176	20.6%
していない	72	8.4%
無回答	10	1.2%
合計	855	100.0%

2 洗濯

選択肢	回答数	回答割合
主に自分がしている	447	52.3%
自分と家族が同じ程度している	104	12.2%
自分は手伝い程度している	136	15.9%
していない	159	18.6%
無回答	9	1.1%
合計	855	100.0%

3 食料品、日用品などの買物

選択肢	回答数	回答割合
主に自分がしている	411	48.1%
自分と家族が同じ程度している	173	20.2%
自分は手伝い程度している	183	21.4%
していない	79	9.2%
無回答	9	1.1%
合計	855	100.0%

4 食事のしたく

選択肢	回答数	回答割合
主に自分がしている	439	51.3%
自分と家族が同じ程度している	72	8.4%
自分は手伝い程度している	154	18.0%
していない	181	21.2%
無回答	9	1.1%
合計	855	100.0%

5 食事の後かたづけ

選択肢	回答数	回答割合
主に自分がしている	439	51.3%
自分と家族が同じ程度している	137	16.0%
自分は手伝い程度している	168	19.6%
していない	96	11.2%
無回答	15	1.8%
合計	855	100.0%

6 ごみ捨て

選択肢	回答数	回答割合
主に自分がしている	413	48.3%
自分と家族が同じ程度している	157	18.4%
自分は手伝い程度している	150	17.5%
していない	123	14.4%
無回答	12	1.4%
合計	855	100.0%

問14 身近に育児または介護の対象者がいる方におたずねします。

あなたは育児または介護をどの程度していますか。
 あてはまる番号を1つずつお選びください。

1 育児(お孫さんを含む)

選択肢	回答数	回答割合
主に自分がしている	101	27.2%
自分と家族が同じ程度している	72	19.4%
自分は手伝い程度している	106	28.6%
していない	92	24.8%
合計	371	100.0%

2 介護

選択肢	回答数	回答割合
主に自分がしている	60	16.9%
自分と家族が同じ程度している	33	9.3%
自分は手伝い程度している	42	11.8%
していない	220	62.0%
合計	355	100.0%

問15 男性が「育児・介護休業制度」を利用することが進まないのは、どうしてだと思いますか。

主な理由を次の中から3つまでお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①主たる家計の稼ぎ手は男性だから	423	49.5%
②職場や同僚に迷惑がかかるから	349	40.8%
③利用しにくい雰囲気があるから	498	58.2%
④上司がいい顔をしないから	91	10.6%
⑤育児、介護は女性の方が向いているから	112	13.1%
⑥他に育児、介護をする人がいるから	56	6.5%
⑦昇給、昇格に影響すると考えるから	168	19.6%
⑧男性で制度を利用する人がほとんどいないから	349	40.8%
⑨制度の整備が不十分だから	290	33.9%
⑩その他	37	4.3%
無回答	35	4.1%
対象数	855	-

問16 今後、女性と男性がともに仕事・家事・育児・介護・地域活動等に積極的に参加していくためには、どのようなことが重要だと思いますか。次の中から3つまでお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①男女の固定的な役割分担意識を改める	340	39.8%
②夫婦や家族間のコミュニケーションをはかる	306	35.8%
③方針・政策決定の場に女性を積極的に登用する	105	12.3%
④雇用機会や昇進など、職場での男女平等をはかる	237	27.7%
⑤労働時間短縮や取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させる	511	59.8%
⑥社会の中で男性による家事・育児・介護・地域活動の評価を高める	250	29.2%
⑦男性の関心を高めるよう啓発や情報提供を行う	92	10.8%
⑧男性のための仲間(ネットワーク)作りをすすめる	48	5.6%
⑨男性が相談しやすい窓口を設ける	44	5.1%
⑩官民ともに家事・育児・介護に係るサービスを充実させる	344	40.2%
⑪その他	16	1.9%
⑫特に必要なことはない	4	0.5%
無回答	33	3.9%
対象数	855	-

「地域社会」に関することでおたずねします。

問17 あなたが住んでいる地域では、自治会・PTA・そのほかの地域での活動において次のような事例が見受けられますか。あてはまる番号を1つずつお選びください。

1 自治会やPTAの会長は男性と決まっている

選択肢	回答数	回答割合
①そうである	250	29.2%
②そうではない	273	31.9%
③わからない	305	35.7%
無回答	27	3.2%
合計	855	100.0%

2 自治会やPTAの責任ある役職はほとんどが男性である

選択肢	回答数	回答割合
①そうである	413	48.3%
②そうではない	230	26.9%
③わからない	185	21.6%
無回答	27	3.2%
合計	855	100.0%

3 役員や組織の運営事項は男性だけで決めている

選択肢	回答数	回答割合
①そうである	132	15.4%
②そうではない	378	44.2%
③わからない	318	37.2%
無回答	27	3.2%
合計	855	100.0%

4 実際の仕事は妻がしているのに、名義は夫になっている

選択肢	回答数	回答割合
①そうである	211	24.7%
②そうではない	233	27.3%
③わからない	373	43.6%
無回答	38	4.4%
合計	855	100.0%

5 女性自身が責任ある役職につくのを避けている

選択肢	回答数	回答割合
①そうである	225	26.3%
②そうではない	205	24.0%
③わからない	397	46.4%
無回答	28	3.3%
合計	855	100.0%

6 女性が責任ある役職につこうとすると、男性や他の女性から反対される

選択肢	回答数	回答割合
①そうである	50	5.8%
②そうではない	326	38.1%
③わからない	447	52.3%
無回答	32	3.7%
合計	855	100.0%

問18 女性も地域の重要な方針決定の場に出ていただく必要があります。
あなたはどうすればそれが可能だと思いますか。次の中から1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
① 役員の中での女性の割合を定めるなどの、積極的改善措置(ポジティブ・アクション)を導入すること	174	20.4%
② 積極的改善措置(ポジティブ・アクション)は導入しないが、男性中心の役員構成ではなく、女性も活躍できるような組織づくりを導入すること	348	40.7%
③ 女性が活動し、活躍できるように家族が協力すること	141	16.5%
④ 女性が積極的に役職につく意識をもつこと	145	17.0%
⑤ その他	10	1.2%
無回答	37	4.3%
合計	855	100.0%

男女の「人権」に関することでおたずねします。

問19 身近な人(夫・妻・恋人)からの暴力が、DV(ドメスティック・バイオレンス)として問題になっています。
次にあげる行為は、DVにあたる行為です。あなたは、今までにこれらの行為を受けた又はしたことがありますか。
あてはまる番号を1つずつお選びください。

1 刃物を突きつけ、「殺す」とおどす

選択肢	回答数	回答割合
① 受けたことがある	10	1.2%
② したことがある	3	0.4%
③ 受けたこともしたこともある	2	0.2%
④ 受けたこともしたこともない	809	94.6%
無回答	31	3.6%
合計	855	100.0%

2 なぐる、ける

選択肢	回答数	回答割合
① 受けたことがある	42	4.9%
② したことがある	28	3.3%
③ 受けたこともしたこともある	23	2.7%
④ 受けたこともしたこともない	730	85.4%
無回答	32	3.7%
合計	855	100.0%

3 物を投げつけたり壊したりする

選択肢	回答数	回答割合
① 受けたことがある	64	7.5%
② したことがある	61	7.1%
③ 受けたこともしたこともある	37	4.3%
④ 受けたこともしたこともない	662	77.4%
無回答	31	3.6%
合計	855	100.0%

4 髪の毛をつかんで引きずり回す

選択肢	回答数	回答割合
① 受けたことがある	16	1.9%
② したことがある	0	0.0%
③ 受けたこともしたこともある	1	0.1%
④ 受けたこともしたこともない	808	94.5%
無回答	30	3.5%
合計	855	100.0%

5 大声で怒鳴る

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	93	10.9%
②したことがある	122	14.3%
③受けたこともしたこともある	115	13.5%
④受けたこともしたこともない	494	57.8%
無回答	31	3.6%
合計	855	100.0%

6 メールや郵便物、行動を細かく監視する

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	34	4.0%
②したことがある	7	0.8%
③受けたこともしたこともある	7	0.8%
④受けたこともしたこともない	775	90.6%
無回答	32	3.7%
合計	855	100.0%

7 「だれのおかげで生活できるんだ」とか「出て行け」と言う

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	67	7.8%
②したことがある	37	4.3%
③受けたこともしたこともある	9	1.1%
④受けたこともしたこともない	709	82.9%
無回答	33	3.9%
合計	855	100.0%

8 何を言っても無視し続ける

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	58	6.8%
②したことがある	49	5.7%
③受けたこともしたこともある	57	6.7%
④受けたこともしたこともない	660	77.2%
無回答	31	3.6%
合計	855	100.0%

9 生活費を渡さない

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	27	3.2%
②したことがある	5	0.6%
③受けたこともしたこともある	2	0.2%
④受けたこともしたこともない	789	92.3%
無回答	32	3.7%
合計	855	100.0%

10 嫌がっているのに性的行為を強要する

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	42	4.9%
②したことがある	14	1.6%
③受けたこともしたこともある	3	0.4%
④受けたこともしたこともない	764	89.4%
無回答	32	3.7%
合計	855	100.0%

11 避妊に協力しない

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	27	3.2%
②したことがある	7	0.8%
③受けたこともしたこともある	1	0.1%
④受けたこともしたこともない	782	91.5%
無回答	38	4.4%
合計	855	100.0%

問20 あなたはDV(ドメスティック・バイオレンス)にあったとき、相談するところをご存知ですか。
知っている相談窓口すべてをお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①長野県女性相談センター	169	19.8%
②児童虐待・DV24時間ホットライン	221	25.8%
③長野市福祉事務所(長野市役所子育て支援課内、篠ノ井支所内)	188	22.0%
④女性の人権ホットライン	160	18.7%
⑤県警女性被害犯罪ダイヤルサポート110	147	17.2%
⑥県警(地域安全推進係)	391	45.7%
⑦長野犯罪被害者支援センター	119	13.9%
⑧長野市男女共同参画センター	93	10.9%
無回答	268	31.3%
対象数	855	-

問21 DV(ドメスティック・バイオレンス)についてあなたの考えに最も近いのはどれですか。
次の中から1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①どんな場合でも重大な人権侵害にあたると思う	417	48.8%
②どんな場合でも人権侵害にあたると思う	226	26.4%
③人権侵害にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	159	18.6%
④人権侵害にあたるとは思わない	1	0.1%
⑤わからない	31	3.6%
無回答	21	2.5%
合計	855	100.0%

「男女共同参画施策」に関することでおたずねします。

問22 平成28年4月1日現在の長野市議会議員のうち女性議員の数(割合)は、6人(15.4%)、
平成28年4月1日現在の住民自治協議会における女性役員の数(割合)は417人(15.7%)
となっています。

このことについて、あなたの考えに最も近いものを1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①現在より大幅に増えた方がよい	260	30.4%
②現在より少し増えた方がよい	303	35.4%
③現状でよい	56	6.5%
④現状より少なくてよい	2	0.2%
⑤わからない	210	24.6%
無回答	24	2.8%
合計	855	100.0%

問23 女性も男性も対等なパートナーとして社会のあらゆる分野に参画していく男女共同参画社会を実現していくために、行政に期待することはどのようなことですか。特に重要だと思ふものを3つまでお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①法律や制度の見直しによる女性に不利なものの改善	333	38.9%
②政策・方針決定の場への女性の登用促進	199	23.3%
③学校教育や社会教育の場で男女の人権を尊重する学習の充実	257	30.1%
④女性の人材育成の推進	179	20.9%
⑤女性に対する就業支援や職業教育・訓練の充実	183	21.4%
⑥育児や介護に関するサービスの充実	447	52.3%
⑦夫婦関係や就労などについての相談窓口の充実	41	4.8%
⑧男女共同参画に関する情報提供の充実	77	9.0%
⑨情報提供や総合相談、女性の就労支援などを総合的に行う拠点施設の整備	113	13.2%
⑩企業に対する就労条件の改善策の啓発	244	28.5%
⑪職場における男女の平等な扱いについて企業への周知徹底	239	28.0%
⑫その他	13	1.5%
無回答	30	3.5%
対象数	855	-

問24 「男女共同参画」について、ご意見・ご要望がありましたら、ご記入ください。

選択肢	回答数	回答割合
文章回答あり	130	15.2%
文章回答なし	725	84.8%
合計	855	100.0%

自由意見

問24 「男女共同参画」についての自由意見

性別	年齢	職業	記入内容
男性	20歳～24歳	正規雇用者	女性が働き、男性と同じような環境（賃金含め）になることは良いことと思う。小さな子どもがいる親も働ける環境にすることも大事。しかし、小さい子どもがいる親は、労働時間などが限られてしまう人もいると思う。そうすると、同じ職場で働く人に負担が増えることがある。双方に対して、仕事の時間、量に関する配慮が必要と思います。
男性	20歳～24歳	非正規雇用者	女性に不利なものの改善となっているが、平成生まれはあまり不平等を感じていないと思う。逆に女性有利な社会になりはじめていると思う。女性不利を改善するのは良いが、男性不利の改悪も多い。あつちは男性が有利だから、こっちは女性有利にしようと、いうことが多い。どっちが有利じゃなく、どっちも平等にすべき。得意、不得意が男女で違うことがあるのだから、そういうのは平等、平等うるさい。県のポスターで男女差別と訴えるのはやり過ぎ。そういうのがあると認識するのはいいが、あんなので訴えると男女の違い、さらには個人の違いですが、駄目になる。違う物は違う、完全平等は悪。
男性	20歳～24歳	学生	女性の特性、母性に関し、女性に認識させる教育が必要である。
男性	20歳～24歳	学生	アンケート内で出てきたポジティブアクションや制度などで、何割は女性を登用するように決めてしまうと、女性だからその何割に入れよう、といった男性に不利な場面が発生してしまうので、そうせずに純粋に能力を評価して登用して欲しい。また、首都圏などにある女性専用車両は男女差別だと感じている。確かにチカンをされたくなかったり、男性と乗りたくない人もいるだろうが、男もチカンの冤罪を防いだり、女性と乗りたくない男性もいるので男性専用車両も作ってほしい。私の身近に、セクハラや、男女平等を振りかざし、女性優遇、男性蔑視を行う人がいるので、女性側にもキチンとした意識を持ってほしい。
男性	20歳～24歳	その他	昔からの男性重視の考え方が未だ根強い。それは現在の会社役員の方々の意識改善を求めなければ、いつまでも男性の育休等の制度がとれないと思います。なので、役員向けの講習会等の開催を積極的にやってもらいたいです。
男性	25歳～29歳	正規雇用者	もっとパブリックコメントを募集して、公表したらいいと思う。
男性	25歳～29歳	非正規雇用者	男女平等と言いつつ、男性が不利となる意見を述べることはよくない。今までのことができなくなることで意味がない。
男性	25歳～29歳	非正規雇用者	男女に関わらず、性別でイメージをする風潮を無くしていく啓発を求める。
女性	25歳～29歳	会社役員・経営者	根本的な問題として、「男は仕事、女は家事・育児」の考え方を強く持っている40代以上の男性だと思う。なぜなら、その世代が現在の社会で政府や企業などの重要な役職についている割合が多いから。その世代の意識を改善できれば、必然と男女平等な社会になると思う。
女性	25歳～29歳	正規雇用者	私は今2人の子どもを育てながら働いていて、現在3人目を妊娠中です。3人目となるとお金がかかる事も承知していますし、子ども手当等には本当に感謝しています。ですが、やはり保育料の軽減制度に不満をもっている方が多いです。私もその1人です。子どもを増やしたいのか、減らしたいのか正直分かりません。一般の会社で勤めている家庭は、公務員さんの様に色々な面で安定はしていません。だからこそ出産後、仕事と家庭を両立させる事が本当に難しいし、お金のために働くしかありません。その様な中で、保育料が子どもの人数ではなく、年齢で変わってしまうというのはやはり不満です。少子高齢化だからこそ、子どもを産んでくれる家庭の事や、子どもに年齢差がある家庭が多いという事を、もう少し考えていただければと思っています。昔の様に男は仕事、女は家事という時代ではなくなってきているので、長野市はこの市よりも男女共に住みやすく、皆が満足できる市になっていければと思います。意見できる場をもたせていただきありがとうございます。

性別	年齢	職業	記入内容
男性	30歳～34歳	会社役員・経営者	社会全体の意識を変えていくに尽きると思う。
男性	30歳～34歳	非正規雇用者	女性、男性に限らず個々の能力が評価され、活用される社会が男女共同参画に通ずる。
女性	30歳～34歳	自営業（農・林・漁業以外）	大人になってから、考え方はなかなか変えられないと思う。小さな子どもの頃から、家庭や学校での教育が必要になってくると思う。女性の社会進出は子育て支援が充実しない限り無理。
女性	30歳～34歳	正規雇用者	行政が一番制度が整っていて利用しやすい。よって、行政が一番女性登用をしていく責務がある。まず自ら示す。
女性	30歳～34歳	正規雇用者	年齢が上の世代の男女平等に対する意識改革が必要だと思う。
女性	30歳～34歳	正規雇用者	女性を妊娠・出産にて退職させる会社が、未だにある。
女性	30歳～34歳	非正規雇用者	女性でも出産、育児をしながら働き続けられる環境を整えて欲しい。個人の努力では限界があると思う。不景気で、共働きをしなければ暮らしていけないなかで、産休、育休などがとれなかったり、補助がなければ、そもそも子どもを作ることを諦めてしまわなければいけない。
女性	30歳～34歳	家事専業者	前述の通り、子どもができた＝離職となる必要は全くないが、そうせざるをえない環境の場合、再就職できる環境（社会、家庭e t c）が重要です。女性の再就職支援の取り組みに力を入れていただけると大変嬉しいです。
女性	30歳～34歳	家事専業者	制度を変えるのも大事ですが、マイナスイメージを持っている人の考えを一から変えていかないとムリだと思う。育児ママが職場復帰&就職するには、もっと大幅な支援制度がないと、現状ムリです。もう少し利用しやすく変えてほしい。
女性	30歳～34歳	家事専業者	普通の子持ち主婦の自分としては、今専業主婦として子どもとすごせること、子どものことを全部自分でやってあげられる環境はありがたくて幸せです。でも、少しお金を稼ぎたい、無理のない範囲でと思って仕事を探してみつけても、やはり子どもの病気の時に休むことなど考えると、もう少し大きくなるまで…とあきらめている現実があります。やはりいろいろな制度などあっても、最後はまわりにいる人達の気持ちが一番重要になってくるのではないのでしょうか。
女性	30歳～34歳	その他	社会では男女平等を唱えています、様々なことが、男性優位はまだ残っていることが現状です。政策は重要ですが、それだけでなくジェンダー意識の改善も重要ではないのでしょうか。無意識での根強い男性優位があると、政策だけで男女平等は困難ではないのでしょうか。
男性	35歳～39歳	会社役員・経営者	女性の参画が少ないからと、制度でインセンティブをつけるのは最悪だと考えています。時間はかかりますが、子どものときに、女性が活躍する場があり、良い事、当り前のことと伝えることが重要だと思います。意識の話なので時間がかかりますが、長期的な視点でみることです。
男性	35歳～39歳	正規雇用者	定期的な講習会（2ヶ月に1度くらい）を行い、周知する努力を求めます。企業経営者にも理解してもらおう機会を作ってほしいです。
男性	35歳～39歳	正規雇用者	もっと社会に浸透させるには、一般企業や、学校、地域社会に女性の登用を勧める。又は半強制的にする必要がある。そうでないと、なかなか変わらないのでは。
女性	35歳～39歳	会社役員・経営者	日本は米国に比べると、女性が社会で活躍する場がまだまだ少ないです。学校の校長先生や、会社の上司が女性であることは全く珍しくない米国から見ると、企業での女性の役員は日本ではとても少ないと思います。また自治会などPTAの会長なども男性を優先的に選ぶ意識が深い為、日本人、長野市民一人一人の価値観から変えていく必要があるかと思っています。賃金も男女平等は重要だと思います。先進国のあり方を積極的に視察し、長野市で取り入れてみてはいかがでしょうか？
女性	35歳～39歳	正規雇用者	ただ女性の登用数を増やせばいいのではなく、実力のある女性が登用される時に、結婚・出産・育児などによる勤務時間制限で、影響が出るのはよくないと思う。また、本人との相談で決めていくべきだと思う。
女性	35歳～39歳	正規雇用者	本当に必要な人が、長野市の参画課がしている素晴らしい事業を知っているのか。知らないのか。どうすれば調べる（知れる）ことができるのか。全く悩んでなければ知れないのか。もっと発信して広げてほしいと思います。

性別	年齢	職業	記入内容
女性	35歳～39歳	非正規雇用者	保育士をしています。お子さんが体調を崩された時の第一の連絡先は、”お母さん”がやはり一番多く、お父さんは仕事が休めない・・・が現状です。子どもにとって、お母さんも、お父さんも、やはり同じ立場であるのが一番ではないでしょうか。自分の子どもなのに扱い方が分からない・・・というの、やはり日頃からの関わる時間のなさを感じます。自分自身はパートとして働いていますが、わが子と過ごす時間も大切ですし、生活していく為には収入も必要です。フルタイムで働くことだけでなく、短時間で働け、子育てとのバランスがとれる社会を望んでいます。子どもの小さいうちは、特にそう感じます。
女性	35歳～39歳	非正規雇用者	女性の社会参加に大きく影響を与えているのは、「家庭の仕事は女性がしている」という点だと思います。家事・育児・介護はほぼ女性が行い、なおかつ、外で仕事をするというのは女性にとってやりがいがあると共に、大きな負担となりえます。まず、「家事は女性が行う」という意識を変えなければ、女性ばかりが無理をする社会になってしまうと思います。その為には男性の長時間労働のあり方を変え、男性にも家庭や地域生活に参加できる時間と、精神的余裕を持ってもらえたら良いと思います。ですがそれで賃金が下がり、今度は女性が仕事をせざるを得ないというのでは本末転倒です。仕事や家庭とのバランスがとれてこそその女性参画だと思います。
女性	35歳～39歳	家事専業者	古臭い考えのじーさん達を排除し、子育て世代の人たちの意見を取り込んでいかないと、男女共同にはならないと思う。がんこじじいが多いから男優先の世の中なんだと思う。だから日本はダメなんだと思う。
女性	35歳～39歳	家事専業者	何かにつけ、年齢の高い方(50代)の意識の問題だと思う。上に立つ人間の言葉や行動が変わらないと、紙面上で変更しても何も変わらないと思う。家の事は女がやる。介護は(義理の両親をなぜ嫁がみるのでしょうか?)女がやる。子どもをたくさん産めなど・・・。
男性	40歳～44歳	正規雇用者	何かにつけ、男性のせいにしすぎではないか? 平等平等と言いつつ、女性だから無理、男の仕事だと言う事が多い。
男性	40歳～44歳	正規雇用者	実現可能な施策。施策が効果的であるものを作ってほしい。
男性	40歳～44歳	正規雇用者	まず役所から改善したらどうですか?
男性	40歳～44歳	無職	「男(女)なんだから・・・」といった育て方や、世間一般の考え方をなくすことが必要だと思う。そのような考え方があるからだと思いますが、女性の中には、「前に出たくない」と思う人、男性の中には、前に出たくないが、男だから仕方なく・・・と役割をやる人がいると思います。そういうことがなく、意欲ある人が誰でも活躍できる社会になればと思います。
女性	40歳～44歳	正規雇用者	家事・育児は、これからは男女が平等になっていくのではないのでしょうか。女性も男性と同じように学んでいるのですから。今後は社会進出をしていくでしょう。私の会社は男女平等で、女性も昇進するので、勉強したことが活かしていると思いますが、以前勤めていた会社は昔ながらの「女性は飾り」くらいの扱いでした。どんなに頑張っても先が見えたので、そういう会社は上から意識を変えていかないと難しいと思います。女性が役職に就くのは、家族の協力が大切です。
女性	40歳～44歳	正規雇用者	法律面での要望になりますが、夫婦別姓の議論が20年以上なされているにもかかわらず、未だに別姓を選択することができない現状があります。仕事上、改姓は数々の支障があり、仕事を続ける女性にとっては、とても不都合な仕組みのように思います。個人の自由で、改姓しても良いし、しなくても良いという状況になるよう法律の改正を望みます。
女性	40歳～44歳	正規雇用者	自身が差別を受けていないので、男女差別による認識が甘いと感じた。関心を高めるため、情報収集していきたい。
女性	40歳～44歳	正規雇用者	育児も介護も家庭で抱えることなく、社会全体でサポートしてもらいたい。
女性	40歳～44歳	正規雇用者	管理栄養士の職場ももっと増やしてほしい。

性別	年齢	職業	記入内容
女性	40歳～44歳	非正規雇用者	例えば女性専用、女性車両など、あまり女性ばかり特別にしてしまうのは反対。自然の流れの中で、男女が平等になっていくのが理想だけど、現実はそうはいかないとも思っています。
女性	40歳～44歳	非正規雇用者	現在よりもよりよい社会になるように改善し続ける事を願います。よろしくお願いいたします。
男性	45歳～49歳	自営業（農・林・漁業以外）	扶養控除の撤廃。厚生年金の配偶者控除の撤廃。全産業への労基法の遵守。残業時間の法の見直し等を、地方から発信し、国が動かざるを得ない様な環境作りが必要だと考えます。
男性	45歳～49歳	正規雇用者	議員数が同じだから平等とは思わない。あくまでも能力の問題。逆に女性で能力があるならば、それを否定する事があってはならない。つまり、性別ではなく、能力において平等であるべきと考えます。
男性	45歳～49歳	正規雇用者	重大な内容にも関わらず、アンケートするのはいかがなものか。
男性	45歳～49歳	正規雇用者	夜間に学べる場所の設置。県立大学等の発足にあわせて、男女性別や年齢に関係なく学び、集まる場をつくる事が望ましい。
男性	45歳～49歳	非正規雇用者	自分の勤め先は、いわゆる女性が活躍している職場ですが、育児や介護等のハードルは高いようです。通常の職場では、もっと難しいのではないかと思います。
男性	45歳～49歳	非正規雇用者	個人能力が発揮出来る様、適材適所の人材配置が重要であると考えます。その為の人材育成に良き指導者、先頭を担える先駆者が必要であり、それを育む環境と機会の整備を行政や会社、地域社会が積極的に取り組み、容易に参加出来る事が必要だと思います。そして、我々も自主的に参加していく必要があると思います。
女性	45歳～49歳	自営業（農・林・漁業）	身近な家族、地域の中から始めないと、身に付いていかない。地域の年配の方々が話すのを聞いていると、平等とは程遠い様に見える。子どもは見て聞いて身につけていくので。
女性	45歳～49歳	会社役員・経営者	長野は結局田舎なので、地域でも公の場でもおっさんが威張っている。女性に活躍の場を奪われるのが嫌で（怖くて）、旧態依然とした状況になっている。怒鳴ったり野次ったりして虚勢を張っている。おっさん達の意識が変わらなければ、女性は無駄なエネルギーを使わされて疲れるばかりである。
女性	45歳～49歳	正規雇用者	設問右側の欄へ記入させる方法は面倒で、間違いが起り易いのでは？と思いましたが、冷静に考える場と、考えを整理できる空間として良かったです。答えを誘導する回答項目があったのは客観的ではないと思いましたが、市民に普及啓発には良いですね。長かったというか税金投入額は？
女性	45歳～49歳	正規雇用者	子育てや介護しながらというより、それを支援してくれる受け皿を整備する事が一番大切。その次に企業等の積極的な女性登用（年齢の設定も）。上記二つが整備されて初めて、安心して働ける、働こうという気持ちになる。
女性	45歳～49歳	非正規雇用者	育児においても、男性が参加出来るように・・・というのではなく、男性も当り前に、共に育てていける社会になってほしい。その為には、男性の意識の持ち方が重要で、共に育児が出来れば、女性の精神的、肉体的負担は大分軽くなると思う。働く女性が増えている現在、重要な課題だと思います。
女性	45歳～49歳	非正規雇用者	DVの内容がほとんど知らなかったのが、少しショックだった。又、それを相談する所が決められている、と言うかある所が、全く知らなかった。
女性	45歳～49歳	無職	私は、過去に夫からのDVが理由で、調停離婚しました。子ども2人を連れて、夫が仕事へ行っている時、家出同然で、親も頼れなくて、引っ越し先の住所を知られなくて、子どもだけ前夫の戸籍のまま、今も、その事により、悩み苦しんでいます。
男性	50歳～54歳	正規雇用者	男女共同参画については、大企業や地方自治体では進んでいると思うが、中小企業や個人企業での導入努力が進んでいないと思われる。DVが大きな事件に発展するケースをニュースで見るが、もっと防止対策や広報を積極的に行い、DV事件の防止を図る必要がある。

性別	年齢	職業	記入内容
男性	50歳～54歳	正規雇用者	以前に比べたら、女性の社会進出は改善されていると思いますが、まだまだ道半ばだと思います。官民挙げて女性の採用、幹部への登用など、引き続き積極的な施策を推進していただきますよう希望します。
女性	50歳～54歳	正規雇用者	家庭と仕事、地域。まずどれを基準にして良いか分からないが、女性としては家で家事、育児をする。しかし生活する上で充分なお金がない→女性も働く。仕事が大きな役割を持っている女性にとっては、育児と家事をするには、パートナーの理解が必要である。そのためには、社会の制度や、企業の就労条件など、個人では解決する事は無理で、現況で一番良い選択しか出来ないと思う。社会を変えていかないと実現しないと思う。
女性	50歳～54歳	正規雇用者	「女のくせに」という気持ちが、男性の中にある限り、現状は変わらないと思います。
女性	50歳～54歳	正規雇用者	何でもそうですが、DVも差別もした方は、自分の行為を肯定しているので、この様な事には関心も無いし、問題意識も無いです。特に長野県は男尊女卑的な家庭の中で育ってきているので、女性も男性も意識改革が必要だと思います。長野市が一つの組織と考えるなら、市長、議員、職員の皆様が「男女共同参画」にしっかりと向き合って、意識した生活をされると、市民も変わるのではないのでしょうか？
女性	50歳～54歳	正規雇用者	私自身は仕事でも家庭でも、男女が平等で協調する環境で、十二分に能力を發揮して生活している。そのためには、女性にもきちんと覚悟が必要である。強い意思を持って、生き生きと活躍する。自立した幸せな女性が益々増えることを期待する。全ては、女性自身の意思であると考えます。
女性	50歳～54歳	正規雇用者	何をしても女性を優遇させたがる女性管理職が職場にいるが、逆に男性がジェンダーを感じている部分がある。年齢が上がる程、男女の違いを強調しているのではないかと思う。そういう方々の意識が変わると良いのですが…。何（どんなこと）が男女共同参画なのか？女性や子育て中の人だけを特別扱いすればよい、ということではないのでしょうか？
女性	50歳～54歳	非正規雇用者	育児、介護、家事、近所付き合い。その上にもっと社会進出しろ！！なんて。ふざけるなと思います。女性に全てを求める前に男性の意識改革を！！！！
女性	50歳～54歳	非正規雇用者	私はお医者様に診て頂く際、女医さんでは見解が劣ると思います、男性の方が安心出来ると、何の根拠も無く思います。特に手術など。女医さんには申し訳ありません。死ぬほど勉強されてはいると思います。男性の方が一筋で何の頭もよぎる事無く集中し、進めて行けると。女性は異性・子ども・親など、四六時中頭で考えています。失敗されると怖いので。パイロットの様に平常心で操作する方に女性はいらっしゃいますか？もし戦争にでもなれば真っ先に向くのはやはり男性。いつでも戦ってゆけると思います。その時、重役、社長さんは名乗りを上げ突き進むのでしょうか。小池新党が出陣し（東京都の腐った都議会を全て排除し、正しい清い税へ）、女性も活躍出来る様祈っています。
女性	50歳～54歳	非正規雇用者	育児、家事を任せっきりで男女共同参画などと言うのはやめてほしい。
女性	50歳～54歳	非正規雇用者	このアンケート内容はあくまで女性を特化したような、もっと女性の地位を、といったような内容だと感じたが、作成している行政自体差別の目線からのようだ。市議・県議・政府すべて、「今女性をあげておけば票が獲得できる」くらいの事にしか受け取れない。あまりにもバカバカしい設問で、検討した方がいい。まず悠久の昔よりDNAに組み込まれている男女の差別は、すぐになんか無くなるはずもなく、行政が騒いで法整備をしたところで、個人の意識改革（特に若い人の意識改革）をどうするかの一言だ。
女性	50歳～54歳	家事専業者	もっと意識して、男女共同参画について学んで知っていきたいと思いました。男女の協力により、より良い家庭、社会を目指す努力を重ねていく必要があると思います。ひとりひとりの意識が大切だと思いました（アンケートに答えて）。

性別	年齢	職業	記入内容
女性	50歳～54歳	家事専業者	世間の意識はなかなか変わらないので、ある程度強制力のある制度は必要だと思う。労働時間軽減、育休等は、男女関係なく行われないと、まわりの目が気になったり、遠慮して制度があっても活用されない。皆が長時間できない、必ず育休をとる。また、その補充員の心配がないなどの条件が整えば、自然に改善していく部分もあるのでは。
女性	50歳～54歳	家事専業者	女性が、結婚・育児などをしながら、安心して働ける為の、福祉の充実をお願いしたいと思います。
男性	55歳～59歳	自営業（農・林・漁業以外）	道路や、役所や、市民会館を作る予算はどんどん実現して行くが、女性が活躍できる予算。例えば、働く女性の社会での参加を増やすための経済援助や、学校や保育所などの近くに子どもを預けられるサービス（病院と預かりが一体となったものなど）への充実。又、家庭での家事の役割分担ができるような教育を、小・中・高・大から、一般の会社にまでモデル表示しながら広める努力。
男性	55歳～59歳	会社役員・経営者	議員や役員の男女比が同等になれば、男女共同参画施策になるとの考え方は違うと思う。男性、女性それぞれの個性、長所、短所等を考慮し、それぞれがお互いの立場を尊重し合い、協力していくことを実現できる意識改革が先に必要と感じる。
男性	55歳～59歳	正規雇用者	行政がすることは、サポートだと思います。環境を整えていくことができると思います。
男性	55歳～59歳	正規雇用者	女性の意見を聴く。男性とはちがう事がわかると思うから。女性の意見を大事にする。
男性	55歳～59歳	正規雇用者	労働時間の短縮。残業0の社会。子どもの運動会（保育園、幼稚園）、学芸会、クリスマス会等の行事。就労側からみれば、日曜出勤が増える。そこで働く人には圧倒的に女性！！介護の関係も同じ。改善して欲しい。
男性	55歳～59歳	正規雇用者	さまざまな組織や会議がつくられているが、現実合っているのか、また、何をしているのかが不明。
男性	55歳～59歳	正規雇用者	小さい頃からの教育が重要と思います。女性の社会進出が増えてきたとはいえ、職場では女性の上司を小バカにする雰囲気があるし（自分も少なからず）、町の自治会でも同様。一朝一夕にはいかない。特に日本では武士の時代から何百年もそうだったから。
男性	55歳～59歳	正規雇用者	大人になると、なかなか昔からの考え方は変えられないので、やはり、子どもの頃からの教え方が大事だと思う。
男性	55歳～59歳	正規雇用者	推進に向けては、環境整備（法的整備も含む）と意識改革（男女とも）の両面が必要だと思う。
男性	55歳～59歳	無職	何が何でも男女平等、男女共同と言うのは如何なものかと思っています。
女性	55歳～59歳	正規雇用者	女性は妊娠、出産という大きな仕事をしなくてはならない。だから「男性と全く同じ条件で仕事をすべき」というのは、物理的に無理があると思う。性の違いを互いに理解し、互いをカバーし合える社会が、本当の意味での男女共同参画と考える。
女性	55歳～59歳	正規雇用者	市議会議員といっても選挙の時だけ必死で、何やっているのか見えてこないです。長野市に役に立っている人、いるのでしょうか？
女性	55歳～59歳	正規雇用者	特にありませんが、育児休暇を取って再就職してきた時は、正職として働く事を条件にとっていると思うのですが、パートになるのは非常にずるいと思います。その所をどうか途中で企業で面談して、早めの方向性をつけるとか決めてほしい。決めるような仕組みを作ってほしい。でないと女性の多い職場では平等にならない。又、制度が変わったのなら知らせてほしいです。アンケートは有効に利用してほしいです。
女性	55歳～59歳	非正規雇用者	男性も女性もそれぞれの特性を持っているので、完全に平等は無理だと思う。両者とも特性を活かしつつ、社会や家庭に貢献できるようにしていけたらと思う。子育てで一番困った事は子どもが病気の時、仕事が休めなかった（休みづらい）。

性別	年齢	職業	記入内容
女性	55歳～59歳	非正規雇用者	本来、肉体的にも精神的にも女性と男性は違うもの。役割もそれぞれにあると思います。無理のない程度にそれぞれが、お互いを尊重し合い社会的にも充実した存在であることができるようになることを望みます。
女性	55歳～59歳	家事専業者	男女共同参画・・・「女性の登用」など、「女性」を特別に何度も表記することが、すでに「共同参画」の意味がなく、「差別」につながっていると思います。アンケートを通して、この差別がいつまで続くのか長い長い道のりになると思います。
男性	60歳～64歳	正規雇用者	学校教育、社会教育に対し、子どもの為に女性（母）に必要な事なので、ある程度は仕事より家庭、優先すべくところもあると思う。
男性	60歳～64歳	正規雇用者	私の若い時よりは、女性に対しての平等性は、少し良くなって来ていると思いますが、まだまだです。今の若い男性は、協力する人が多くなって来ていると思います（女性に対する考え、思いやり）。
男性	60歳～64歳	正規雇用者	なぜ男女共同参画にDVが関係有るのですか？
男性	60歳～64歳	非正規雇用者	若い人達の子育て支援を考えるセクションを市で設置することを望む！
男性	60歳～64歳	非正規雇用者	互いに人を思いやる世の中を作らなければならないと思う。
男性	60歳～64歳	非正規雇用者	この案件は、今に始まったことではないと思います。やはり地域と個々の取り組み。さらに住民全体での意欲の違いがあると思います。
男性	60歳～64歳	非正規雇用者	企業において、賃金格差をなくす事が先決だと思います。
男性	60歳～64歳	非正規雇用者	設問が後半に進むにつれ、どのように答えたらよいのか自信がなくなり、問20に至っては全く分からず、いかに自身に実力のないこと、情けなさを知り、「男女共同参画」の底の深さを改めて認識しました。現在の日本の一部状況についてですが、東京が典型となる一極集中性、経済格差、教育格差、デマゴギーの筆頭であるヘイトスピーチに代表される極端な病的偏見、様々な差別等、重大な社会問題が広がり、そして稀にみる少子高齢化、晩婚化、ついには未婚者の増加など、これまでの社会構造を根底から揺るがすような深刻な事態になっています。これらの諸課題を十分視野に入れ、現実的且つ弾力的に将来性のある「共同参画」に取り組んでいく必要があると思います。
女性	60歳～64歳	自営業（農・林・漁業以外）	性別に関係なく、個人の資質が評価される社会になれば良いと思う。家柄、財産に関係なく、職業に就ける社会になれば良いと思う。真の平等な社会になれば良いが、無理でしょうね。人には欲があるから。
女性	60歳～64歳	正規雇用者	正社員として働くようになり、主人が家事の一部を負担してくれるようになりました。お互いの話し合いの中で、同じように働いていることへの理解を得られるようにもっていくことも大切です。それには、男性にも家事の大変さ、重要性を理解してもらえるような機会の場があればよいと思います。
女性	60歳～64歳	非正規雇用者	改善できるものは改善し、良い世の中に成って欲しいものです。
女性	60歳～64歳	非正規雇用者	私は、元夫のアルコール依存とうつで、DVに悩まされ、自分の仕事も失い、思いあまって家を出ました。住む場所もなく困りましたが、市住を探しましたが、「リコン」していないと無理と言って断られ、困って県住を探し、住宅供給公社に行き、その女性職員に女性センターを教えてもらって、何とかかなりしましたが、市役所では相談にものってもらえずにガッカリしました。専業主婦だったりすると何も知らない事もあり、大変だと思います。相談窓口を広くしてほしいです。
女性	60歳～64歳	家事専業者	男女共同参画は、よりよい社会を作り上げていく上で、重要な事だと思います。まずは、家庭内の男女（夫と妻）が協力し、互いを十分理解し合う所から始まる事だと思います。社会においても、男女の特性を活かし、尊重し、それぞれが力を出し合えるよう願っています。

性別	年齢	職業	記入内容
女性	60歳～64歳	家事専業者	男も女も同じ人間ではあるが、その特性は違う。ここをまちがえないでほしい。介護にしても、女性の目線はやはり男性を上回る場合がある。ここをまちがえないでほしい。あまり行政が先行して、「イクメン」など言わないでほしい。育児や介護は人間としては当り前のこと。役割上のことや、得意分野がある。女性の仕事（会社、家庭でのこと）は大変なのはわかるが、女性がそれをふりかざし、「イクメン」になれないということだけで、評価はまずい。一般的に女性より男性の方が長時間労働をしているときは、お互いにだが、心配りをし、男性をもっと敬う時もあると思う。互いの気持ちがあれば、今何をすべきかと当事者がわかる。あと、女性登用（地域）では大切だが、適任者がやっているとは思えない場合がある。慎重にやっていくべきだと思う。
女性	60歳～64歳	無職	まず第一に、出産と育児を安心して実現できる制度が必要です。仕事から遠ざかりすぎない頃、社会復帰ができるよう、保育園の充実と短時間労働の制度が足がかりとなり、女性が家の中から社会に一步出られます。現実には働きたいが保育園入園に労力がかかり、その段階で一步が出せないのです。卵が先か、にわとりが先か！
女性	60歳～64歳	その他	育児、介護に関しては、主人も長年にわたり単身赴任だったため、結局私が全面的に担当する事となり、育児に於いては10年余り、介護においては13年間（平行している時期有）。私も仕事を続けながらだったので、今思うと、それはそれは壮絶なものでした。ひとえに「男女共同参画」と言いましても、まだまだ色々な方面で検討する事もあまりにも沢山あり、気が遠くなりそうですが、どうか改善へ向けて進めていただけます事を心よりお願い申し上げます。女性が不利な事が多い。改善すべき点は多くあると思います。
男性	65歳～69歳	会社役員・経営者	女性の能力が男性より劣っていることはないで、積極的に役割を果たしていく意欲があれば良いと思う。男性にもあるが、女性には、男女の役割があり仕事や地域活動は男性が主役だ、という意識がまだ強いような気がする。
男性	65歳～69歳	非正規雇用者	男女共同参画と云う意味が充分理解出来ない。分からない。
男性	65歳～69歳	非正規雇用者	男女共同参画と言いつつも、まだ男性社会が主で回っていると思う。女性ももう少し職場などで活躍してほしいし、それを望みます。
男性	65歳～69歳	非正規雇用者	良いことだと思います。
男性	65歳～69歳	無職	早急に周知徹底して明るい市政を進めてほしい。
男性	65歳～69歳	無職	頑張ってください。
男性	65歳～69歳	無職	1. 前提となるものは、女性自身の意識が重要ポイント。 2. それを阻害している社会制度の改革。地域社会での理解と支援。3. 能力評価と登用。
女性	65歳～69歳	会社役員・経営者	このアンケートが役に立つようになると良いと思う。今までアンケートを実施している、という事だけで、何の前進もない場合が多い気がする。是非とも生かしてほしい！
女性	65歳～69歳	非正規雇用者	特に女性だけが虐げられているとは思いませんが、やはり男性中心の社会であることは否定できないと思います。女性議員や女性役員が増えたとしても、議会の運営の仕方が変わらなければ、発言の場のない議員、役員の数が増えたことにすぎないと思います。市役所の中、教育現場の中、教室の中、家庭の中、各々が安心して仕事や活動ができる社会をつくるのが大事だと思います。
女性	65歳～69歳	非正規雇用者	最近では女性の方が社会や事件の事についてよく理解しているのでないか。男と女の役割分担があるので、全面的に同じ様になるのがベストとは思わない。

性別	年齢	職業	記入内容
女性	65歳～69歳	家事専業者	五十代始めで、夫である人が急死した時、嬉しかったものだ。以来、七十才近くになる今日まで、主人というものが居ない嬉しさは、ずっと続いている。周囲にも旦那さんに先立たれ、悲しむ人もいるが、「サバサバした」、「ホッとした」、「今が一番幸せ」、「見るのも嫌な仏壇を、家を新築した息子に体よく押し付けちゃった」等々。なかには「旦那さんがいなくていいね」と羨まし気に言う既婚者が複数いてびっくりする。それだけ男尊女卑の社会なのだ。行政が「男女共同参画」に目を向け、それに向けて何かを施策するというのは、男女平等に向けて幸先のいい事だと思う。男女共に幸せな社会に進む事を願っている。
女性	65歳～69歳	家事専業者	男女平等というよりは、社会・会社において、同僚同士の足のひっぱりあいの方が気になる。そういう嫉妬、妬みのない社会を目指してほしいものです。
女性	65歳～69歳	家事専業者	男女共同参画と主張も良いと思いますが、お互いが持つ役割や性別らしさを理解し、協力して行く事が良いと思います。
女性	65歳～69歳	無職	産まれた時から、男性も女性も、一個人、一人の人間です。権利等は平等に扱うことは当たり前と思います。女性自身も、対社会、対人間を見る目が、まだまだ未熟（自己中心すぎる）な面が多々にあり、自己研鑽が必要だと思います。そして、地域、社会へ積極的に目を向けてほしいと思います。
男性	70歳以上	自営業（農・林・漁業）	日本はまだ地区の会議に出席すると、ほとんど男性ばかり。女性がもう少し積極的に活動することが少ないようです。
男性	70歳以上	自営業（農・林・漁業以外）	現在の推進体制が見えない。息の長い活動と、推進員達の拡充拡大が必要ではないか（昔の推進員より）。
男性	70歳以上	非正規雇用者	社会保障の充実による、育児の充実。北欧の様な高福祉、高負担でよいのではないかと思います。社会保障は望むが、負担はしないというのはスジが通らないと思います。
男性	70歳以上	非正規雇用者	主に女性を意識するのではなく、自然体で良いのでは！女性自身も、もう少し自信を持って積極的に行動してもらいたい。
男性	70歳以上	無職	女性自身→自分の意見をしっかりと持つ、他人に同調しない。女性自身→もっと大きな心で広く、深く見る、考えること。女性自身→深く思考した事を言葉に出す。
男性	70歳以上	無職	1. 家族単位で見たとき、一家族で何人も労働しないと生活できない社会がいいのか疑問。2. 介護サービスの充実の二面性。ア. 介護する側にとってのサービスは充実させる。イ. 受ける側にとっては、質の低下もやむなし。そうすべき。
男性	70歳以上	無職	育休等で復職した場合の待遇改善を図る。育休3年間とし、有給にすること。育休後、復職した時は前の役職に戻す。職場によっては女性が有利の場合もある。
男性	70歳以上	無職	家庭（家族）の安定基盤があつてこそその女性参画と考える。又、地域自治組織に任せきりの諸地域活動ではなく、行政に依る目標主題を定めて設問の気運活性に寄与させる。
男性	70歳以上	無職	女性の社会進出は必要で、大いに頑張してほしいですが、難しいこと、困難な事は男性に頼る、まかせる事のないよう自主自律が必要です。
女性	70歳以上	家事専業者	職場での女性の立場に関しては分かりませんが、地域の中での女性の活躍の場がもっとあっても良いのではないのでしょうか。老若問わず、女性の意見をもっと聞いてほしい、と思います。
女性	70歳以上	家事専業者	男性、女性はもともと異なる存在のため、人権は同じでも何もかも同じことを求めたり、同じことを期待しなくて良いのではないかと。
女性	70歳以上	家事専業者	日常生活で、特に男だから女だからと意識なく生活しています。ただDVだけは絶対に許せませんね。近所に以前ありました。
女性	70歳以上	家事専業者	高齢になり、色々な事が良く分からないです。

性別	年齢	職業	記入内容
女性	70歳以上	無職	同性の仕事上でのネタミを、上司が早く解決する様に。又、男女共管理者としての自分の役割が上手に出来ているのか、管理者教育の必要はないのでしょうか（電通の若い、有能と思われた社員の上司は何をしていたのか）？女性も、女性としての立場だけを強調したのではダメで、今までの男性社会の意識を改善する事がまず先！！

調査票

一般的なことでおたずねします。

問1 あなたは次にあげる分野で男女は平等になっていると思いますか。
それぞれ1つずつお選びください。

	男性が優位	女性が優位	平等である	わからない		問1
1 家庭では	1	2	3	4	→	
2 学校教育の場では	1	2	3	4	→	
3 地域社会では	1	2	3	4	→	
4 職場では	1	2	3	4	→	
5 法律や制度の上では	1	2	3	4	→	
6 習慣・しきたりでは	1	2	3	4	→	
7 政治の場では	1	2	3	4	→	
8 社会全体では	1	2	3	4	→	

問2 次の言葉やことがらについて、知っているか、または聞いたことがありますか。
それぞれ1つずつお選びください。

	知っている	聞いたことがある	知らない		問2
1 男女共同参画社会	1	2	3	→	
2 ジェンダー（社会的差別）	1	2	3	→	
3 女子差別撤廃条約	1	2	3	→	
4 男女雇用機会均等法	1	2	3	→	
5 長野市男女共同参画推進条例	1	2	3	→	
6 長野市男女共同参画センター	1	2	3	→	
7 女性活躍推進法	1	2	3	→	

問3 あなたが考える「男女共同参画社会」はどのような社会ですか。
お考えに近いものを3つまでお選びください。

- 1 法律や制度の上で男女の差がなくなる社会
- 2 政府や企業などの重要な役職に一定の割合で女性が登用されている社会
- 3 男女ともに仕事と生活の調和がとれている社会
- 4 男女が責任を分かち合い、性別にかかわらず個性と能力を發揮することができる社会
- 5 男女を取り巻く偏見や固定的な社会通念、慣習、しきたりなどが解消された社会
- 6 その他（ ）

問3

問8 女性が意欲をもって働き続けるためには、何が必要だと思いますか。
該当するものを3つまでお選びください。

- | | | |
|-----------------------------------|--------------------|---------------|
| 1 女性の積極的登用 | 2 能力開発、自己啓発 | 3 労働時間の短縮 |
| 4 福利厚生の実施 | 5 賃金の男女平等 | 6 非常勤職員の正規職員化 |
| 7 家族の理解や協力 | 8 職場の理解や協力 | 9 女性自身の意識改革 |
| 10 育児・介護休業制度の実施 | 11 育児・介護サービスや施設の実施 | |
| 12 相談窓口の実施 | | |
| 13 ロールモデル（自分が目指したい事を実践している手本となる人） | | |
| 14 その他 | [] | |

問8

問9 出産・育児などで離職した女性が再就職を希望する場合、どのような支援や対策が必要だと思いますか。該当するものを3つまでお選びください。

- | | |
|---------------------------|-----------------|
| 1 離職しても同一企業に再雇用されるようにすること | |
| 2 求人情報や就職ガイダンスの実施 | 3 就職に関する相談体制の実施 |
| 4 再就職のための講座やセミナーの実施 | 5 求人者の年齢制限の緩和 |
| 6 子育てや介護をしながら働ける労働環境の整備 | 7 女性の働く場を多くすること |
| 8 保育所などの保育施設の実施 | 9 介護・医療施設などの実施 |
| 10 その他 | [] |

問9

「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」に関することでおたずねします。

問10 あなたは、「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」という言葉をご存知ですか。
次の中から1つお選びください。

- 1 言葉も内容も知っている
- 2 言葉は聞いたことがあるが内容は知らない
- 3 知らない

問10

問11 「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活（学習、趣味、付き合い等）」の優先度について、あなたが理想とする（希望する）生活に最も近いものを1つお選びください。

- 1 「仕事」優先
- 2 「家庭生活」優先
- 3 「地域活動・個人の生活」優先
- 4 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
- 5 「仕事」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
- 6 「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
- 7 「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先

問11

問12 「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活」の優先度について、あなたの現実（現状）の生活に最も近いものを1つお選びください。

- 1 「仕事」優先
- 2 「家庭生活」優先
- 3 「地域活動・個人の生活」優先
- 4 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
- 5 「仕事」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
- 6 「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
- 7 「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先

問12

問 13 あなたは次にあげる家事をしていますか。
あてはまる番号を1つずつお選びください。

	主に自分が している	自分と家族 が同じ程度 している	自分は手伝 い程度して いる	していない		問 13
1 掃除	1	2	3	4	→	
2 洗濯	1	2	3	4	→	
3 食料品、日用品などの 買物	1	2	3	4	→	
4 食事のしたく	1	2	3	4	→	
5 食事の後かたづけ	1	2	3	4	→	
6 ごみ捨て	1	2	3	4	→	

問 14 身近に育児または介護の対象者がいる方におたずねします。
あなたは育児または介護をどの程度していますか。
あてはまる番号を1つずつお選びください。

	主に自分が している	自分と家族 が同じ程度 している	自分は手伝 い程度して いる	していない		問 14
1 育児（お孫さんを含む）	1	2	3	4	→	
2 介護	1	2	3	4	→	

問 15 男性が「育児・介護休業制度」を利用することが進まないのは、どうしてだと思いますか。
主な理由を次の中から3つまでお選びください。

- 1 主たる家計の稼ぎ手は男性だから
- 2 職場や同僚に迷惑がかかるから
- 3 利用しにくい雰囲気があるから
- 4 上司がいい顔をしないから
- 5 育児、介護は女性の方が向いているから
- 6 他に育児、介護をする人がいるから
- 7 昇給、昇格に影響すると考えるから
- 8 男性で制度を利用する人がほとんどいないから
- 9 制度の整備が不十分だから
- 10 その他（具体的に

問 15

問 16 今後、女性と男性がともに仕事・家事・育児・介護・地域活動等に積極的に参加していくためには、どのようなことが重要だと思いますか。

次の中から3つまでお選びください。

- 1 男女の固定的な役割分担意識を改める
- 2 夫婦や家族間のコミュニケーションをはかる
- 3 方針・政策決定の場に女性を積極的に登用する
- 4 雇用機会や昇進など、職場での男女平等をはかる
- 5 労働時間短縮や取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させる
- 6 社会の中で男性による家事・育児・介護・地域活動の評価を高める
- 7 男性の関心を高めるよう啓発や情報提供を行う
- 8 男性のための仲間（ネットワーク）作りをすすめる
- 9 男性が相談しやすい窓口を設ける
- 10 官民ともに家事・育児・介護に係るサービスを充実させる
- 11 その他（具体的に
- 12 特に必要なことはない

問 16

「地域社会」に関することでおたずねします。

問 17 あなたが住んでいる地域では、自治会・PTA・そのほかの地域での活動において次のような事例が見受けられますか。あてはまる番号を1つずつお選びください。

	そうである	そうではない	わからない		問 17
1 自治会やPTAの会長は男性と決まっている	1	2	3	→	
2 自治会やPTAの責任ある役職はほとんどが男性である	1	2	3	→	
3 役員や組織の運営事項は男性だけで決めている	1	2	3	→	
4 実際の仕事は妻がしているのに、名義は夫になっている	1	2	3	→	
5 女性自身が責任ある役職につくのを避けている	1	2	3	→	
6 女性が責任ある役職につこうとすると、男性や他の女性から反対される	1	2	3	→	

問 18 女性も地域の重要な方針決定の場に出ていただく必要があります。あなたは、どうすればそれが可能だと思いますか。次の中から1つお選びください。

- 1 役員のなかの女性の割合を定めるなどの、積極的改善措置（ポジティブ・アクション）※1を導入すること
- 2 積極的改善措置（ポジティブ・アクション）は導入しないが、男性中心の役員構成ではなく、女性も活躍できるような組織づくりを導入すること
- 3 女性が活動し、活躍できるように家族が協力すること
- 4 女性が積極的に役職につく意識をもつこと
- 5 その他（具体的に

問 18

※1 積極的改善措置（ポジティブ・アクション）…男女共同参画に関し、男女間の格差を改善するために必要な範囲内において、男女のいずれか一方に対し、当該機会を積極的に提供することをいう

男女の「人権」に関することでおたずねします。

※2

問 19 身近な人（夫・妻・恋人）からの暴力が、DV（ドメスティック・バイオレンス）として問題になっています。次にあげる行為は、DVにあたる行為です。あなたは、今までにこれらの行為を受けた又はしたことがありますか。
 あてはまる番号を1つずつお選びください。

※2 DV（ドメスティック・バイオレンス）…配偶者等に身体的又は精神的な苦痛を与える暴力的行為

	受けたことがある	したことがある	受けたこともしたこともある	受けたこともしたこともない		問 19
1 刃物を突きつけ、「殺す」とおどす	1	2	3	4	→	
2 なぐる、ける	1	2	3	4	→	
3 物を投げつけたり壊したりする	1	2	3	4	→	
4 髪の毛をつかんで引きずり回す	1	2	3	4	→	
5 大声で怒鳴る	1	2	3	4	→	
6 メールや郵便物、行動を細かく監視する	1	2	3	4	→	
7 「だれのおかげで生活できるんだ」とか「出て行け」と言う	1	2	3	4	→	
8 何を言っても無視し続ける	1	2	3	4	→	
9 生活費を渡さない	1	2	3	4	→	
10 嫌がっているのに性的行為を強要する	1	2	3	4	→	
11 避妊に協力しない	1	2	3	4	→	

問 20 あなたはDV（ドメスティック・バイオレンス）にあったとき、相談するところをご存知ですか。知っている相談窓口すべてをお選びください。

- 1 長野県女性相談センター
- 2 児童虐待・DV 24時間ホットライン
- 3 長野市福祉事務所（長野市役所子育て支援課内、篠ノ井支所内）
- 4 女性の人権ホットライン
- 5 県警女性被害犯罪ダイヤルサポート110
- 6 県警（地域安全推進係）
- 7 長野犯罪被害者支援センター
- 8 長野市男女共同参画センター

問 20	

問 21 DV(ドメスティック・バイオレンス)についてあなたの考えに最も近いのはどれですか。
次の中から1つお選びください。

- 1 どんな場合でも重大な人権侵害にあたると思う
- 2 どんな場合でも人権侵害にあたると思う
- 3 人権侵害にあたる場合も、そうでない場合もあると思う
- 4 人権侵害にあたるとは思わない
- 5 わからない

問 21

「男女共同参画施策」に関することでおたずねします。

問 22 平成 28 年 4 月 1 日現在の長野市議会議員のうち女性議員の数(割合)は6人(15.4%)、平成 28 年 4 月 1 日現在の住民自治協議会における女性役員の数(割合)は417人(15.7%)となっています。

このことについて、あなたの考えに最も近いものを1つお選びください。

- 1 現在より大幅に増えた方がよい
- 2 現在より少し増えた方がよい
- 3 現状でよい
- 4 現状より少なくてよい
- 5 わからない

問 22

問 23 女性も男性も対等なパートナーとして社会のあらゆる分野に参画していく男女共同参画社会を実現していくために、行政に期待することはどのようなことですか。
特に重要だと思うものを3つまでお選びください。

- 1 法律や制度の見直しによる女性に不利なものの改善
- 2 政策・方針決定の場への女性の登用促進
- 3 学校教育や社会教育の場で男女の人権を尊重する学習の充実
- 4 女性の人材育成の推進
- 5 女性に対する就業支援や職業教育・訓練の充実
- 6 育児や介護に関するサービスの充実
- 7 夫婦関係や就労などについての相談窓口の充実
- 8 男女共同参画に関する情報提供の充実
- 9 情報提供や総合相談、女性の就労支援などを総合的に行う拠点施設の整備
- 10 企業に対する就労条件の改善策の啓発
- 11 職場における男女の平等な扱いについて企業への周知徹底
- 12 その他(具体的に

問 23

問 24 「男女共同参画」について、ご意見・ご要望がありましたら、ご記入ください。

お忙しいところご協力いただき、誠にありがとうございました。

記入もれ等を確認いただき、同封の返信用封筒に調査票を入れ **11月18日(金)まで** にポストへご投函ください。

平成29年1月発行

発行 長野市

編集 長野市市民生活部 人権・男女共同参画課

長野市大字鶴賀緑町 1613 番地 電話 026 (224) 5032 (直通)

E-mail : jinken-danjo@city.nagano.lg.jp

集計 協同組合長野シーアイ開発センター